

桜ヶ岡公園遺跡

第5次発掘調査報告書

桜ヶ岡公園遺跡

—第5次発掘調査報告書—

二〇二一年二月

2021年2月

仙台市教育委員会

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書 第487集

桜ヶ岡公園遺跡

—第5次発掘調査報告書—

2021年2月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日頃からご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には旧石器時代から近世にいたるまで約 780 か所の遺跡が残されており、これらは仙台市の歴史を構成する貴重な文化遺産です。当教育委員会といたしましても遺跡の保存・活用を図りながら次の世代へ引き継いでいけるよう努めています。

本報告書は西公園（桜ヶ岡公園）の再整備事業に伴い平成 27・28 年度、令和元年度に実施されました。桜ヶ岡公園遺跡第 5 次発掘調査の成果を収録しています。

西公園は明治 8 年に開園した仙台市で最も古い都市公園であり、市民の憩いの場として長く親しまれてきました。しかし、公園施設の老朽化、天文台や図書館の移転、地下鉄東西線大町西公園駅の建設等により取り巻く状況が大きく変化したことから、平成 19 年度から段階的に再整備を行っているところです。

桜ヶ岡公園遺跡がある西公園周辺は、江戸時代の絵図では伊達家家臣の屋敷地や武家奉公人の居住地として描かれており、今回の発掘調査でも江戸時代の瓦や陶磁器が発見されています。

本報告書が研究者のみならず幅広く活用されることで、文化財保護活動と郷土理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書作成に際してご協力、ご助言をいただきました多くの方々に、心より深く感謝を申し上げます。

令和 3 年 2 月

仙台市教育委員会

教育長 佐々木 洋

目 次

序 文・例 言・凡 例

目 次

第 1 章　はじめに.....	1
1.　調査に至る経緯.....	1
2.　調査要項.....	1
第 2 章　地理的環境と歴史的環境.....	2
1.　地理的環境.....	2
2.　歴史的環境.....	2
第 3 章　平成 27 年度の調査.....	5
1.　調査方法と経過.....	5
2.　基本層序.....	6
3.　検出遺構と遺物.....	7
第 4 章　平成 28 年度の調査.....	15
1.　調査方法と経過.....	15
2.　基本層序.....	15
3.　検出遺構と遺物.....	16
第 5 章　令和元年度の調査.....	19
1.　調査方法と経過.....	19
2.　基本層序.....	19
3.　検出遺構と遺物.....	22
第 6 章　まとめ.....	60
引用・参考文献	
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

第 1 図 桜ヶ岡公園遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第31図 R1 31区平断面図	34
第 2 図 調査区周辺の変遷	4	第32図 R1 45区(III-2層) 平断面図	35・36
第 3 図 平成27・28年度調査区配図	5	第33図 R1 45区(III-2層) SD1・2・3, SK27 平断面図	37
第 4 図 平成27年度調査基本層序柱状図	6	第34図 R1 45区(III-2層) SD2出土遺物	38
第 5 図 H27 1区平断面図	7	第35図 R1 45区(III-2層) SK1・2 平断面図	38
第 6 図 H27 2区平断面図	8	第36図 R1 45区(III-2層) SK1出土遺物	39
第 7 図 H27 4区平断面図	9	第37図 R1 45区(III-2層) SK4・7 平断面図	40
第 8 図 H27 5区平断面図	10	第38図 R1 45区(III-2層) SK4出土遺物	40
第 9 図 H27 6区平断面図	11	第39図 R1 45区(III-2層) SK5・8・9, P6 平断面図	41
第10図 H27 6区SK3・4出土遺物	12	第40図 R1 45区(III-2層) SK12・23・26 平断面図	42
第11図 H27 9区平断面図	13	第41図 R1 45区(III-2層) SK8・9・12出土遺物	42
第12図 H27 13区平断面図	14	第42図 R1 45区(III-2層) SK12・23・26, P1～4・7・10・18 平断面図	44
第13図 平成28年度調査区配図図、基本層序柱状図	15	第43図 R1 45区(III-2層) P20・34～36 平断面図	45
第14図 平成28年度調査区平断面図	16	第44図 R1 45区(IV-2層) P2・34出土遺物	46
第15図 平成28年度調査区断面図	17	第45図 R1 45区(IV-1層) 平面図	47
第16図 H28 SK1出土遺物	18	第46図 R1 45区(IV-1層) SD5, SK6・13 平断面図	48
第17図 令和元年度調査区配図図	20	第47図 R1 45区(IV-1層) SD5・SK13出土遺物	49
第18図 令和元年度調査基本層序柱状図	21	第48図 R1 45区(IV-1層) P11～13・31 平断面図	50
第19図 R1 1区平断面図	22	第49図 R1 45区(VI層) SD4, SK14・15 平断面図	51
第20図 R1 6区平断面図	23	第50図 R1 45区(VI層) 平面図	52
第21図 R1 9区平断面図	24	第51図 R1 45区(VI層) SK15出土遺物	53
第22図 R1 10区平断面図	25	第52図 R1 45区(VI層) SK18・25 平断面図	53
第23図 R1 15区SD9, P17・30 平断面図	26	第53図 R1 45区(VI層) P15・19・21・23・24 平断面図	54
第24図 R1 15区P17出土遺物	26	第54図 R1 46区平断面図	55
第25図 R1 18区SA2平断面	27	第55図 R1 51区平断面図	56
第26図 R1 18区SK16・24, SD10, P8・9・25・33 平断面図	28	第56図 R1 52区平断面図	57
第27図 R1 25区平断面図	30	第57図 R1 68区平断面図	58
第28図 R1 25区SA1, SD6・11・14, SK20 平断面図	31	第58図 R1 69区平断面図	59
第29図 R1 26区平断面図	32	第59図 仙台城下団屏風	60
第30図 R1 30区平断面図	33		

図 版 目 次

写真図版 1 平成27年度調査	63	写真図版 9 令和元年度調査(7)	71
写真図版 2 平成28年度調査	64	写真図版 10 令和元年度調査(8)	72
写真図版 3 令和元年度調査(1)	65	写真図版 11 令和元年度調査(9)	73
写真図版 4 令和元年度調査(2)	66	写真図版 12 令和元年度調査(10)	74
写真図版 5 令和元年度調査(3)	67	写真図版 13 令和元年度調査(11)	75
写真図版 6 令和元年度調査(4)	68	写真図版 14 出土遺物(1)	76
写真図版 7 令和元年度調査(5)	69	写真図版 15 出土遺物(2)	77
写真図版 8 令和元年度調査(6)	70	写真図版 16 出土遺物(3)	78

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

桜ヶ岡公園遺跡第5次発掘調査は、宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に所在する西公園の再整備事業に伴い実施した調査である。西公園は明治8(1875)年に開園した仙台市で最も古い都市公園である。明治から現在までの間、花見の名所等として市民に親しまれてきたが、園内施設の老朽化や地下鉄東西線の開通等、公園を取り巻く状況が大きく変化したことから、仙台市建設局百年の杜推進部公園課が平成19年度から段階的に再整備を行うこととなつた。

桜ヶ岡公園遺跡は、地下鉄東西線建設事業に伴って実施された試掘・確認調査によって近世の遺構が確認され、平成19(2007)年に登録された遺跡である。その後、平成19～22年に地下鉄東西線建設工事に伴う調査(第1次調査)、平成19・20年に桜岡大神宮北側の旧仙台市西公園野球場を中心とした整備に伴う調査(第2次・第3次調査)、平成22年に国道48号線北側の西公園北半部の整備に伴う調査(第4次調査)が行われている。

今回の調査は、平成22年3月30日付建百公第1809号で提出された協議書(平成22年4月30日付H22教生文第117-1号で伝達)に基づき、国道48号線南側の西公園南半部を対象に平成27・28年度、令和元年度の3回にわたって実施した。平成27年度調査は桜岡大神宮南側の整備に伴うもの、平成28年度調査は仙台中央警察署大町交番北側の公衆トイレ設置に伴うもの、令和元年度調査は市民プール跡地の整備に伴うものである。

2. 調査要項

遺跡名称 桜ヶ岡公園遺跡(宮城県遺跡登録番号01562)

調査原因 西公園再整備事業

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 平成27・28年度調査

仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係

主　　事 小林 航

文化財教諭 佐藤 慶一

笠原 悅(平成27年度調査)

令和元年度調査・令和2年度報告書作成刊行

仙台市教育局生涯学習部文化財課調査指導係

主　　事 高橋 純平

専　門　員 主演 光朗

調査組織 令和元年度調査・令和2年度報告書作成刊行

株式会社 三協技術

調　　査　員 菊池 豊(令和元年度調査)

小野寺 純也(報告書作成刊行)

調査補助員 佐々木 華子

計　測　員 佐々木 薫(令和元年度調査)

山谷 信夫(報告書作成刊行)

計測補助員 萩原 知也(令和元年度調査 令和元年7月1日～12月26日)

佐藤 祐香(令和元年度調査 令和2年1月27日～3月19日)

調査期間	平成27年度調査	平成27年6月8日～7月8日
	平成28年度調査	平成28年7月4日～7月27日
	令和元年度調査	令和元年6月26日～令和2年3月19日
	報告書作成刊行	令和2年7月10日～令和3年3月5日
調査対象面積	平成27・28年度調査	1,002.25 m ²
	令和元年度調査	30,571.00 m ²
調査面積	平成27年度調査	132.92 m ²
	平成28年度調査	47.18 m ²
	令和元年度調査	695.00 m ²

第2章 地理的環境と歴史的環境

1. 地理的環境

桜ヶ岡公園遺跡は、仙台駅から西へ約1.7 kmの仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に位置する近世の遺跡である。遺跡の範囲は東西約350 m、南北約660 m、面積は約108,300 m²であり、遺跡範囲のほとんどが西公園の敷地である。西公園は国道48号線を境に南北に分かれており、第5次調査区は南半部に位置している。桜ヶ岡公園遺跡は広瀬川によって形成された河岸段丘である中町段丘と下町段丘上に立地している。標高は約32～46 mで中町段丘と下町段丘の境は比高差10 m以上の段丘崖になっている。平成27・28年度調査地点は中町段丘上に、令和元年度調査地点は下町段丘上に位置している。遺跡周辺には仙台城跡をはじめ複数の近世の遺跡が分布している（第1図）。

2. 歴史的環境

桜ヶ岡公園遺跡周辺は、仙台城跡を中心とした近世の遺跡が分布する地域である（第1図）。仙台城は仙台藩初代藩主伊達政宗によって築城された平山城であり、明治維新まで藩政の中心を担ってきた。現在、江戸時代の建物は災害等により失われているが、発掘調査によって本丸大広間跡や造酒屋敷跡等が確認されている。近世の絵図によると仙台城跡周辺は武家屋敷地であり、桜ヶ岡公園遺跡周辺も「伊達安房殿（亘理伊達家）」等の大身の武家屋敷地となっている。

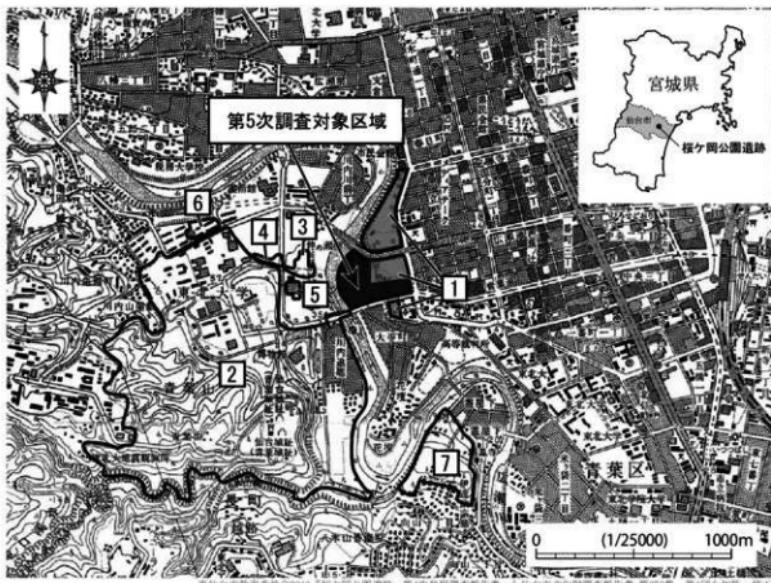
平成27・28年度調査を行った西公園南半部の中町段丘側は正保2・3(1645・1646)年の「奥州仙台城下絵図」では「侍屋敷」となっている（第2図-1）。寛文4(1664)年の「仙台城下絵図」以降の絵図では北側が亘理伊達家の屋敷地となり、東側は小割された屋敷地となっている（第2図）。南側は年代によって記された名が変わっており、寛文4(1664)年の「仙台城下絵図」では「片倉小十郎」、延宝9年～天和年間(1681～1683)の「仙台城下絵図」、元禄4・5(1691・1692)年の「仙台城下五聲掛絵図」では「津田民部」、宝暦～明和年間(1751～1772)の「仙台城下絵図」、天明6年～寛政元年(1781～1789)の「仙台城下絵図」では「古内要人」、安政3年～6年(1856～1859)の「安政補正改革仙府絵図」では「古内左近介」と「大内縫殿（ぬい）」の名が記されている（第2図-2～7）。

明治時代になると「伊達藤五郎（亘理伊達家）」、「古内左近介」、「大内縫殿」の屋敷地が公園として整備され、明治8(1875)年に桜ヶ岡公園（現・西公園）として開園された。公園開園前の明治5(1872)年には神明宮（現・桜岡大神宮）が伊勢堂山（現・青葉区千代田町）から移転されている。そのほかにも明治19(1886)年には和洋料理店「挹翠館（ゆうすいかん）」が建設され、明治27(1894)年には立町尋常高等小学校（現・仙台市立立町小学校）が立町330番地から移転され、昭和3(1928)年には東北産業博覧会の会場として使用される等、桜ヶ岡公園は市民

に親しまれてきたが、昭和20(1945)年7月10日の仙台空襲により園内の施設はほとんど焼失してしまう。その後、桜ヶ岡公園は戦災復興都市計画によって再整備され名称を西公園と改めて、現在へ至っている。

令和元年度に調査を行った西公園南半部の下町段丘側は正保2・3(1645・1646)年の「奥州仙台城下絵図」では「中間（武家奉公人）屋敷」となっている（第2図-1）。寛文4(1664)年の「仙台城下絵図」以降の絵図では「御小人（武家奉公人）」の居住地のほか「御作事方會所」等の藩の施設も置かれており（第2図-2～7）、中町段丘側との土地利用に違いがみられる。

明治時代からは住宅地として利用された。昭和16(1941)年には仙台市立仙台中学校（現・仙台市立仙台高等学校）の校舎が建設されている。しかし、昭和20(1945)年7月10日の仙台空襲で焼失したため、昭和23(1948)年に北八番丁（現・仙台市青葉区柏木3丁目）へ移転した。昭和36(1961)年からは市民プールとして利用されたが、平成18(2006)年に閉鎖され、現在に至っている。

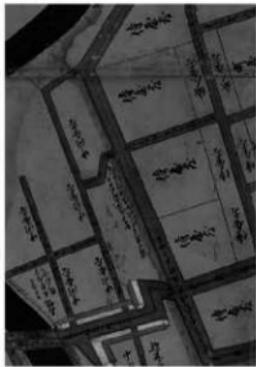


※仙台市教育委員会2010『桜ヶ岡公園遺跡 第4次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書 第35集 第1回を加筆・修正

番号	遺跡名	種別	時代	備考
1	桜ヶ岡公園遺跡	施設跡	調文、近世	
2	仙台城跡	城郭跡	中、近世	国指定史跡・国定天然記念物「青葉山」を含む
3	川内A遺跡	施設跡	調文、近世	
4	川内B遺跡	施設跡	近世	
5	川内C遺跡	散在地	調文、近世	
6	川内武家邸遺跡	施設跡	近世	
7	諸ヶ峯伊達家墓所	墓所	近世	伊達政宗・忠宗・綱宗の墓所

第1図 桜ヶ岡公園遺跡の位置と周辺の遺跡

2. 歷史的環境



1 岩州山形城下絵図（正保 2・3（1645～1646）年）
仙台市博物館蔵



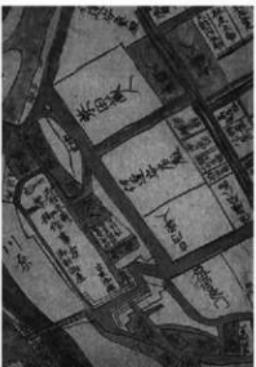
2 山形城下絵図（寛文 4（1664）年）
宮城県図書館蔵



3 山形城下絵図（寛宝 9～天和半間（1681～1683）年）
仙台市歴史民俗資料館蔵



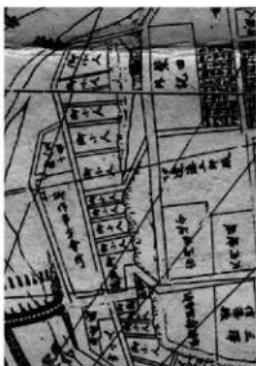
4 山形城下五醍醐絵図（元禄 4・5（1691～1692）年）
仙台市博物館蔵



5 山形城下絵図（宝曆～明和（1751～1772）年間）
仙台市博物館蔵



6 山形城下絵図（天明 6～寛政元（1786～1789）年）
仙台市博物館蔵



7 安政改正山形城下絵図（安政 3～6（1856～1859）年）
戦争で焼失



8 塙畠区及近傍村落之圖（明治 15（1882）年）
仙台市博物館蔵



9 大日本輿別明細圖（昭和 8（1933）年）
仙台市歴史民俗資料館蔵

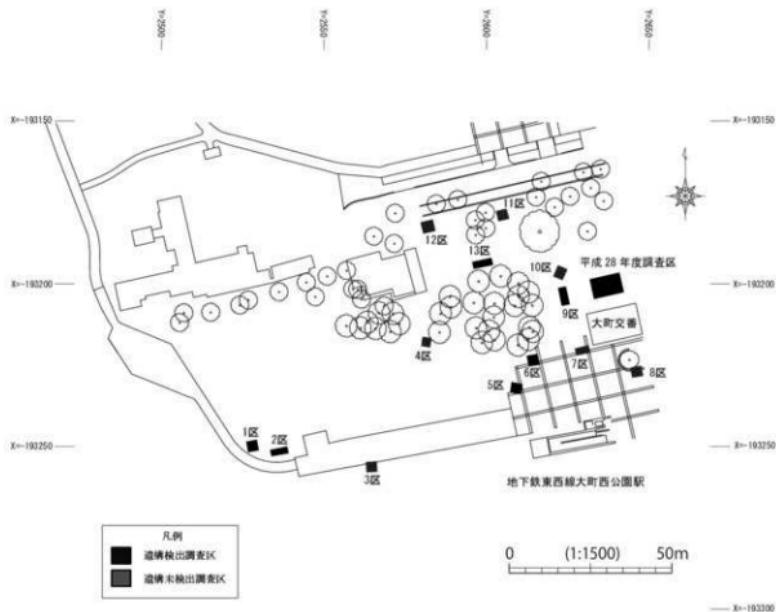
第2図 調査区周辺の変遷

第3章 平成27年度の調査

1. 調査方法と経過

平成27年度の調査対象地は櫻岡大神宮の南側の西公園南東部である。西公園再整備計画に基づいた13か所に調査区を設定し、重機掘削のち人力による掘削と精査を行い、必要に応じて記録の写真撮影を行い、平面面図を作製した。調査面の深さは再整備計画の工事掘削深度までを原則としたが、3・7・8区については重機掘削中に埋設管標識が見つかったため、その時点で掘削を中止し、記録を作成したち埋め戻した。

調査は平成27年6月8日に着手し、1区から重機掘削を開始した。重機掘削が終了した調査区から順次調査を行い、調査終了後、順次埋め戻した。平成27年7月7日に全ての調査区の埋め戻しが終了したため、調査を終了した。



第3図 平成27・28年度調査区配置図

2. 基本層序(第4図)

基本層は大別6層に分かれる。各層については以下のとおり。

I層は現代の表土層である。第1次調査駅舎等調査区のI a層(現代盛土層)に相当する。

II層は黒褐色シルトで炭化物や焼土を含む層である。I層直下で確認できることや炭化物、焼土を含むことから第1次調査駅舎等調査区のI b層(近代盛土層)に相当すると考えられる。

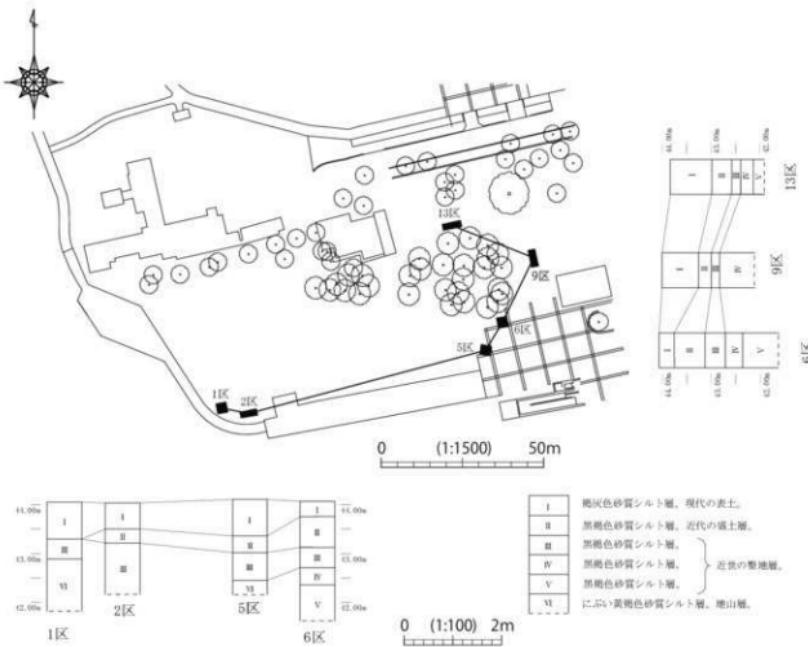
III層は黒褐色砂質シルトで礫や炭化物を含む層である。主体となる土壤が類似することや礫や炭化物を含むこと、確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のII層(近世の盛土・整地層)に相当すると考えられる。

IV層は黒褐色砂質シルトで礫を含む層である。主体となる土壤が類似することや礫を含むこと、確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のIII a層(近世の盛土・整地層)に相当する可能性がある。

V層は黒褐色砂質シルトで礫、炭化物、焼土を微量に含む層である。主体となる土壤が類似することや確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のIV c層(自然堆積層)に相当する可能性がある。

VI層は褐色砂質シルトで礫を多量に含む自然堆積層である。このことから第1次調査駅舎等調査区のV・VI層(自然堆積層)に相当すると考えられる。

調査範囲が広範であるため、同じ基本層でも調査区ごとに土質・色調・混入物等に違いがみられる。



第4図 平成27年度調査基本層序柱状図

3. 検出遺構と遺物

1～13区の調査区のうち1・2・4～6・9・13区の計7区から土坑2基、性格不明遺構11基、ピット2基を検出した。各調査区の配置は第3図のとおり。

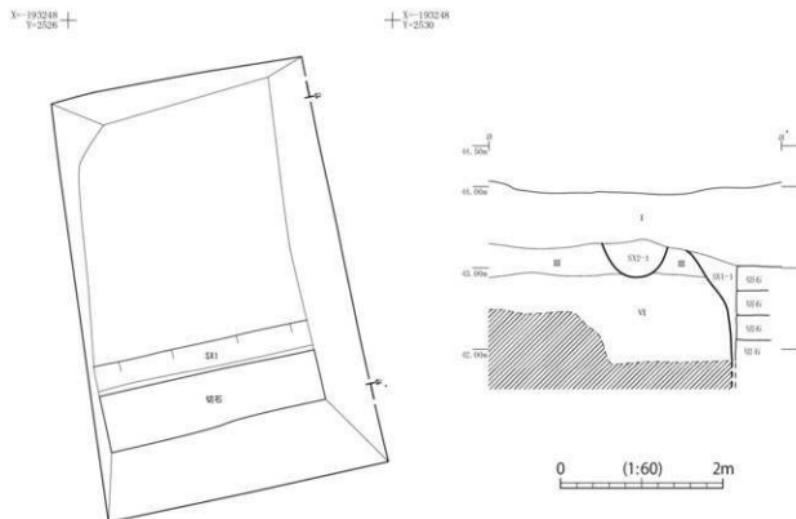
以下、遺構を検出した調査区について説明する。

1 区 (第5图)

東西 1.77 m、南北 2.58 m (4.57 m²) の調査区である。表土下 1.05 m (標高 42.89 m) のⅥ層上面で性格不明遺構 1 基と断面観察により性格不明遺構 1 基を検出した。その後下層の状況確認のため表土下 2.1 m (標高 41.81 m) まで掘り下げたが層位に変化はみられなかった。

S X 1 性格不明遺構（第5図）

調査区南端で検出した切石積みの構造物をもつ遺構である。規模は東西 2.7 m 以上、南北 1.05 m 以上である。北辺の一部のみの検出であり、東辺、西辺、南辺は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは 1.02 m 以上で断面形は不明である。切石の方向は N-67°-E である。堆積土は単層であり、層中に切石積みの構造物を確認していることから堀方埋土である。表土下 2.1 m (標高 41.81 m) まで掘り下げ切石が 4 段まで積まれていることを確認したが、安全を考慮しこれ以上の調査を行わなかった。2 区の SKA と検出位置が近く切石の方向が類似していることから、この構造物も SKA の構造物である可能性がある。



調査区・遺跡名	層位	土色	土性	剖面物・備考
I 区	I 層	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	泥多量含む。
	II 層	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	泥多量含む。
	VI 層	褐色 (10YR4/6)	砂質シルト	泥多量含む。
SX1	I 層	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	泥多量含む。
SX2	I 層	ぶい・黒褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	堆土粒・炭化物含む。

第5図 H27 1区平断面図

ることから同一の遺構である可能性がある。

櫻岡大神宮の南側には明治時代に「抱翠館」や公会堂が建っていたことから、SX1はこれらに関連する遺構の可能性がある。遺物は出土していない。

S X 2 性格不明遺構（第5図）

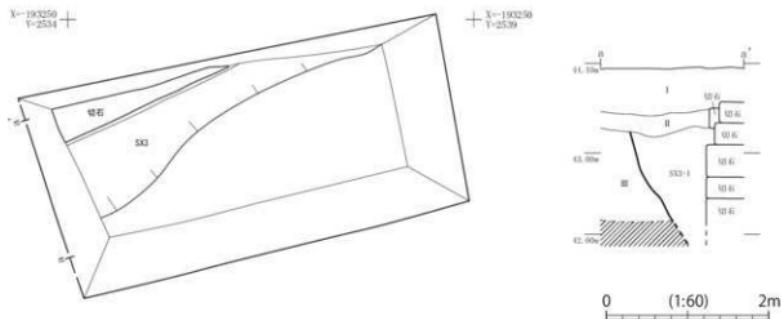
調査区東壁で検出した性格不明遺構である。規模は東西 0.79 m で平面形は不明である。深さは 0.46 m で断面形は半円形を呈する。堆積土は単層である。炭化物や焼土、瓦を含むことから人為堆積と考えられる。断面観察により III 層が検出面であることを確認した。遺物は出土していない。

2 区（第6図）

東西 5.25 m、南北 2.58 m (13.54 m²) の調査区である。表土下 0.93 m (標高 43.1 m) の III 層上面で性格不明遺構 1 基を検出した。その後下層の状況確認のため表土下 1.88 m (標高 42.15 m) まで深掘りしたが層位に変化はみられなかった。

S X 3 性格不明遺構（第6図）

調査区北側で検出した切石積みの構造物をもつ遺構である。規模は東西 4.08 m 以上、南北 1.47 m 以上で平面形は不明である。深さは 1.16 m で断面形は不明である。切石の方向は N-65° -E である。堆積土は単層であり、層中に切石積みの構造物を確認していることから堰方埋土である。表土下 1.88 m (標高 42.15 m) まで掘り下げ切石が 5 段まで積まれていることを確認した。底面は確認できなかつたが安全を考慮しこれ以上の調査を行わなかつた。1 区の SX1 と検出位置が近く切石の方向が類似していることから同一の遺構の可能性があり、SX1 と同様に明治時代の「抱翠館」や公会堂に関連する遺構である可能性が考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	産入物・備考
2 区	I 層	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	繊維量含む。
	II 層	黒色 (10W2/1)	砂質シルト	溶けたガラス片・瓦・レンガ含む。
	III 層	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	繊維量含む。
SX3	I 層	黄褐色 (10YR5/6)	砂	切石基礎方埋土。繊維含む。

第6図 H27-2区平断面図

4区（第7図）

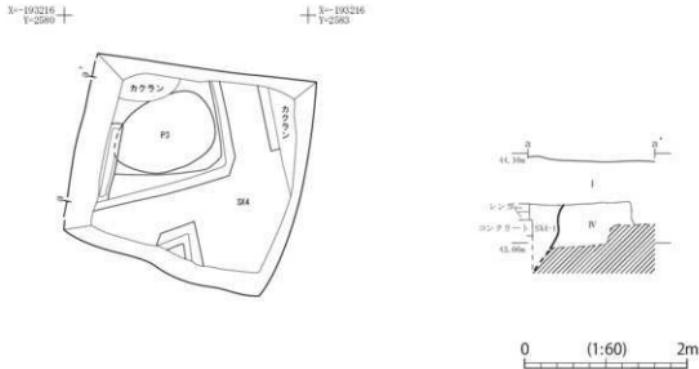
東西2.72m、南北2.7m (7.34 m²) の調査区である。表土下0.56m (標高43.45m) のVI層上面で性格不明遺構1基、ピット1基を検出した。この調査区は遺構を検出した段階で再整備計画の工事掘削深度に達していたため、遺構検出のみに留めている。

SX4 性格不明遺構（第7図）

調査区のほぼ全面で検出した煉瓦積み構造物をもつ遺構である。規模は東西2.46m以上、南北2.39m以上で4辺全てが調査区外へ延び、東側の一部は攪乱により削平される。平面形は不明である。深さは0.53m以上で断面形は不明である。他の遺構との重複関係はない。堆積土は単層であり、層中に煉瓦積み構造物を確認したことから堀方埋土である。煉瓦積み構造物は煉瓦とコンクリートで作られている。構造はコンクリートの上に煉瓦が2段積まれており、煉瓦はコンクリートの端から0.1m程度内側に積まれ、漆喰で固定されている。SX4は煉瓦積み構造物にコンクリートが使用されていることから近代以降のものと考えられる。SX1・2と同様に明治時代の「抱翠館」や公会堂に関連する遺構の可能性がある。遺物は出土していない。

P3 ピット（第7図）

調査区北西部で検出したピットである。規模は長軸1.3m、短軸0.9mで北端を攪乱により削平される。平面形は梢円形を呈する。検出のみのため深さと断面形は不明である。他の遺構との重複関係はない。堆積土に礫を多量に含むことから、根固め石をもつ礎石跡の可能性がある。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	流入物・備考
4区	I層	褐色 (10YR4/1)	砂質シルト	繊少量含む。
	II層	黒褐色 (10YR3/1)	砂質シルト	小纖維量含む。
P3	I層	褐色 (10YR4/4)	砂	繊多量含む。
SX4	I層	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	レンガ基礎埋土埋土。繊多量含む。

第7図 H27-4区平面断面図

5 区（第8図）

東西3.3m、南北3.68m (12.14 m²) の調査区である。表土下1.32m (標高42.78m) のⅢ層上面で性格不明遺構1基とピット1基、断面観察により性格不明遺構3基を検出した。この調査区は、遺構を検出した段階で再整備計画の工事掘削深度に達していたため、遺構検出のみに留めている。

SX5 性格不明遺構（第8図）

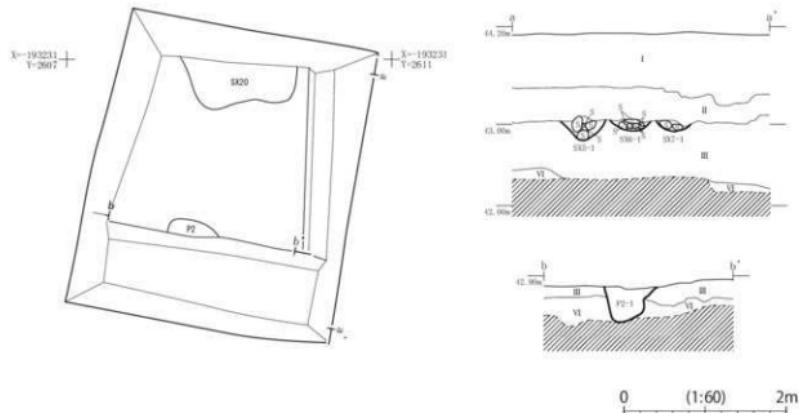
調査区東壁で検出した性格不明遺構である。規模は南北0.6mで平面形は不明である。深さは0.3mで断面形は半円形を呈する。堆積土は単層である。砾を多量に含むことから根固め石をもつ礎石跡の可能性がある。断面観察によりⅢ層が検出面であることを確認した。遺物は出土していない。

SX6 性格不明遺構（第8図）

調査区東壁で検出した性格不明遺構である。規模は南北0.5mで平面形は不明である。深さは0.13mで断面形は半円形を呈する。堆積土は単層である。砾を多量に含むことから根固め石をもつ礎石跡の可能性がある。断面観察によりⅢ層が検出面であることを確認した。遺物は出土していない。

SX7 性格不明遺構（第8図）

調査区東壁で検出した性格不明遺構である。規模は南北0.43mで平面形は不明である。深さは0.14mで断面形は半円形を呈する。堆積土は単層である。砾を多量に含むことから根固め石をもつ礎石跡の可能性がある。断面観察によりⅢ層が検出面であることを確認した。SX5～7は堆積土が類似している。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	流入物・備考
SX	I層	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	礎石含む。
	II層	黒褐色(10YR3/2)	シルト	礎・供給・堆土粒含む。
	III層	黒褐色(10YR3/2)	シルト	シルトブロック・堆土粒・炭化物粒・砂含む。
	VI層	灰・黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	砂・礎多量含む。
P2	I層	黒色(10YR2/1)	粘土質シルト	粘質。
SX5	I層	オリーブ褐色(7,5YR3/1)	シルト	礎多量、黒褐色シルトブロック含む。
SX6	I層	オリーブ褐色(7,5YR3/1)	シルト	礎多量、黒褐色シルトブロック含む。
SX7	I層	オリーブ褐色(7,5YR3/1)	シルト	礎多量、黒褐色シルトブロック含む。
SX20	I層	黒灰色(10YR4/1)	シルト	黒褐色シルトブロック含む。

第8図 H27-5区平面図

S X 20 性格不明遺構（第8図）

調査区北部で検出した性格不明遺構である。規模は東西 1.32 m、南北 0.62 m 以上で北側は調査区外へ延びる。平面形は不整形を呈すると考えられる。検出のみのため深さと断面形は不明である。他の遺構との重複関係はない。礫を多量に含むことから根固め石をもつ礎石跡の可能性がある。遺物は出土していない。

P 2 ピット（第8図）

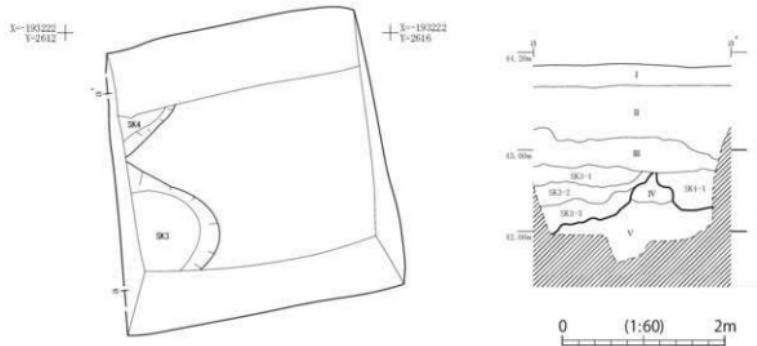
調査区南部で検出したピットである。規模は東西 0.63 m、南北 0.21 m 以上である。平面形は橢円形を呈すると考えられる。深さは 0.44 m で断面形は U 字形を呈する。他の遺構との重複関係はない。堆積土は単層である。土質は均質であり、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

6 区（第9図）

東西 3.46 m、南北 3.46 m (11.97 m²) の調査区である。表土下 1.32 m (標高 42.72 m) のIV層上面で土坑 2 基を検出した。

SK 3 土坑（第9図）

調査区南西部で検出した土坑である。規模は東西 1.01 m 以上、南北 1.47 m 以上で平面形は橢円形を呈すると考えられる。深さは 0.83 m 以上で断面形は半円形を呈すると考えられる。確認した堆積土は 3 層である。1 層は III 層に類似しているが、III 层より粘性が強い。2・3 層は類似しているが、2 層は 3 層より礫や炭化物の含有量が少ない。堆積土中から瓦 5 点、陶器 6 点、瓦質土器 2 点、金属製品 9 点が出土しており、このうち陶器 3 点、瓦質土器 1 点を図示した。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	混入物・備考
6区	I層	褐灰色 (10FR5/1)	砂	コンクリート・セメント・山砂多量含む。
	II層	黒褐色 (10FR1/2)	砂質シルト	塊状・粒・レンガ分量含む。
	III層	黒褐色 (10FR1/3)	砂質シルト	礫・炭粒・褐色砂・黄褐色粘土和粗量含む。
	IV層	黒褐色 (10FR1/3)	砂質シルト	小礫・塊状・地土粘少微量含む。
	V層	黒褐色 (10FR3/3)	砂質シルト	小礫・炭粒・地土粘少微量含む。
SK3	1層	黒褐色 (10FR5/2)	粘質シルト	小礫・炭化物粘・地土粘微量含む。
	2層	黒褐色 (10FR2/2)	砂質シルト	炭化物粘含む。
	3層	黒褐色 (10FR2/2)	粘質シルト	黑褐色粘土・礫・炭化物・瓦片微量含む。
SK4	1層	黒褐色 (10FR3/2)	砂質シルト	礫・炭化物粘微量含む。

第9図 H27 6区平面図

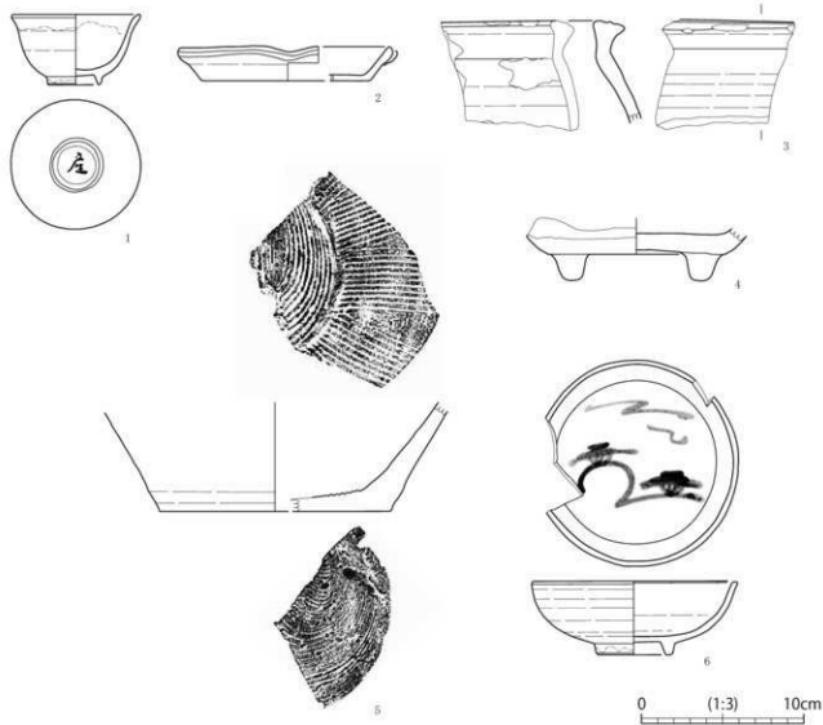
3. 検出遺構と遺物

第10図-1 (I003) は大堀相馬の白濁釉端反碗であり、底部に「産」の墨書きがみられる。時期は19世紀前葉～中葉である。

第10図-3 (I005) は堤焼の鉛釉焼烙であり、時期は19世紀前葉～中葉である。

第10図-4 (I006) は灰釉の小型甕であり、時期は江戸時代である。

第10図-5 (I021) は瓦質土器の蚊遣りであり、時期は江戸時代である。



国歴番号	登録番号	種類	計測	遺構・部位	法寸 (cm)			産地	時期	備考	写真図版	
					口径	底径	厚さ					
1	I003	陶器	画	67 SK3	8.0	3.3	4.3	0.6	大解相馬	19c 前～中 白濁釉端反碗 底面に墨書き「産」	14-1	
2	I005	陶器	塙	67 SK3	(13.2)	(10.4)	2.1	0.5	堤	19c 前～中 鉛釉 立口器あり	14-3	
3	I006	陶器	甕?	67 SK3	—	—	(6.1)	1.8	地方窯	江戸時代 灰釉	14-4	
4	I021	瓦質土器	蚊遣り	67 SK3	—	(11.8)	—	1.3	—	江戸時代	—	14-5
5	I004	陶器	塙	67 SK4	(14.2)	(6.6)	2.1	瀬戸美濃	17c	鉛釉	14-2	
6	I007	陶器	画	67 SK4	12.7	4.7	4.5	0.5	大解相馬	19c 前～中 鉛釉 山水文?	14-6	

第10図 H27 6区 SK3-4出土遺物

S K 4 土坑（第9図）

調査区北西部で検出した土坑である。一部の検出に留まっているため規模や平面形は不明である。深さは0.5mで断面形は箱形を呈すると考えられる。堆積土は単層であり、Ⅲ層に類似しているが色調はⅢ層よりやや暗い。堆積土中から陶器2点が出土しており、第10図-5・6に図示した。

第10図-5（I004）は瀬戸美濃の鉄軸插鉢であり、時期は17世紀代である。

第10図-6（I007）は大堀相馬の碗であり、内面に鉄絵が描かれている。時期は19世紀前葉～中葉である。

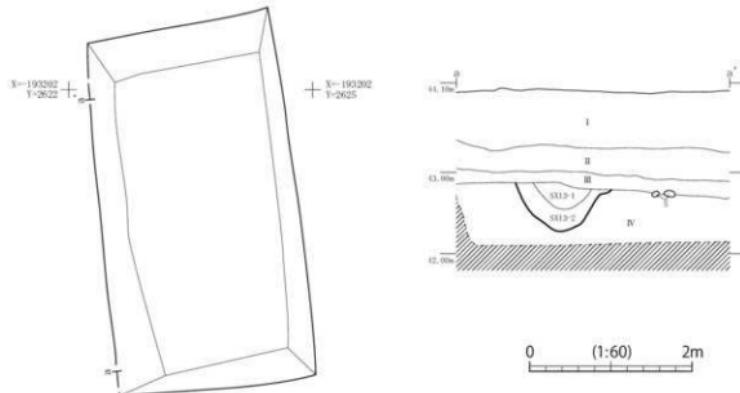
I007はSK3とSK4から出土した破片が接合したものであり、このことからSK3・4は同時期に埋没したと考えられる。

9区（第11図）

東西2.44m、南北4.52m（11.02nf）の調査区である。表土下1.12m（標高42.85m）のⅣ層上面で遺構検出作業を行ったが、平面では、遺構は検出されなかつた。しかし、断面観察により性格不明遺構1基を検出した。その後下層の状況確認のため確認するために表土下1.9m（標高42.11m）まで掘削したが、層位に変化はみられなかつた。

S X 13 性格不明遺構（第11図）

調査区西壁で検出した性格不明遺構である。規模は南北1.18mで平面形は不明である。深さは0.6mで断面形は半円形を呈する。確認した堆積土は2層である。1層はⅢ層に類似しているが、Ⅲ層より礫の含有量が少ない。2層はⅣ層に類似しているが、Ⅳ層より色調がやや明るい。断面観察によりⅣ層が検出面であることを確認した。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	混入物・備考
9区	I層	灰黄褐色（10YR6/2）	砂	山砂層、均質。
	II層	黒褐色（10YR1/1）	シルト	堆土層・礫多量含む。壁オリーブ褐色ブロック微量含む。
	III層	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	礫・炭化物粒多量含む。
	IV層	黒褐色（10YR3/1）	砂質シルト	明黄褐色層・炭化物粒・礫・砂微量含む。
SS13	1層	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	礫・炭化物粒多量含む。
	2層	黒色（10YR2/1）	砂質シルト	礫・炭化物粒・砂微量含む。

第11図 H27 9区断面図

13 区（第 12 図）

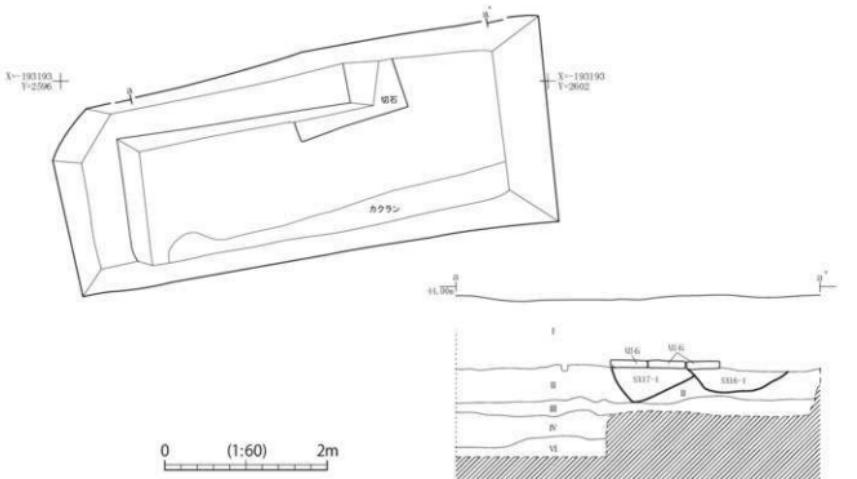
東西 5.92 m、南北 2.53 m (14.98 m²) の調査区である。表土下 1.31 m (標高 42.57 m) のⅢ層上面で遺構検出作業を行ったが、平面では、遺構は検出されなかつた。しかし、断面観察により性格不明遺構 2 基を検出した。その後下層の状況確認のため表土下 1.97 m (標高 41.92 m) まで掘削し、IV・V 層を確認したが遺構は検出されなかつた。

SX16 性格不明遺構（第 12 図）

調査区北壁で検出した性格不明遺構である。規模は東西 1.24 m で平面形は不明である。深さは 0.3 m で断面形は皿形を呈する。SX17 と重複し、これより新しい。堆積土は、暗オリーブ褐色砂とオリーブ褐色砂の互層状の堆積が認められることから人為堆積と考えられる。断面観察によりⅡ層が検出面であることを確認した。Ⅱ層は近代の盛土層と考えられることから SX16 は近代の遺構と考えられる。遺物は出土していない。

SX17 性格不明遺構（第 12 図）

調査区北壁で検出した性格不明遺構である。規模は東西 1 m 以上で平面形は不明である。深さは 0.42 m で断面形は半円形を呈する。SX16 と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、礫を多量に含み、基本層ゆらいのにぶい黄褐色砂質シルトブロックを含むことから人為堆積と考えられる。SX16・17 の直上で切石を確認したが、これらの遺構に属するものは不明である。断面観察によりⅡ層が検出面であることを確認した。Ⅱ層は近代の盛土層と考えられることから SX17 は近代の遺構と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	流入物・備考
13 区	I 層	オリーブ褐色 (2, 514/4)	砂	山砂層、均質。
	II 層	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	黄褐色粘土・炭化物粒・小礫多量含む。
	IV 層	黒褐色 (10YR2/1)	砂質シルト	礫中量含む。
	VII 層	褐色 (10YR4/4)	砂	人小縫多量含む。
SX16	I 層	暗オリーブ褐色 (2, 503/3)	砂	オリーブ褐色が層状に堆積。
SX17	I 層	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック・礫多量含む。

第 12 図 H27 13 区平面面図

第4章 平成28年度の調査

1. 調査方法と経過

平成28年度の調査対象地は仙台中央警察署大町交番北側の公衆トイレ設置予定箇所である。調査区を予定範囲に設定し、重機掘削のち人力による掘削と精査を行い、記録の写真を撮影し、平断面図を作製した。

調査には平成28年7月4日に着手し、機材の搬入や調査区の設定を行った。7月7日に重機掘削を開始し、7月8日から人力による掘削を開始した。7月25日に完掘状況の全景写真撮影を行い、7月27日に調査区の埋め戻しと撤収作業を行い、調査を終了した。

2. 基本層序（第13図）

基本層は大別6層に分かれる。各層については以下のとおり。

I層は現代の表土層である。第1次調査駅舎等調査区のI a層（現代盛土層）に相当する。

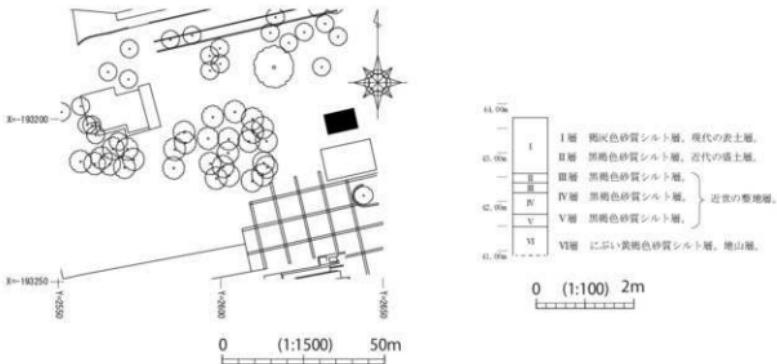
II層は暗褐色シルトで炭化物や焼土を含む層である。I層直下で確認できることや炭化物、焼土を含むことから第1次調査駅舎等調査区のI b層（近代盛土層）に相当すると考えられる。

III層は黒褐色シルトで礫や炭化物を含む層である。主体となる土壤が類似することや礫や炭化物を含むこと、確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のII層（近世の盛土・整地層）に相当すると考えられる。

IV層は暗褐色シルトで礫を多量に含む層である。主体となる土壤が類似することや礫を含むこと、確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のIII a層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。

V層は黒褐色シルトで暗褐色シルトブロックとにぶい黄褐色シルトブロックを少量含む層である。主体となる土壤が類似することや確認できる標高が類似していることから、第1次調査駅舎等調査区のIV c層（自然堆積層）に相当する可能性がある。

VI層は褐色砂で礫を多量に含む自然堆積層である。このことから第1次調査駅舎等調査区のV・VI層（自然堆積層）に相当すると考えられる。



第13図 平成28年度調査区配置図・基本層序柱状図

3. 検出遺構と遺物

東西 9.25 m、南北 5.1 m (47.18 m²) の調査区である。表土下 1.28 m (標高 42.45 m) のⅢ層上面で遺構検出作業を行ったが、遺構は検出できなかった。その後、表土下 1.54 m (標高 42.19 m) まで掘削しⅤ層上面で性格不明遺構 1 基を検出した。

S X 1 性格不明遺構 (第 14・15 図)

調査区西北部で検出した性格不明遺構である。規模は東西 4.52 m 以上、南北 3.13 m 以上で平面形は不明である。深さは 0.71 m で断面形は皿形を呈する。確認した堆積土は 4 層である。1 層はⅣ層に類似しているがⅣ層より礫の含有量が少ない。2 層と 3 層は類似しているが、2 層は 3 層よりも色調が暗い。4 層は底面付近にのみ堆積し、3 層ブロックとⅥ層ブロックが混合した堆積土である。堆積土中から瓦 23 点、陶器片 19 点、瓦質土器片 8 点、土師質土器片 193 点、磁器片 7 点、石製品類 7 点、金属製品 12 点が出土しており、このうち軒丸瓦片 1 点、陶器片 5 点、瓦質土器片 1 点、土師質土器片 3 点、磁器片 1 点、石製品類 1 点を図示した。

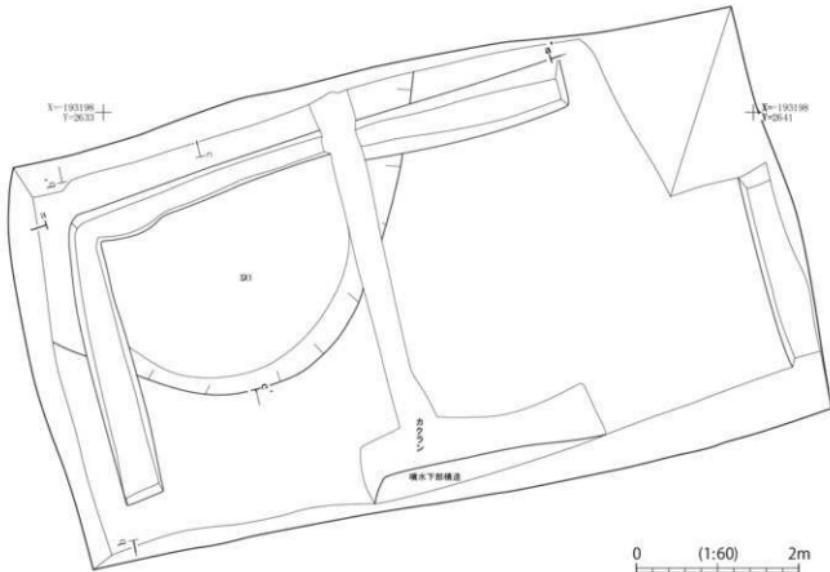
第 16 図-1 (F003) は 1 层から出土した軒丸瓦であり、瓦当文様は三巴文である。

第 16 図-2 (J002) は 1 层から出土した肥前の染付皿であり、高台内に「○○製」の銘がみられる。時期は 18 世紀前半である。

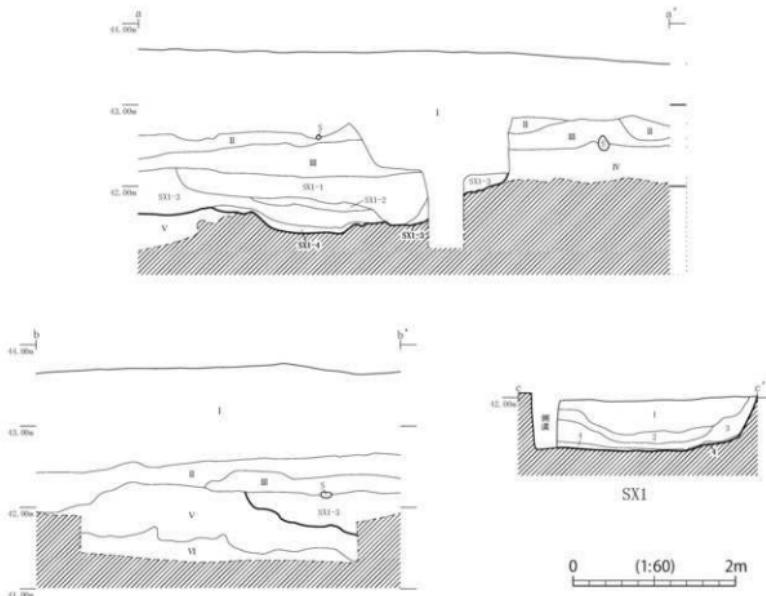
第 16 図-3 (I014) は 1 层から出土した美濃の大鉢であり、内面に鉄絵が描かれている。時期は 17 世紀前半である。

第 16 図-4 (I012) は唐津の灰釉皿であり、時期は 17 世紀前半である。

第 16 図-5 (I013) は織部の徳利と考えられ、時期は 17 世紀前半である。



第 14 図 平成 28 年度調査区平断面図



調査区・遺構名	層位	土色	土性	記入物・備考
基本層序	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	褐色物質少量含む。
	II層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	褐色物質少量含む。堆土状態含む。
	III層	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	小量中量含む。炭化物粒少量含む。堆土状態含む。褐色物質含む。
	IV層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	褐色物質少量含む。
	V層	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	暗褐色シルト少量含む。にじみ黄褐色シルト少量含む。
	VI層	褐色 (10YR4/6)	砂	下部に褐色多量含む。
SX1	1層	にじみ黄褐色 (10YR4/3)	シルト	褐色多量含む。炭化物粒少量含む。
	2層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	褐色多量含む。
	3層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	褐色砂・炭化物粒少量含む。
	4層	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	黄褐色砂多量含む。

第15図 平成28年度調査区断面図

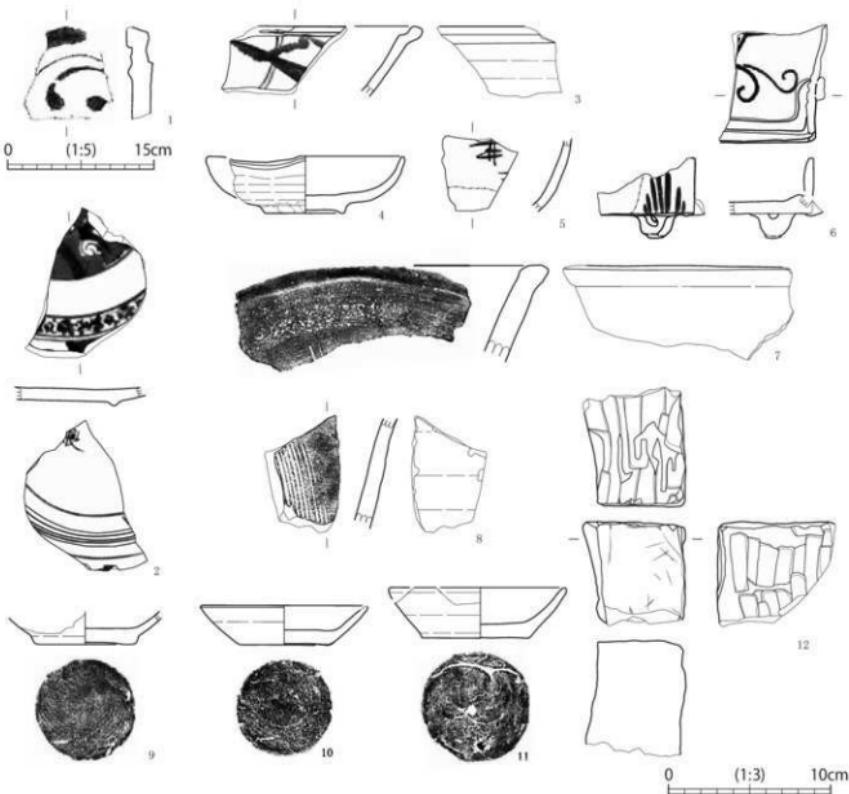
第16図-6 (I011) は3層から出土した瀬戸美濃の向付皿であり、内面に鉄絵が描かれている。時期は17世紀前半である。

第16図-7 (I022) は瓦質土器の擂鉢であり、時期は17世紀である。

第16図-8 (I010) は3層から出土した美濃の鉄釉擂鉢であり、時期は17世紀である。

第16図-9～11 (I031～33) は土師質土器の皿であり、底部に回転糸切りがみられる。時期は江戸時代である。I031は1層から出土した。

第16図-12 (K001) は砥石である。片側の端部のみ残存し、側面に石鑿の加工痕がみられる。



国版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	文様	H.当面法量 (cm)				備考	写真図版	
						直径	内径	底径	高さ			
1	F003	瓦	軒丸瓦	SX1 1層	三巴文(長蛇)	-	(7.20)	1.8	-	2.4	-	200 画面に炭化物付着
2	J002	器底	中盤	SX1 1層	-	-	-	0.8	肥厚	18c前半 高台に墨「製」	14-12	
3	J014	器底	脚	SX1 1層	-	-	-	0.7	美濃	17c前半 鉄鉢 青磁透柄か	14-8	
4	J012	器底	脚	SX1	(12,3)	4.9	3.5	1.0	唐津	17c前半 見込：新土目	14-13	
5	J013	器底	脚利か	SX1	-	-	-	0.5	織部	17c前半	-	
6	J011	器底	脚	SX1 1層	-	-	-	1.0	瀬戸美濃	17c前半 鉄鉢 青磁透柄	14-10	
7	J022	瓦質土器	楕円	SX1	-	-	-	1.4	在地産	17c 口縁部に短柱状	14-15	
8	J019	器底	楕球	SX1 1層	-	-	-	1.0	美濃	17c 鉄鉢	14-9	
国版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	文様	法量 (cm)				備考	写真図版	
						直径	内径	底径	高さ			
9	J031	土師質土器	瓶	SX1 1層	-	6.1	-	1.1	-	J江時代 底部：墨跡か	14-11	
10	J032	土師質土器	瓶	SX1	(32,2)	(8.0)	2.4	0.7	在地産	-	14-16	
11	J033	土師質土器	瓶	SX1	(10,8)	6.4	3.2	1.1	-	J江時代 底部：クロ瓶か	14-17	
国版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	文様	法量 (cm)				備考	写真図版	
						直径	内径	底径	高さ			
12	K001	石製品	砾石	SX1	6.1	5.8	-	5.4	370	-	15-1	

第16図 H28 S X 1出土遺物

第5章 令和元年度の調査

1. 調査方法と経過（第17図）

令和元年度の調査対象地は西公園南西部の市民プール跡地である。調査区は再整備計画に基づいたトイレや照明灯、雨水管、污水管、水道管、ハンドホール等が設置される計87か所に設定した（第17図）。調査区の設定については現地で仙台市建設局百年の杜推進部公園課と協議しながら行った。調査区設定後、藪や灌木がある調査区は刈り払いや伐採、アスファルト舗装がなされている調査区はアスファルトの撤去等の事前準備を行い、重機掘削を行った。重機掘削中に埋設管等を確認した場合は公園課に埋設管撤去の可否を確認し、撤去が不可能な場合は調査位置の変更等の対策を講じた。重機掘削後、人力による掘削と精査を行い、必要に応じて記録写真撮影や平面図を作成した。調査は再整備計画の工事掘削深度までを原則とした。

令和元年6月26日から調査に着手し、調査区の設定を開始した。7月18日から藪の刈り払い等調査の事前準備を行い、7月23日から重機掘削を開始した。調査面積の最も大きい45区から掘削し、地下鉄東西線の高架橋から南の調査対象地南半部、高架橋から北の調査対象地北半部、仙台キリストん殉教碑周辺から南側入り口にかけての調査対象地南端部の順に行なった。重機掘削が終了した調査区から順次調査を行い、調査が終了した調査区は順次埋め戻した。11月22日に全ての調査区の埋め戻しが終了し、撤収作業を開始した。11月29日に撤収作業が完了し、調査を終了した。

2. 基本層序（第18図）

基本層は大別6層、細別8層に分かれる。各層について以下とおり。

I層は現代の表土層である。第1次調査高架橋調査区のI層（近現代盛土・整地層）に相当する。

II層は暗褐色シルトで礫を多量、炭化物を少量、黄橙色シルトブロックを含む層である。I層直下で確認できることや礫を多量に含むことから第1次調査高架橋調査区のII層（近現代盛土・整地層）に相当すると考えられる。

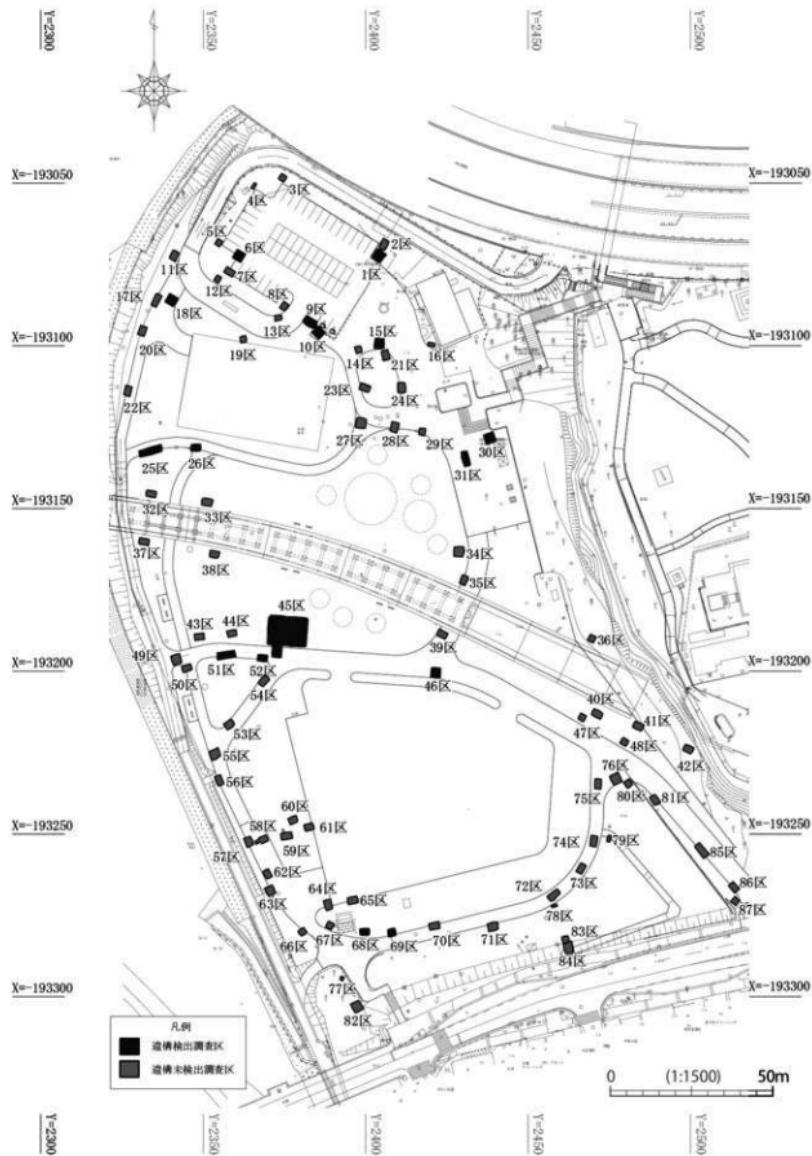
III層は2層に細分される。III-1層はにぶい黄褐色砂で褐灰色シルトブロックを少量含む層である。確認できる標高が類似していることから、第1次調査高架橋調査区のIIIa層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。III-2層は褐灰色シルトで淡黄色砂を少量、炭化物を微量含む層である。主体となる土壤が類似することや炭化物を含むこと、確認できる標高が類似していることから第1次調査高架橋調査区のIIIb層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。

IV層は2層に細分される。IV-1層は黄褐色シルトで褐灰色シルトブロックを多量、黒褐色シルトブロックを少量含む層である。確認できる標高が類似していることから、第1次調査高架橋調査区のIVa1～6層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。IV-2層は黒褐色で黄橙色シルトブロックを少量含む層である。主体となる土壤が類似することや確認できる標高が類似していることから、第1次調査高架橋調査区のIVa7～9層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。

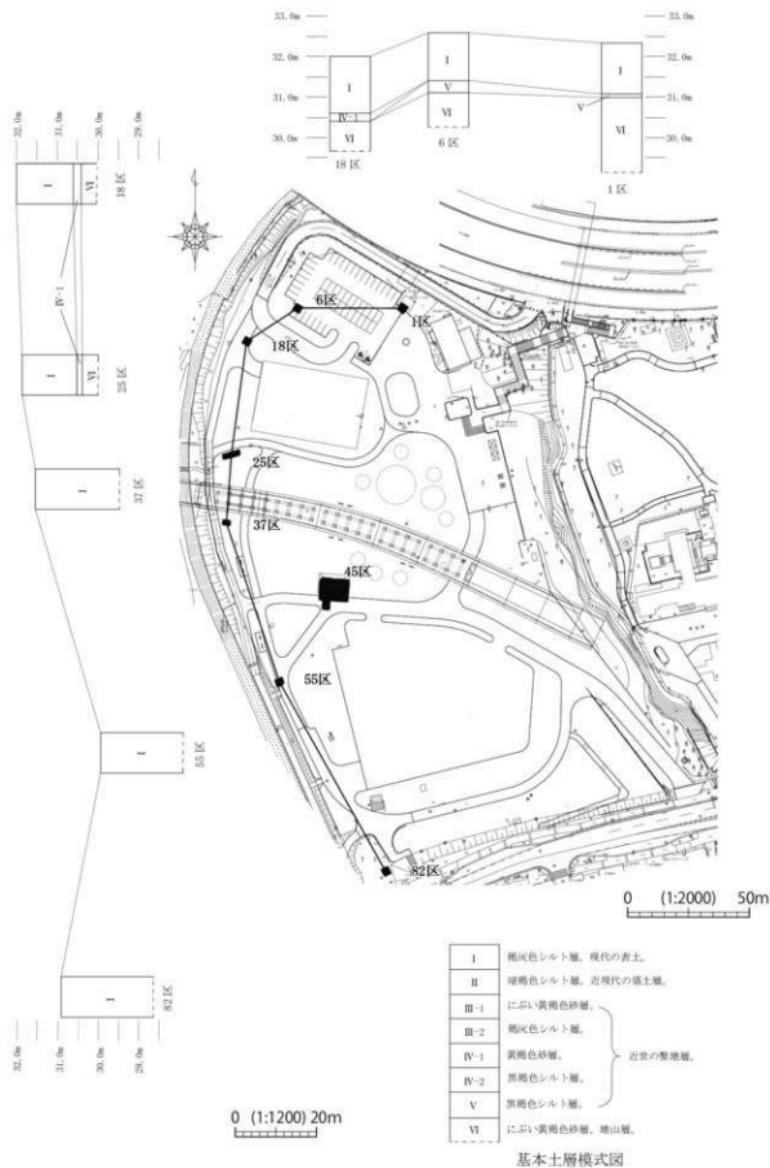
V層は黒褐色シルトの層である。主体となる土壤が類似することから第1次調査（平成19～22年度調査・第403集）のV層（近世の盛土・整地層）に相当する可能性がある。

VI層はにぶい黄褐色砂の自然堆積層である。主体となる土壤が類似することから第1次調査高架橋調査区のVII層（自然堆積層）に相当すると考えられる。

調査範囲が広範であるため、同じ基本層でも調査区ごとに土質・色調・混入物等に違いがみられる。



第17図 令和元年度調査区配置図



第18図 令和元年度調査基本層序柱状図

3. 検出遺構と遺物

1~87区の調査区のうち、1・6・9・10・15・18・25・26・30・31・45・46・51・52・68・69区の計16区から柱列跡2列、溝跡15条、井戸跡1基、土坑23基、ピット33基、性格不明遺構2基を検出した。

各調査区の配置は第17図のとおり。

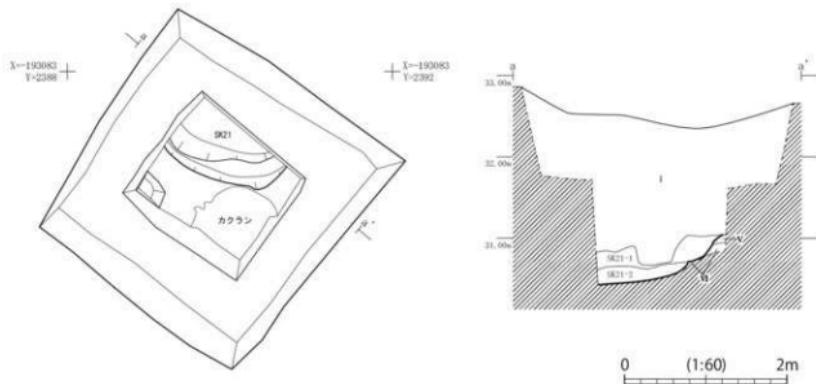
以下、遺構を検出した16か所の調査区について説明する。

1区（第19図）

東西3.36m、南北3.33m（11.18m²）の調査区である。表土下1.58m（標高31.65m）のVI層上面で土坑1基を検出した。その後下層の状況確認のため調査区南西隅を表土下2m（標高30.44m）まで掘り下がり、層位に変化はみられなかった。

SK21土坑（第19図）

調査区北西隅で検出した土坑である。規模は東西1.29m以上、南北0.74m以上で、北側部分は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは0.44mで、断面形はテラス状の段を有する皿形を呈する。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はV層で検出される遺構であった。堆積土は2層確認した。2層とも基本層由来の黄橙色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。1・2層は類似しているが、2層は1層より黄橙色シルトブロックの割合が多い。1・2層の境目でテラス状の段を有することから、2層は別遺構の堆積土の可能性がある。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	埋入物・備考
1区	I層	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	灰白色シルトブロック・褐色シルトブロック・炭化物・鐵錫量少。
	V層	黒褐色(10YR3/1)	シルト	黄褐色シルトブロック少量含む。
	VI層	褐色(10YR4/6)	シルト	褐灰色シルトブロック・黒褐色シルトブロック多量含む。
SK21	1層	黒褐色(10YR2/2)	シルト	黄褐色シルトブロック含む・炭化物多量含む。
	2層	黒褐色(10YR2/2)	シルト	黄褐色シルトブロック含む・鐵錫量含む。

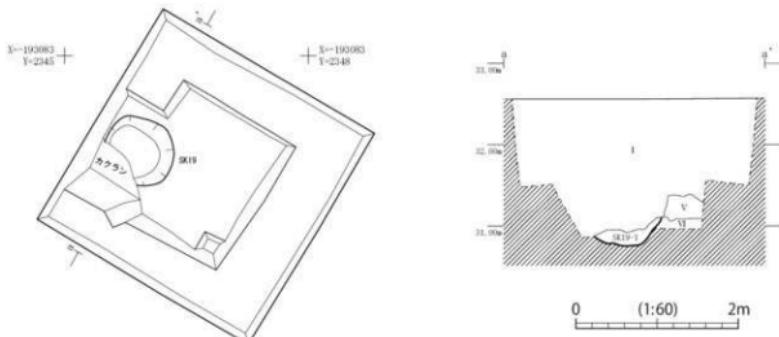
第19図 R1 1区平断面図

6区（第20図）

東西3.02m、南北3.02m (9.12m²) の調査区である。表土下1.6m (標高31.05m) のVI層上面で土坑1基を検出した。その後下層の状況確認のため北西隅を表土下2m (標高30.65m) まで掘り下げたが、層位に変化はみられなかった。

SK19土坑（第20図）

調査区西隅で検出した土坑である。規模は径0.88mで、南西端は擾乱によって削平される。平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.2mで、断面形は皿形を呈する。堆積土は単層であり、基本層由来のにぶい黄褐色砂を含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	測定物・備考
6区	I層	黒褐色(10YR3/1)	シルト	灰白色粘土質含む。
	V層	黒褐色(10YR2/2)	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック多量含む。
	VI層	にぶい黄褐色(10YR4/3)	シルト	褐灰色シルトブロック粘土質含む。
SK19	I層	灰褐色(10YR5/2)	シルト	にぶい黄褐色砂含む。

第20図 R1 6区平断面図

9区（第21図）

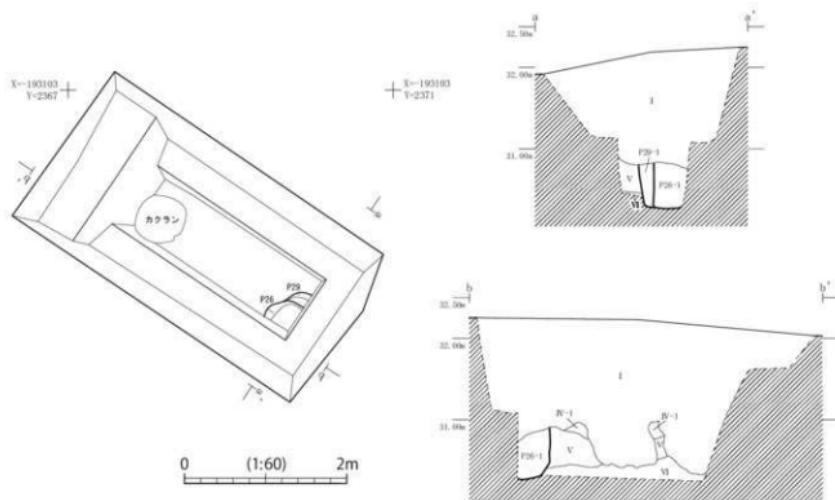
東西4.11m、南北2.44m (10.02m²) の調査区である。表土下1.6m (標高30.78m) のVI層上面でピット2基を検出した。

P26ピット（第21図）

調査区南東隅で検出したピットである。規模は径0.26m以上で、南東端は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは0.48mで、断面形はU字形を呈する。P29と重複し、これより新しい。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はV層で検出される遺構であった。堆積土は単層であり、基本層由来の褐灰色シルトブロックと黒褐色シルトブロックを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P29ピット（第21図）

調査区南東隅で検出したピットである。規模は径0.18m以上で、東側は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは0.54mで、断面形はU字形に近いが底面に凹凸がみられる。P26と重複し、これより古い。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はV層で検出される遺構であった。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺跡名	層位	土色	土性	特徴・備考
9区	I層	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3)	シルト	鐵少量含む。
	IV'-I 層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	地灰褐色シルト多量含む。黄褐色シルト含む。
	V層	黒色 (10YR2/1)	シルト	浅黃褐色シルト含む。
	VI層	褐色 (10YR4/4)	シルト	均質。
P26	I層	にごい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	地灰褐色シルト・黒褐色シルト多量含む。
P29	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	均質。

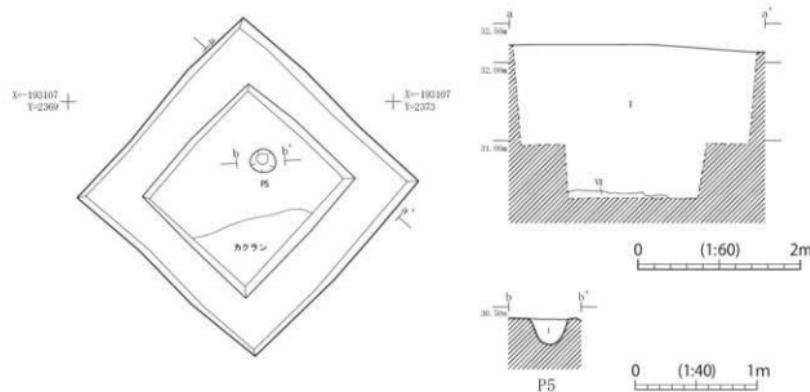
第21図 R1 9区平断面図

10区（第22図）

東西2.93m、南北3.01m (8.82 m²)の調査区である。表土下1.9m(標高30.34m)でVI層を確認したため調査を行った。調査の結果、VI層上面でピット1基を検出した。遺物は出土していない。

P5ピット（第22図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は径0.24mで、平面形は円形を呈する。深さは0.16mで、断面形はやや開いたU字形を呈する。堆積土は1層確認した。灰褐色シルトブロックを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。



第22図 R1 10区平断面図

15区（第23図）

東西3.06m、南北3.12m (9.55m²) の調査区である。表土下0.9m (標高31.6m) まで重機掘削し、西壁際で水道管を確認したが、掘削に支障がないためそのまま表土下2.35m (標高30.15m) まで掘削した。VI層上面で遺構検出作業を行ったが、平面では遺構を検出できなかった。断面観察によりIV-1層を掘り込む遺構を確認したため、拡張して調査を行った結果、溝跡1条、ピット2基を検出した。

SD9溝跡（第23図）

調査区北側で検出した東西方向の溝跡である。規模は長さ0.69m以上、幅0.3mで、東端は擾乱によって失われ、西端は調査区外へ延びる。深さは0.46mで、断面形はU字形を呈する。方向はN=52°-Eである。P17-30と重複し、P17より古くP30より新しい。調査区の断面観察により本来はIV-1層で検出される遺構であった。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックと暗褐色シルトブロックを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

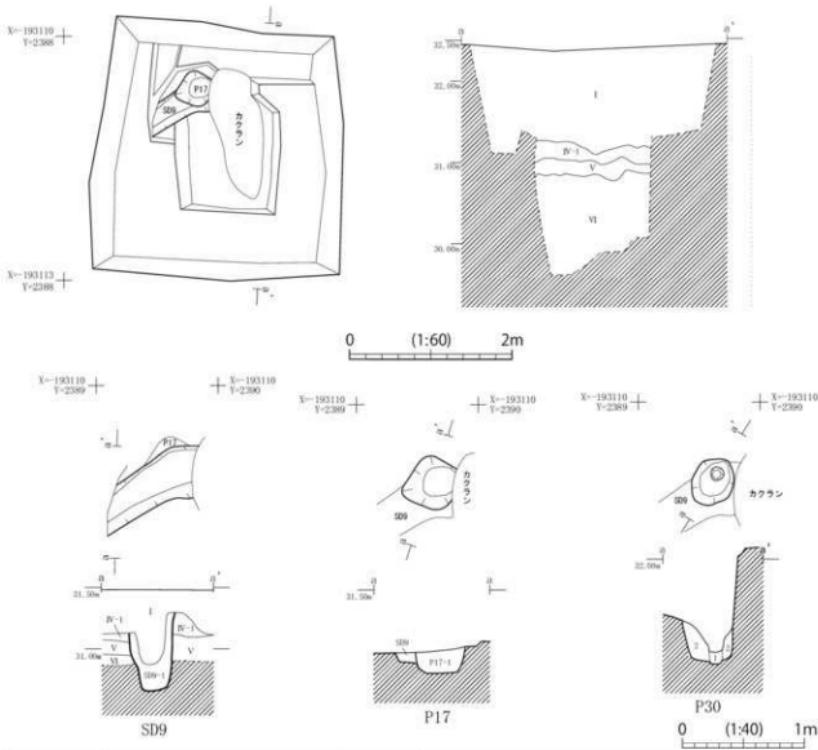
P17ピット（第23図）

調査区北側で検出したピットである。規模は長軸0.44m以上、短軸0.44mで、東側は擾乱によって失われている。平面形は方形を呈すると考えられる。深さは0.19mで、断面形は開いたU字形を呈する。SD9、P30と重複し、これらより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックと暗褐色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から金属製品1点が出土しており、第24図-1に図示した。

第24図-1(N001)は、銅製の木瓜形引手である。

P30ピット（第23図）

調査区北側で検出したピットである。規模は長軸0.42m、短軸0.32mで、平面形は円形を呈する。深さは0.26mで断面形は箱形を呈する。SD9、P17と重複し、これらより古い。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.12mの円形である。深さは0.26mで断面形はU字形を呈する。遺物は出土していない。



調査区・道場名	種別	土色	土性	測入物・備考
15区	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	炭化物多含む。浅黄褐色シルトブロック無数含む。
	IV-1層	深褐色 (10YR2/3)	シルト	黄褐色シルトブロック含む。炭化物無数含む。
	V層	深褐色 (10YR3/1)	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック含む。
	VI層	褐色 (10YR4/6)	砂シルト	均質。
SB9	I層	黑色 (10YR1, 7/1)	シルト	黃褐色シルトブロック・褐色シルトブロック多含む。
F17	I層	黑色 (10YR1, 7/1)	シルト	黄褐色シルトブロック・褐色シルトブロック含む。
F30	2層	深褐色 (10YR2/3)	シルト	柱状強。黄褐色シルトブロック多含む。
	3層	黒灰色 (10YR5/1)	シルト	黄褐色シルトブロック無数含む。

第23図 R1 15区 SD9、P17・30平断面図



固體番号	登録番号	種類	認定種	規格・層位	寸法(cm)				備考	写真原標
					長さ	幅	高さ	厚さ		
1	N001	金属製品	引手	15K(P1T)1層	(4.0)	4.6	1.5	0.2	木成形、銅製。	15-2

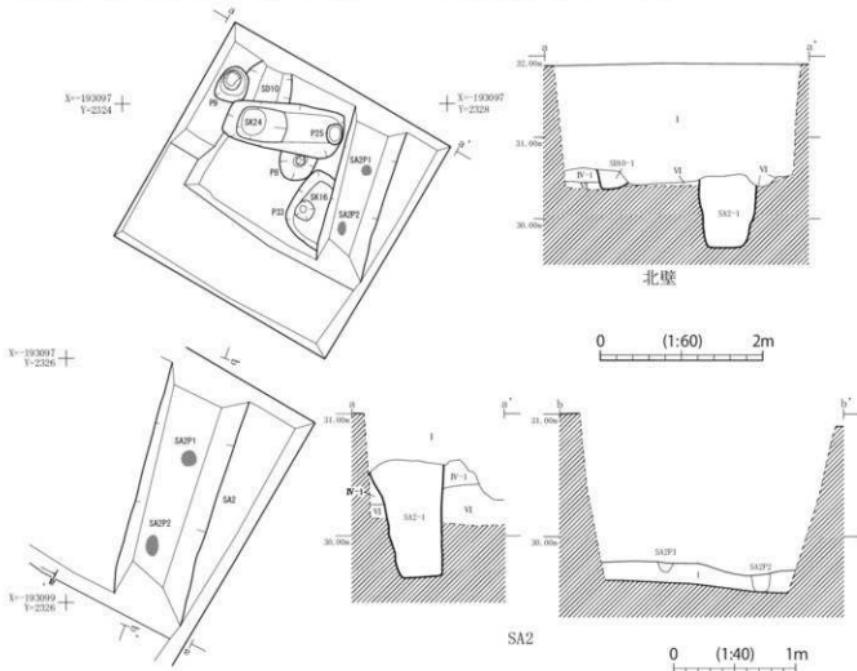
第24図 R1 15区 P17出土遺物

18 区（第25図）

東西3.06m、南北3.03m (9.27 m²) の調査区である。表土下1.48m (標高30.39m) のVI層上面で柱列跡1列、溝跡1条、土坑2基、ピット4基を検出した。

SA2 柱列跡（第25図）

調査区東部で検出した南北方向の柱列跡である。規模は長さ1.8m以上、幅0.6mで、両端は調査区外へ延びる。深さは0.88mで、断面形は箱形を呈する。方向はN=17°-Eである。SK16と重複し、これより新しい。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はIV-1層で検出される遺構であった。断面形が箱形を呈しており、布掘り基礎と考えられる。掘り方埋め土は単層であり、基本層由来の黄褐色砂ブロックを多量、黒色シルトブロックを少量含む。底面からは柱痕跡を2基(P1・2)検出している。P1は径0.12mで、平面形は円形を呈する。深さは0.08mで、断面形はU字形を呈する。P2は長軸0.16m、短軸0.1mで、平面形は楕円形を呈する。深さは0.14mで、断面形はU字形を呈する。P1・2間の心々距離は0.79mである。遺物は出土していない。

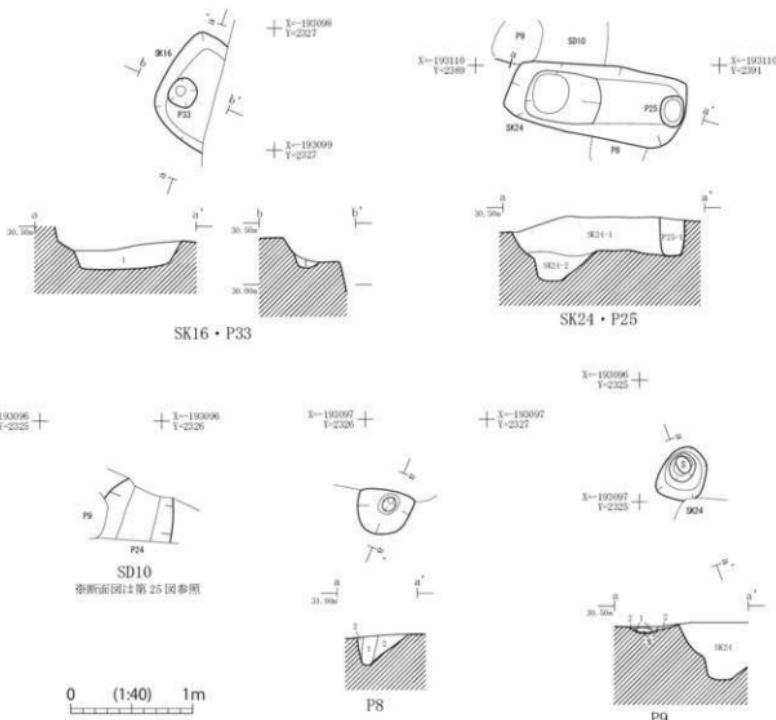


調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
18区	I層	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	砂利多量含む。
	IV-1層	灰-灰褐色(10YR5/3)	砂	均質。
	VI層	褐色(10YR4/6)	砂	褐灰色砂含む。
SA2	1層	オリーブ褐色(5Y3/1)	砂質シルト	黄褐色砂ブロック多量含む。黒色シルトブロック少量含む。
	P1	黒褐色(10YR2/3)	砂質シルト	黄褐色砂ブロック含む。
	P2	暗オリーブ褐色(2.5GY3/1)	粘土	黄褐色砂ブロック多量含む。

第25図 R1 18区 SA2 平断面図

SD10 溝跡 (第 25・26 図)

調査区北隅で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ 0.47 m 以上、幅 0.58 m で、北端は調査区外へ延びる。深さは 0.24 m で、断面形は半円形を呈する。方向は N-20° -E である。SK24、P9 と重複し、これらより古い。検出は VI 層上面だが、調査区の断面観察により本来は IV-1 层で検出される遺構であった。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	混入物・備考
SD10	1 層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	均質。
SK36	1 層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色シルトブロック含む。灰褐色シルトブロック微量含む。
SK24	1 層	淡黄色 (5YR8/4)	シルト	褐灰色シルトブロック・黒褐色シルトブロック多量含む。
	2 層	淡黄色 (5YR8/4)	シルト	褐灰色シルトブロック・黒褐色シルトブロック含む。
P8	1 層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	均質。
	2 層	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	柱状鉄、黄褐色シルトブロック含む。炭化物・灰白色シルトブロック微量含む。
P9	1 层	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	柱状鉄、炭化物・褐色シルトブロック多量含む。淡黄色シルトブロック微量含む。
	2 層	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	シルト	褐灰色シルトブロック含む。灰白色シルトブロック微量含む。
P25	1 層	黒褐色 (10YR2/2)	シルト	炭化物・褐色シルトブロック含む。
P33	1 层	暗褐色 (10YR3/4)	シルト	浅黄色シルトブロック含む。

第 26 図 R1 18 区 SK16・24、SD10、P8・9・25・33 平断面図

S K 16 土坑（第26図）

調査区中央部で検出した土坑である。規模は東西0.5m以上、南北0.84mで、面形は方形を呈すると考えられる。深さは0.16mで、断面形は箱形を呈する。SA2、P33と重複し、P33より新しくSA2より古い。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックを含み、また灰褐色シルトブロックも微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

S K 24 土坑（第26図）

調査区中央部で検出した土坑である。規模は長軸1.44m、短軸0.62mで、平面形は長方形を呈する。深さは0.5mで、縦断面形は西側が大きく傾斜した箱形を呈する。SD10、P8・9・25と重複し、SD10、P8・9より新しくP25より古い。確認した堆積土は2層である。両層とも基本層由来の褐灰色シルトブロックと黒褐色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土は類似しているが、2層は1層より黒褐色シルトブロックの割合が少ない。遺物は出土していない。

P 8 ピット（第26図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は径0.46mで、北半はSK24によって失われている。平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.24mで、断面形はU字形を呈する。SK24と重複し、これより古い。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.11mの円形である。深さは0.24mで、断面形はU字形を呈する。遺物は出土していない。

P 9 ピット（第26図）

調査区北隅で検出したピットである。規模は長軸0.46m、短軸0.36mで、平面形は不整円形を呈する。深さは0.05mで、断面形は皿形を呈する。SD10、SK24と重複し、SD10より新しくSK24より古い。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.2mの円形である。深さは0.05mで、断面形は皿形を呈する。底面で径0.14mの礫を確認した。遺物は出土していない。

P 25 ピット（第26図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は長軸0.24m、短軸0.19mで、平面形は稍円形を呈する。深さは0.3mで、断面形はU字形を呈する。SK24と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、炭化物と基本層由来の橙色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から土師質土器1点が出土している。

P 33 ピット（第26図）

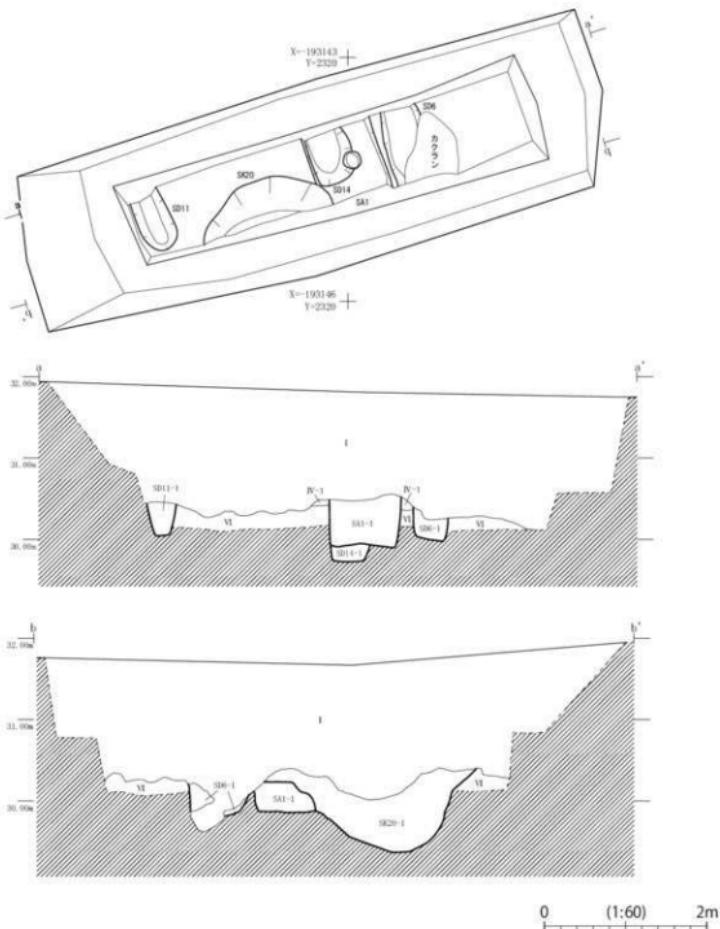
調査区中央部で検出したピットである。規模は径0.24mで、平面形は円形を呈する。深さは0.09mで、断面形はU字形を呈する。SK16と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の浅黄橙色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

25区（第27・28図）

東西7.14m、南北2.16m(15.42m²)の調査区である。表土下1.7m(標高31.7m)のVI層上面で柱列跡1列、溝跡3条、土坑1基を検出した。

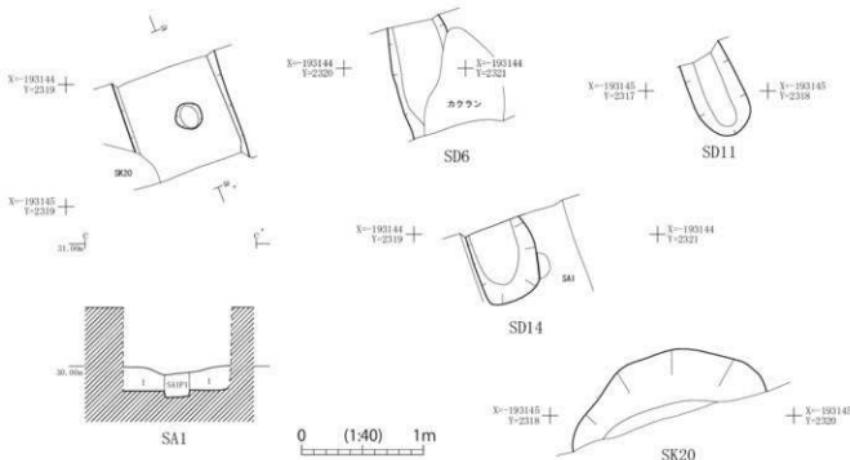
S A 1 柱列跡（第27・28図）

調査区中央部で検出した南北方向の柱列跡である。規模は長さ0.8m以上、幅0.78mで、両端は調査区外へ延びる。深さは0.56mで、断面形は箱形を呈する。方向はN-20°-Wである。SD14、SK20と重複し、SD14より新しくSK20より古い。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はIV-1層で検出される遺構であった。断面形が箱形を呈しており、布掘り基礎と考えられる。掘り方埋め土は単層であり、基本層由来の暗褐色シルトブロックと黄橙色シルトブロックを多量、炭化物を微量含む。柱痕跡を1基(P1)検出している。径は0.2mで、平面形は円形



調査区・透鏡名	層位	土色	土性	特徴・備考
25区	I層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	砂利多量含む。
	IV-1層	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	シルト	褐色シルトブロック微量含む。
	VI層	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	シルト	均質。
SA1	P1	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	均質。
	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	褐褐色シルトブロック・黄褐色シルトブロック多量含む。炭化物微量含む。
SD6	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	黄褐色シルトブロック含む。
SD11	I層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物含む。黄褐色シルトブロック微量含む。
SD14	I層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	黄褐色シルトブロック多量含む。
SK20	I層	黄褐色 (10YR5/6)	シルト	褐色シルトブロック含む。炭化物微量含む。

第27図 R1 25区平断面図



第28図 R1 25区 SA1、SD6・11・14、SK20 平断面図

を呈する。深さは0.18mで、断面形はU字形を呈する。堆積土中から瓦質土器が1点出土している。

SD6溝跡(第27・28図)

調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ0.56m以上、幅0.48mで、南東部は擾乱によって失われているが、両端は調査区外へ延びる。深さは0.34mで断面形はU字形を呈する。方向はN-10°-Wである。他の遺構と重複関係はない。検出はVI層上面だが、調査区の断面観察により本来はIV-1層で検出される遺構であった。堆積土は単層であり、基本層由来の黄橙色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD11溝跡(第27・28図)

調査区西端で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ0.62m以上、幅0.48mで、北端は調査区外へ延びる。深さは0.42mで、断面形はU字形を呈する。方向はN-30°-Wである。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、炭化物を含み、基本層由来の黄橙色シルトブロックを微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD14溝跡(第27・28図)

調査区中央部で検出した溝跡である。規模は長さ0.64m以上、幅0.46mで、北端は調査区外へ延びる。深さは0.2mで、断面形は東側がやや開いたU字形を呈する。方向はN-20°-Wである。SA1と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の黄橙色シルトブロックを多量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SK20土坑(第27・28図)

調査区中央付近で検出した土坑である。規模は東西1.55m、南北0.52mで、南半分は調査区外へ延びる。平面形は不明である。検出した深さは0.76mで、断面形は開いたU字形を呈する。SA1と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の褐灰色シルトブロックを含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦質土器が1点出土している。

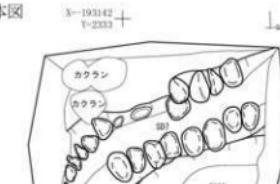
26 区（第 29 図）

東西 2.92 m、南北 2.1 m (6.13 m²) の調査区である。表土下 1.2 m (標高 30.44 m) の IV-1 層上面で溝跡 1 条、土坑 1 基を検出した。IV-1 層の調査後、表土下 1.80 m (標高 29.84 m) まで掘削し VI 層を確認したが、遺構は検出されなかった。

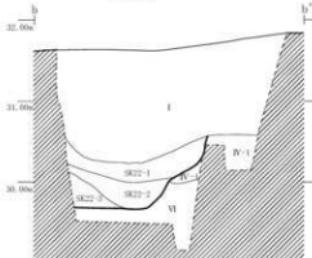
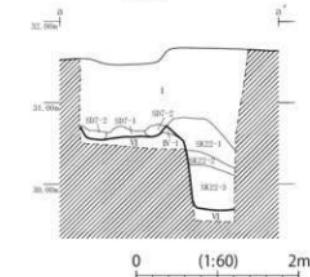
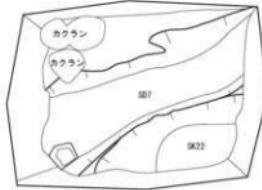
SD7 溝跡（第 29 図）

調査区内を横断する東西方向の石組み溝跡である。溝跡の上部は I 層によって削平され、側石の最下部及び底面のみ残存している。規模は長さ 2.4 m 以上、底面幅が 0.28 m、堀方も含めた幅が 0.86 m で、両端は調査区外へ延びる。深さは 0.14 m で、側石の堀方も含めた断面形は皿形を呈する。方向は N=62° - E である。SK22 と重複し、これより新しい。確認した堆積土は 2 層である。I 層は溝内に堆積した土で、2 層は側石の堀方埋土である。I 层は基本層由来の暗褐色砂ブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。このことから SD7 は廃絶時に埋められた可能性がある。SD7 は側石のみが確認でき、底面に石が敷設された痕跡が確認できなかつたことから側面のみに石が積み重ねられた溝であったと考えられる。側石には長軸 0.3 ~ 0.36 m、短軸 0.18 ~ 0.24 m の川原石が使用されていた。遺物は出土していない。

全体図



SD7 堀方



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
26 区	I 層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	砂利多量含む。
	IV-1 層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色シルト中量含む。礫・炭化物粒微量含む。浅灰色シルトブロック微量含む。
	VI 層	褐色 (10YR4/6)	砂	褐色シルト松散層含む。
SD7	I 層	褐色 (10YR4/4)	シルト	暗褐色砂ブロックを含む。
	II 層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	黒色シルトブロックを含む。黄褐色シルト少量含む。炭化物粒含む。
	III 層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	黒色シルト多量含む。黄褐色シルトブロックを含む。
	IV 层	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色シルトブロックを含む。黒色シルトブロック・礫・灰白色シルト細量含む。
SK22	I 層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	
	II 層	黒褐色 (10YR2/3)	シルト	
	III 层	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	

第 29 図 R1 26 区平断面図

SK22 土坑（第29図）

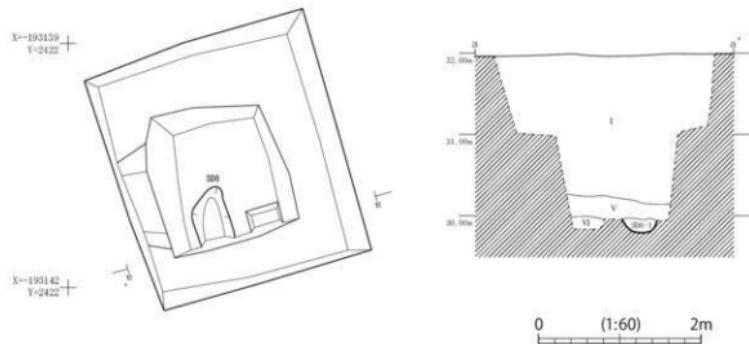
調査区南東端で検出した土坑である。規模は東西1.56m以上、南北0.74m以上で、南東部分は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは1.01mで、断面形は西側がやや開いた箱形を呈する。SD7と重複し、これより古い。確認した堆積土は3層である。1・2層は、基本層由来の黒色シルトブロックと黄褐色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。1層と2層は類似しているが、1層はより黒色シルトブロックと黄褐色シルトブロックの割合が少ない。3層にもぶい黄褐色シルトブロックを含み、黒色シルトブロックを微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

30区（第30図）

東西3.22m、南北3.09m (9.95m²)の調査区である。表土下2.0m（標高29.84m）のVI層上面で溝跡1条を検出した。その後下層の状況確認のため南東隅を表土下2.1m（標高29.86m）まで深掘りしたが、層位に変化はみられなかった。

SD8 溝跡（第30図）

調査区南側中央で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ0.52m以上、幅0.44mで、南端は調査区外へ延びる。深さは0.16mで、断面形はやや開いたU字形を呈する。方向はN-10°-Wである。堆積土は1層確認した。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。V層と類似している。遺物は出土していない。

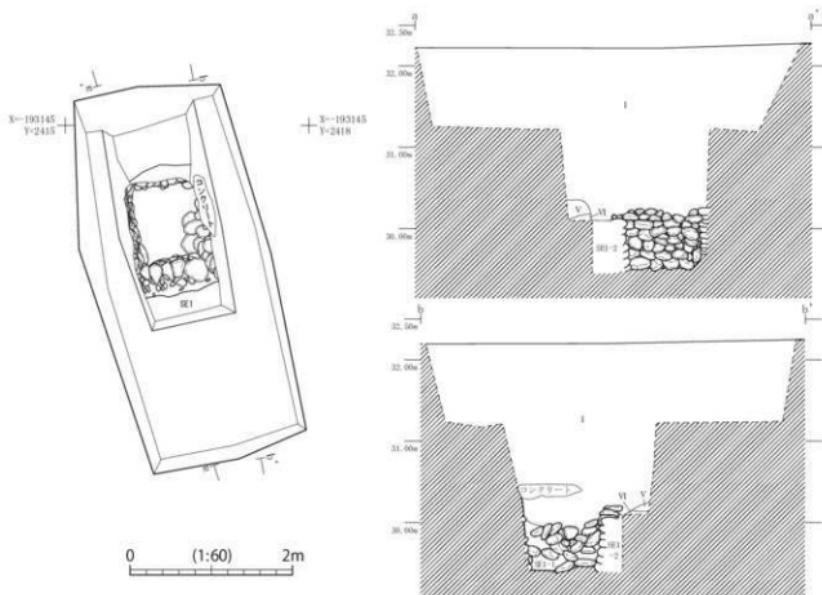


測定点・遺跡名	層位	土色	土性	特徴・備考
30区	I層	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	砂利多量含む。
	V層	黒褐色 (5YR2/2)	粘土シルト	均質。
	VI層	褐色 (7.5Y4/3)	粘土シルト	均質。
SD8	I層	黒色 (10YR2/1)	シルト	均質。

第30図 R1 30区平断面図

31区（第31図）

東西1.95m、南北4.68m (9.13m²)の調査区である。当初の調査位置で重機掘削を開始したところ、表土直下で厚いコンクリートにあたりそれ以上の掘削が不可能であったことから、調査位置を東側に変更して掘削した。表土下2.12m（標高30.1m）のVI層上面で石組みの井戸跡1基を検出した。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
31 区	I 層	褐色 (10W5/1)	シルト	砂利多量含む。
	V 层	黒色 (10YR2/1)	シルト	黄褐色シルト粘性土含む。
	VI 层	灰黄色 (10YR4/2)	シルト	均質。
SE1	1 层	黒褐色 (10YR3/2)	シルト	礫を多量含む。明褐色シルトブロック・黄褐色シルトブロック含む。
	2 层	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	礫・黄褐色シルト多量含む。

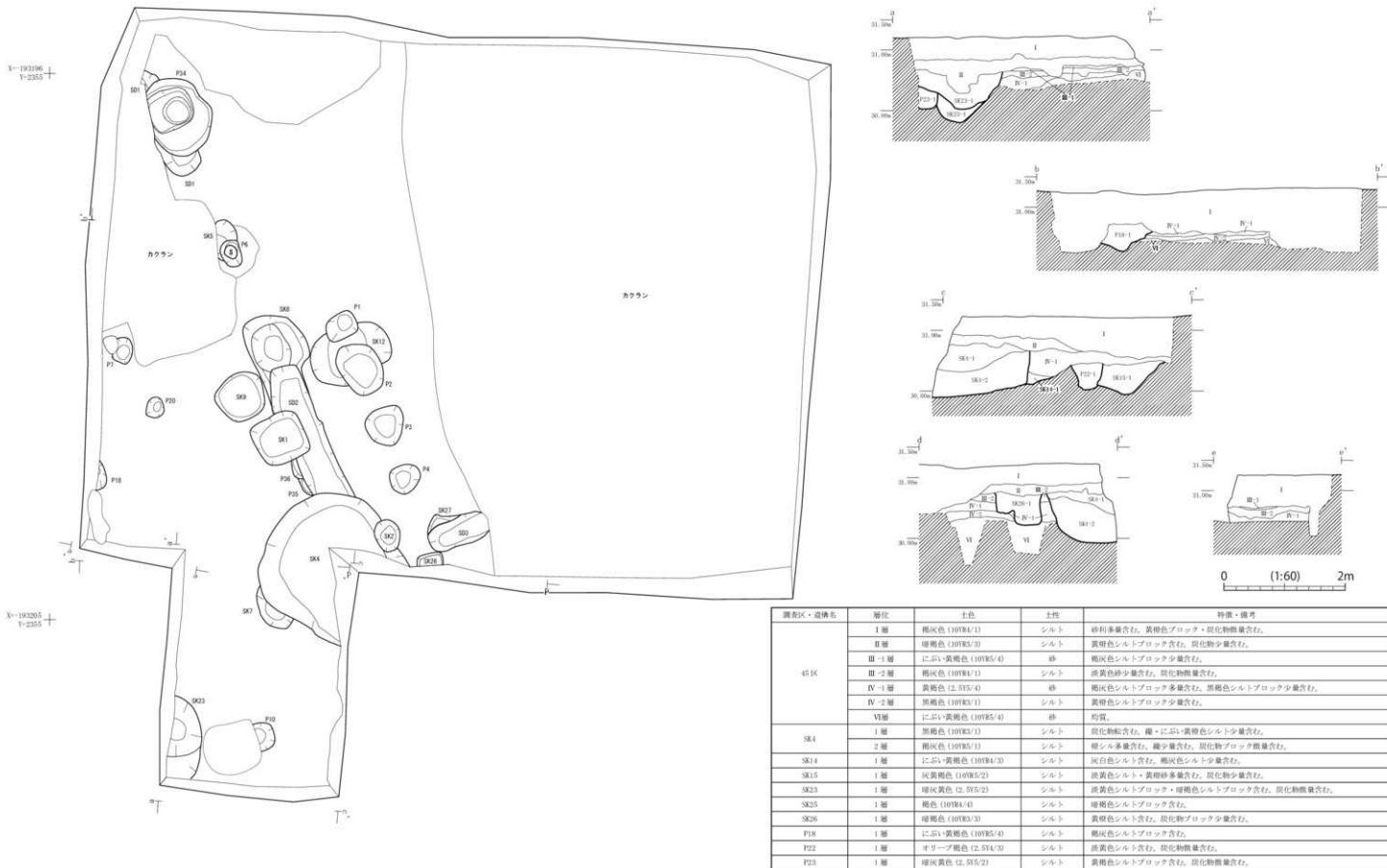
第 31 図 R1・31 区 平面図

SE1 井戸跡（第 31 図）

調査区北部で検出した石組みの井戸跡である。平面形は方形を呈すると考えられる。規模は東西 0.84 m 以上、南北 0.94 m で、掘方も含めた規模が東西 1.16 m 以上、南北 0.94 m 以上である。北辺・東辺・西辺は調査区外へ延びる。深さは 0.78 m で、断面形は箱形と呈ると考えられる。確認した堆積土は 2 層である。1 層は礫を多量に含み、人為堆積と考えられる。2 層は黄褐色シルトブロックと、裏込石と考えられる径 0.08 m ~ 0.03 m の礫を多量に含むことから、掘方埋土と考えられる。石組みの状態を観察すると、西辺・南辺・北辺の礫は整然と組まれているのに対し、東辺は乱雑な状態であることから、西辺・南辺・北辺が本来の石組枠と考えられる。石組みには長軸 0.18 m、短軸 0.1 m 程度の橢円形の礫が多く使用されていた。遺物は出土していない。

45 区（第 32・45・50 図）

東西 11.8 m、南北 9 m (106.2 m²) の調査区であり、南西側を東西 2.95 m、南北 3.7 m (10.92 m²) の範囲で拡張している。調査区の東部は擾乱により削平される。表土下 0.5 m (標高 31.0 m) で III-2 層を確認した。III-2 層、IV-1 層、IV-2 層、VI 層の各上面で調査を行い、III-2 層で溝跡 3 条、土坑 11 基、ピット 12 基、IV-1 層で溝跡 1 条、土坑 2 基、ピット 4 基、VI 層で溝跡 1 条、土坑 4 基、ピット 6 基を検出した。



第32図 R1 45区 (III-2層) 平断面図

III-2層検出遺構

SD1溝跡（第33図）

調査区北西隅で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ1.85m以上、幅0.55mで、北端は擾乱によって失われている。深さは0.3mで、断面形はU字形を呈する。方向はN=30°-Wである。SK6、P34と重複し、P34より古くSK6より新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックと炭化物を多量、橙色シルトブロックを少量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD2溝跡（第33図）

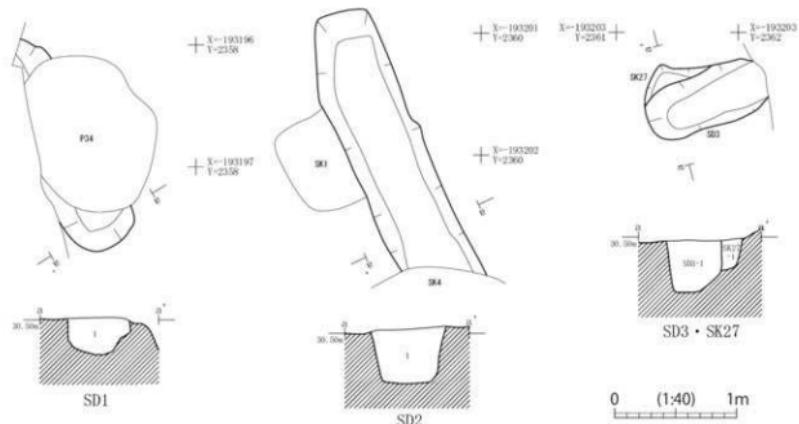
調査区南西部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ2.2m以上、幅0.63mで、南端はSK4によって失われている。深さは0.46mで、断面形はU字形を呈する。方向はN=23°-Wである。SD4、SK1・4・8、P35・36と重複し、SK1・4より古くSD4、SK8、P35・36より新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の黄橙色シルトブロックと炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦3点、陶器1点、瓦質土器1点、磁器2点が出土しており、そのうち陶器1点、磁器1点を図示した。

第34図-1（I017）は1層から出土した瀬戸の灰釉壺と考えられる。古瀬戸陶器の伝世品と考えられ、時期は14世紀～15世紀である。

第34図-2（J005）は1層から出土した中国の芙蓉手皿である。時期は16世紀末～17世紀前半と考えられる。

SD3溝跡（第33図）

調査区南部で検出した東西方向の溝跡である。規模は長さ1.03m、幅0.5mで、東端は擾乱によって失われている。深さは0.42mで、断面形はU字形を呈する。方向はN=70°-Eである。SK27と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックを含み、炭化物と礫を少量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦7点、磁器2点、石製品3点、金属製品3点が出土している。



測定点・追跡名	層位	土色	土性	添人物・備考
SD1	上層	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	淡黄色シルトブロック・炭化物多量含む。暗色シルトブロック少量含む。
SD2	上層	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物含む。
SD3	上層	に赤い黄褐色(10YR4/3)	シルト	淡黄色シルトブロック含む。炭化物・礫少量含む。
SK27	上層	に赤い黄褐色(10YR4/3)	シルト	淡黄色シルトブロック少量含む。炭化物微量含む。

第33図 R1 45区（III-2層）SD1・2・3、SK27 平断面図



回収番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	法量(cm)				產地	時期	備考	写真図版
					口径	底径	器高	厚さ				
1	1017	陶器	壺?	45区 SD2 1層	-	(7.0)	(3.3)	1.1	廬山	14c~15c	灰釉 伝食器の古瀬戸か	15-3
2	J005	磁器	瓶	45区 SD2 1層	-	-	-	0.4	中国	16c末~17c前半	芙蓉手瓶	15-4

第34図 R1 45区(III-2層)SD2出土遺物

SK1土坑(第35図)

調査区南西部で検出した土坑である。規模は長軸0.75m、短軸0.7mで、平面形は方形を呈する。深さは0.16mで、断面形は皿形を呈する。SD5・2と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、大磚・瓦片を多量に含み、基本層由来の黄橙色シルトブロックと炭化物を少量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦130点、瓦質土器1点が出土しており、そのうち隅切瓦1点、埠瓦2点、瓦質土器1点を図示した。

第36図-1(H003)は埠瓦で両面にケズリ調整がみられる。端部には水切りとみられる谷形の条線がみられる。

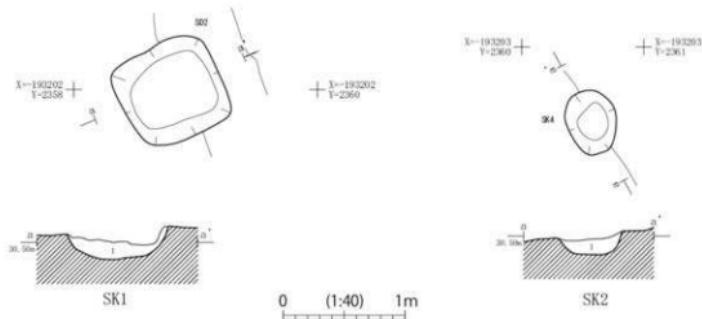
第36図-2(H004)は隅切瓦で両面にナデ調整がみられる。

第36図-3(H005)は平瓦で埠瓦の一種である。いずれの瓦も近世瓦である。

第36図-4(H024)は1層から出土した瓦質土器の火鉢と考えられ、外面にケズリ調整がみられる。

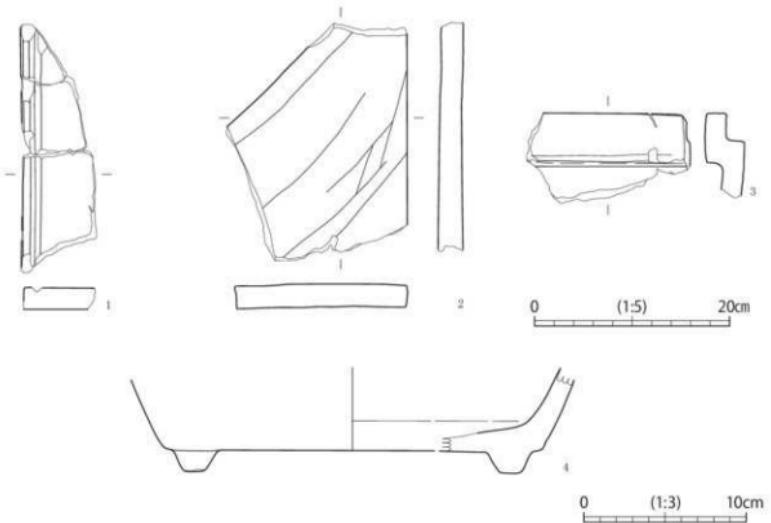
SK2土坑(第35図)

調査区南部で検出した土坑である。長軸0.53m、短軸0.4mで、平面形は梢円形を呈する。深さは0.12mで、断面形は箱形を呈する。SK4と重複し、これより新しい。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は磁器1点が出土している。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	埋入物・備考
SK1	1層	黒褐色(10YR5/1)	シルト	大磚・瓦片多量含む。黄橙色シルトブロック・炭化物少量含む。
SK2	1層	オリーブ褐色(2, 5Y3/3)	砂質シルト	均質。

第35図 R1 45区(III-2層)SK1・2平断面図



図版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	直径	底面形	厚さ	凸面調整	凹面調整	重 量(g)	備 考	写真図版
1	H003	瓦	縦瓦	45区 SK1 1層	(24.5)	-	-	2.1	ナデ	425	水切り溝	15-5
2	H004	瓦	隅切瓦	45区 SK1 1層	(23.0) (17.6) (7.8)	-	2.3	ナデ	1350	-	15-6	
3	H005	瓦	縦瓦	45区 SK1 1層	(9.2) (15.9)	-	3.9	-	-	520	-	15-7
図版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	直径(cm)			時 期		備 考		写真図版
4	I024	瓦質土器	火鉢?	45区 SK1 1層	-	(23.4)	(5.1)	1.9	-	-	-	15-8

第36図 R1 45区(III-2層)SK1出土遺物

SK4土坑(第37図)

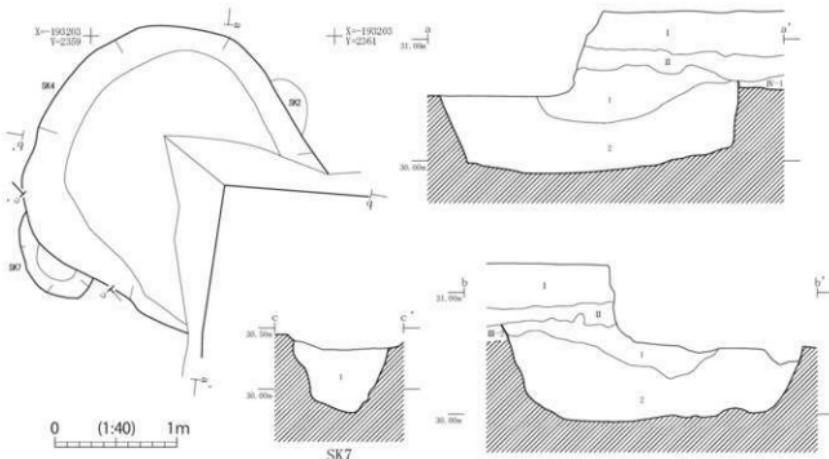
調査区南部で検出した土坑である。東西2.5m以上、南北2.3mで、南東端は調査区外へ延びる。平面形は梢円形を呈すると考えられる。深さは0.8mで、断面形は箱形を呈する。SD2、SK2・7・14・26と重複し、SD2、SK7・14・26より新しくSK2より古い。確認した堆積土は2層である。1層は礫を多量に含むが土質は均質であり、自然堆積と考えられる。2層は基本層由来の淡黄色砂ブロックを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦36点、瓦質土器1点、磁器1点、金属製品1点、木製品1点が出土しており、そのうち瓦質土器1点、磁器1点を図示した。

第38図-1(J006)は1層から出土した肥前の染付皿である。断面に漆雜ぎがみられる。時期は17世紀代である。

第38図-2(I025)は1層から出土した瓦質土器の火鉢である。部位は口縁部で、ロクロナデがみられる。時期は江戸時代である。

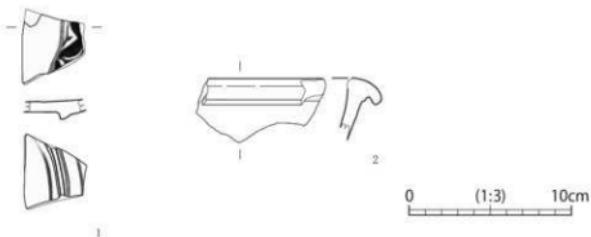
SK5土坑(第39図)

調査区西部中央で検出した土坑である。規模は東西0.42m、南北0.62m以上で、南側はP6に西側は擾乱により失われている。平面形は不明である。深さは0.2mで、断面形は半円形を呈すると考えられる。P6と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の褐色シルトブロックと炭化物を含み、礫を少量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
SK4	1層	黒褐色 (10YR3/1)	シルト	繊維多量含む。
	2層	褐色 (10YR5/1)	シルト	淡黄色シルトブロック多量含む。
SK7	1層	にぶい、黃褐色 (10YR4/3)	シルト	大繊維多量含む。褐色シルトブロック・淡黄色シルトブロック中量含む。

第37図 R1 45区(III-2層)SK4・7 平断面図



遺構番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	出土量 (cm)			在地	時期	備考	写真図版
					目録	底径	高さ				
1	J006	磁器	皿	45区 SK4 1層	-	(2.3)	0.8	肥前	17c代	染付	15-9
2	1025	灰質土器	火鉢	45区 SK4 1層	-	-	1.5	在地未記	江戸時代	-	15-10

第38図 R1 45区(III-2層)SK4出土遺物

SK7土坑(第37図)

調査区南西部で検出した土坑である。規模は東西0.48m以上、南北0.97m以上で、東側はSK4により失われている。平面は楕円形を呈すると考えられる。深さは0.52mで、断面形は開いたU字形を呈する。SK4-14と重複し、SK4より古くSK14より新しい。堆積土は単層であり、大繊維を多量に含み、基本層由来の褐灰色シルトブロックと淡黄色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SK8 土坑（第39図）

調査区南西部で検出した土坑である。規模は長軸1.38m以上、短軸0.93mで、南端はSD2により失われている。平面形は不整形を呈すると考えられる。深さは0.82mで、断面形は南側が開いたU字形を呈する。SD2と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、基本層由來の浅黄褐色シルトブロックと炭化物を含み、橙色シルトブロックを少量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦11点、陶器1点が出土しており、そのうち丸瓦1点、陶器1点を図示した。

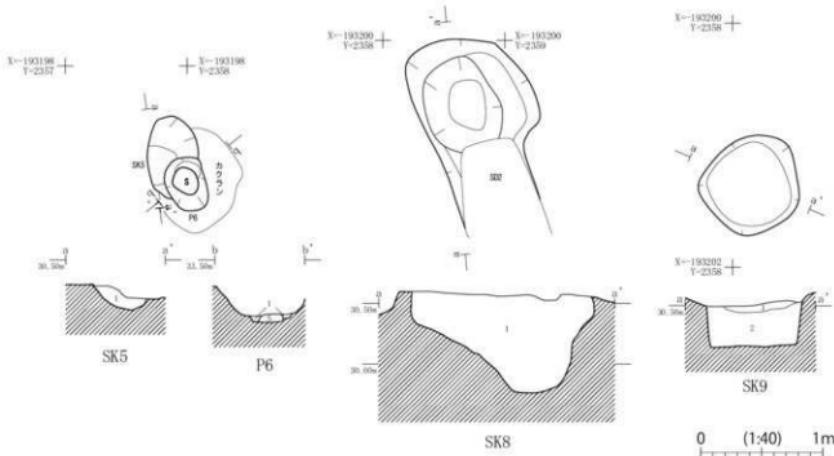
第41図-1(F004)は1層から出土した丸瓦である。凹面にコビキ痕・布目痕、凸面にケズリ調整がみられる。時期は江戸時代である。

第41図-2(I018)は1層から出土した織部の皿である。灰釉と銅緑釉がみられ、見込に目跡がみられる。時期は17世紀前半である。

SK9 土坑（第39図）

調査区南西部で検出した土坑である。規模は長軸0.82m、短軸0.76mで、平面形は不整方形を呈する。深さは0.36mで、断面形は箱形を呈する。SD5、SK13、P13と重複し、これらより新しい。確認した堆積土は2層確認である。1層は炭化物を多量に含み、基本層由來の黄褐色シルトブロックを含んでいる。2層も暗褐色シルトブロックを多量に含んでいることから、ともに人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦2点、陶器1点、金属製品2点が出土しており、そのうち軒丸瓦1点を図示した。

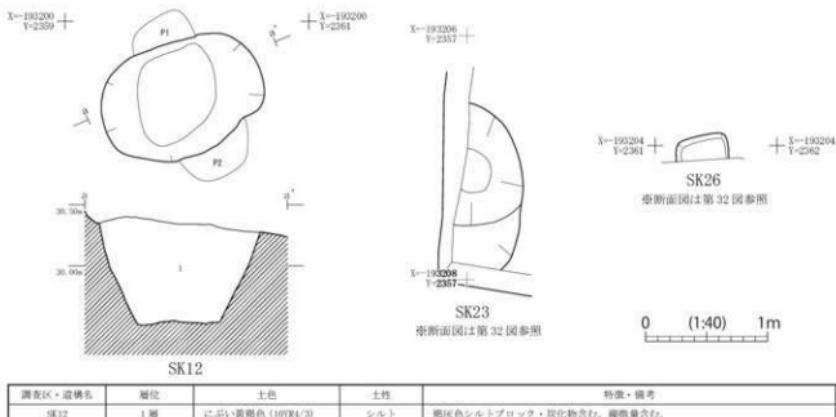
第41図-3(F005)は1層から出土した軒丸瓦の瓦当部である。文様は連珠三巴文で、表面にケズリ調整、裏面にケズリ調整、ユビナデ調整がみられる。時期は江戸時代前半である。



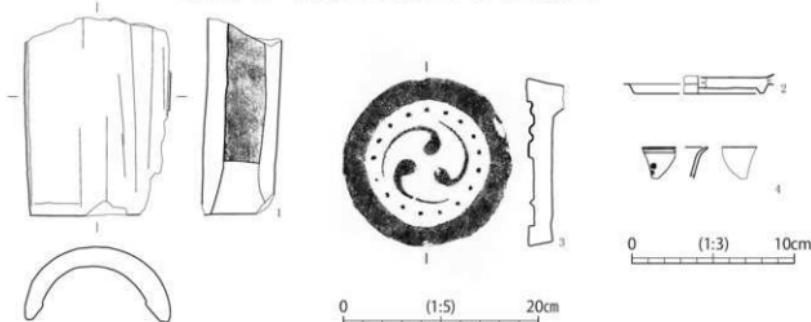
測点(×・遺構名)	層位	土色	土性	主人物・備考
SK5	1層	黄褐色(2.075/3)	シルト	褐色シルトブロック・炭化物含む。褐少量含む。
SK8	1層	にじみ黄褐色(107RA/3)	シルト	浅黄褐色シルトブロック・炭化物含む。褐色シルトブロック少量含む。
SK9	1層	暗褐色(107RA/2)	シルト	炭化物多量含む。黄褐色シルトブロック含む。
P6	1層	灰黄褐色(107RA/2)	シルト	暗褐色シルトブロック多量含む。
		灰黄褐色(107RA/2)	シルト	浅黄褐色シルトブロック・炭化物含む。

第39図 R1 45区(III-2層)SK5・8・9、P6 平断面図

3. 検出遺構と遺物



第40図 R1 45区(III-2層)SK12・23・26平面断面図



国版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	法面(㎝)	凸面調整	凹面調整	重量(g)	備考	写真図版
1	F004	瓦	丸瓦	45区 SK8 1層	129.30	-	-	15.0	7.5	2.3 ケズリ コビキ板
2	1018	陶器	器	45区 SK8 1層	-	4.0	0.6	0.6 破部	17e 半手	灰釉と鉛釉付 見込: 目跡
3	F005	瓦	軒瓦	45区 SK9 1層	130.30	-	-	17.1	12.6	2.8 ケズリ ユビナギ
4	J007	瓦	小輪	45区 SK12 1層	-	-	0.2	0.2	中国 青花端反	青花端反

第41図 R1 45区(III-2層)SK8・9・12出土遺物

SK12土坑(第40図)

調査区西部で検出した土坑である。規模は長軸1.27m、短軸0.88mで、平面形は楕円形を呈する。深さは0.88mで、断面形はやや開いた箱形を呈する。P1・2と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の褐灰色シルトブロックと炭化物を含み、礫を微量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦1点、磁器1点、古銭2点、金属製品1点が出土しており、そのうち磁器1点を図示した。

第41図-1(J007)は1層から出土した中国の青花端反碗である。時期は16世紀末～17世紀前半である。

S K 2 3 土坑（第40図）

調査区南端で検出した土坑である。規模は東西 0.42 m 以上、南北 1.08 m で、西側は調査区外へ延びる。平面形は円形を呈すると考えられる。深さは 0.44 m で、断面形は半円形を呈する。SK25、P23 と重複し、これらより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックと暗褐色シルトブロックを含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

S K 2 6 土坑（第40図）

調査区南東部で検出した土坑である。規模は東西 0.43 m、南北 0.22 m 以上で、南側は調査区外へ延びる。平面形は方形を呈すると考えられる。深さは 0.47 m で、断面形は東側が浅い箱形を呈する。堆積土は単層である。主に土壌が III-2 層と類似している。黄橙色シルトブロックを含み、炭化物を少量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

S K 2 7 土坑（第33図）

調査区南東部で検出した土坑である。規模は東西 0.6 m 以上、南北 0.18 m 以上で、南側は SD3 に削平される。平面形は方形を呈すると考えられる。深さは 0.23 m で、断面形は箱形を呈すると考えられる。SD3 と重複し、これより古い。堆積土は 1 層確認した。淡黄色シルトブロックを中量、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P 1 ピット（第42図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は長軸 0.47 m、短軸 0.4 m で、平面形は橢円形を呈する。深さは 0.36 m で、断面形は U 字形を呈する。SK12 と重複し、これより新しい。柱痕跡と 2 層に分層される掘方埋土を確認した。柱痕跡は径 0.2 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.12 m で、断面形は半円形を呈する。堆積土中から瓦 1 点、金属製品 2 点が出土している。

P 2 ピット（第42図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は長軸 0.9 m、短軸 0.65 m で、平面形は橢円形を呈する。深さは 0.46 m で、断面形は箱形を呈する。SK12 と重複し、これより新しい。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径 0.16 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.25 m で、断面形は U 字形を呈する。堆積土中から瓦 2 点、磁器 1 点、石製品 8 点が出土しており、そのうち陶器 1 点、石製品 1 点を図示した。

第44図-2 (I016) は 1 層から出土した大堀相馬の腰折碗である。灰釉に船流し釉を施している。時期は 18 世紀である。

第44図-3 (K002) は 1 層から出土した粘板岩の硯で、中央部が摩耗している。時期は江戸時代である。

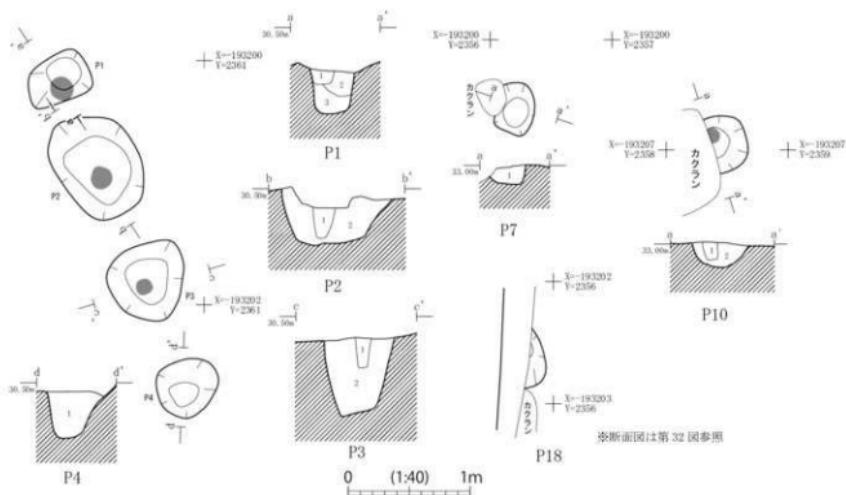
P 3 ピット（第42図）

調査区中央部で検出したピットである。規模は長軸 0.66 m、短軸 0.57 m で、平面形は不整円形を呈する。深さは 0.67 m で、断面形は U 字形を呈する。他の遺構と重複関係はない。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径 0.12 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.24 m で、断面形は U 字形を呈する。堆積土中から瓦 2 点が出土している。

P 4 ピット（第42図）

調査区中央で検出したピットである。規模は径 0.49 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.34 m で、断面形は段を有する U 字形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、基本層由来の黄橙色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦 2 点が出土している。

P1 ~ 4 は、平面上には同軸上に並んでいるように見受けられるが、各ピットの形状や深さが異なるため柱列となる可能性は低いと考えられる。



※断面図は第32図参照

調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
P1	1層	埋褐色 (10YR3/3)	シルト	柱痕跡、浅黄褐色ブロック少量含む。
	2層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	浅黄褐色シルトブロック・炭化物微量含む。
	3層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	浅黄褐色シルトブロック・炭化物微量含む。
P2	1層	埋褐色 (10YR3/3)	シルト	柱痕跡、黄褐色シルトブロック微量含む。
	2層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	シルト	黄褐色シルトブロック少量含む。織合む。
P3	1層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	柱痕跡、均質。
	2層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物少量含む。
P4	1層	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色シルトブロック含む。
P7	1層	埋褐色 (10YR3/2)	シルト	柱痕跡、浅黄褐色シルトブロック少量含む。炭化物微量含む。
P10	1層	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	シルト	柱痕跡、褐灰色シルトブロック・褐色シルトブロック少量含む。
	2層	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	シルト	褐灰色シルトブロック少量含む。

第42図 R1 45区(Ⅲ-2層)SK12・23・26、P1～4・7・10・18 平断面図

P6ピット(第39図)

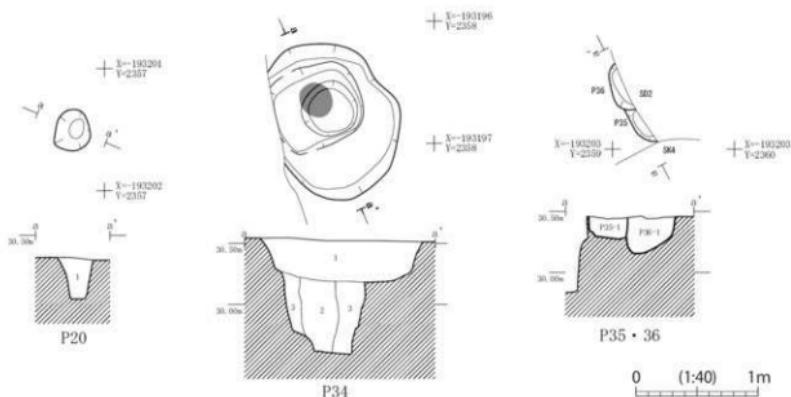
調査区西部中央で検出したピットである。規模は長軸0.45m、短軸0.33mで、上部は擾乱に削平される。平面形は梢円形を呈する。深さは0.06mで、断面形は箱形を呈する。SK5と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の浅黄褐色シルトブロックと炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。底面で長軸0.23m、短軸0.19mの扁平な礫を確認した。堆積土中から石製品1点が出土している。

P7ピット(第42図)

調査区西部で検出したピットである。規模は長軸0.42m、短軸0.3mで、西側は擾乱に削平される。平面形は不整円形を呈する。深さは0.12mで、断面形は箱形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、基本層由来の浅黄褐色シルトブロックを少量含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦1点が出土している。

P10ピット(第42図)

調査区南部で検出したピットである。規模は径0.45mで、西側は擾乱により失われている。平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.2mで、断面形は半円形を呈する。P12と重複し、これより新しい。柱痕跡と掘方理



第43図 R1 45区(III-2層)P20・34～36 平断面図

土を確認した。柱痕跡は径 0.14 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.15 m で、断面形は U 字形を呈する。遺物は出土していない。

P18 ピット(第42図)

調査区西部で検出したピットである。規模は東西 0.15 m 以上、南北 0.54 m で、西側は調査区外へ延び南端は擾乱により失われている。平面形は不明である。深さは 0.45 m で、断面形は底面がくぼんだ逆台形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、基本層由来の褐灰色シルトブロックを多量に含み、褐色シルトブロックを微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

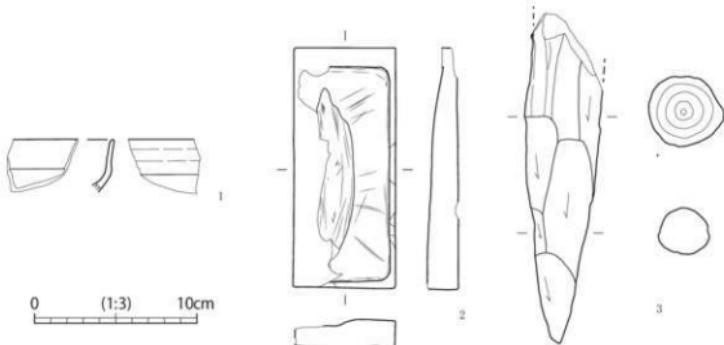
P20 ピット(第43図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径 0.34 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.32 m で、断面形は U 字形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土単層であり、基本層由来の浅黄橙色シルトブロックを多量に含み、褐灰色シルトブロックを微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P34 ピット(第43図)

調査区北西隅で検出した抜き取り穴を伴うピットである。当初は土坑として調査していたが、断面観察により抜き取り穴、柱痕跡、掘方理土を確認したため柱穴とした。抜き取り穴の規模は長軸 1.35 m、短軸 1 m 以上で、西端が擾乱により失われている。平面形は梢円形を呈する。深さは 0.34 m で、断面形は逆台形を呈する。

柱穴の規模は長軸 0.68 m、短軸 0.56 m 以上で、平面形は方形を呈すると考えられる。深さは 0.59 m で、断面形は U 字形を呈する。SD1、SK6 と重複し、これらより新しい。確認した堆積土は 3 層である。1 層は抜き取り穴の堆積土である。2 層は柱痕跡である。柱痕跡の径は 0.28 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.59 m で、断面形は U 字形を呈する。3 層は掘方理土である。1～3 層は類似しているが、1 层は 2・3 層より黄橙色シルトブロックや橙色シルトブロックを多く含み、2 層は 1・3 層よりしまりがない。底面からは長軸 0.27 m、短軸 0.22 m の礫を



国版番号	登録番号	種類	器種	遺構・層位	尺度(cm)			産地	時期	備考	写真図版
					長	幅	高さ				
1	1016	陶器	縦折板	45区 P2 1層	-	-	0.4	大輪相馬	18c	灰釉に鉛釉し軸	15-15
2	K002	石製品	硯	45区 P2 1層	14.8	6.3	1.8	-	290	-	15-16
3	L003	木製品	杭	P34 1層	15.1	5.6	-	-	-	-	16-1
-	L001	木製品	杭	P34 1層	17.3	4.0	-	-	-	-	16-2
-	L002	木製品	杭	P34 1層	20.4	4.4	-	-	-	-	16-3

第44図 R1 45区(III-2層)P2・34出土遺物

確認した(写真図版10-2)。堆積土中から瓦15点、木製品3点、金属製品2点が出土している。そのうち木製品1点を図示した。

第44図-3(L003)は1層から出土した杭状の木製品である。芯持材で、先端部に加工痕がみられる。

P35ピット(第43図)

調査区南部で検出したピットである。規模は東西0.08m以上、南北0.16m以上で、平面形は不明である。深さは0.11mで、断面形は段を有する箱形を呈すると考えられる。SD2、SK4、P36と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックと炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

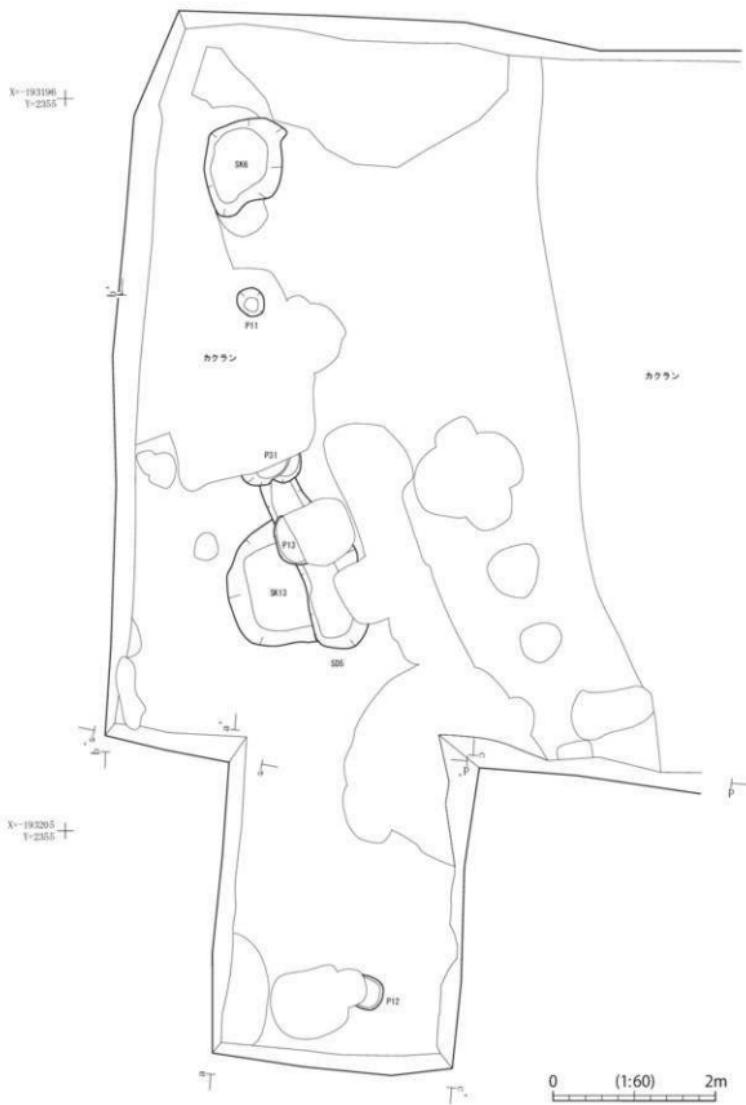
P36ピット(第43図)

調査区南部で検出したピットである。規模は東西0.12m以上、南北0.41mで、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.24mで、断面形は段を有する半円形を呈すると考えられる。SD2、P35と重複し、SD2より古くP35より新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックと炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

IV-1層検出遺構

SD5溝跡(第46図)

調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ2.28m以上、幅0.72mで、北側はP31と擾乱により失われている。深さは0.2mで、断面は箱形を呈する。方向はN-28°-Wである。SK1・9・13、P13・31と重複し、SK13より新しくSK1・9、P13・31より古い。堆積土は単層であり、基本層由来の明黄褐色シルトブロックを含み、黒褐色シルトブロック、炭化物、礫を微量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦2点、陶器2点、



第45図 R1 45区(IV-1層)平面図

瓦質土器 1 点、金属製品 1 点が出土している。そのうち瓦質土器 1 点を図示した。

第 47 図-1 (I023) は 1 層から出土した瓦質土器の灰落としてある。時期は江戸時代である。

SK6 土坑 (第 46 図)

調査区北西隅で検出した土坑である。規模は長軸 1.02 m、短軸 0.96 m で、平面形は不整形を呈する。深さは 0.62 m で、断面形は箱形を呈する。SD1、P34 と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、炭化物を含み、基本層由来の淡黄色シルトブロックを多量、繊を微量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土からに瓦 5 点が出土している。

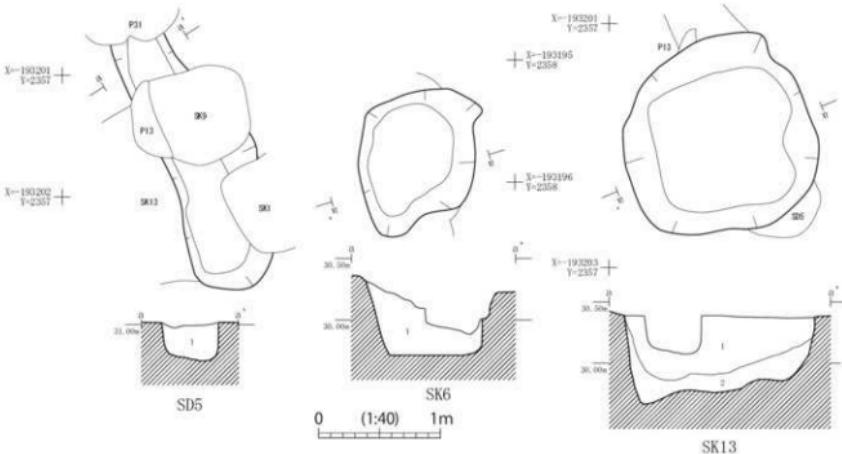
SK13 土坑 (第 46 図)

調査区西部で検出した土坑である。規模は長軸 1.47 m、短軸 0.96 m で、東側の堆積土上部は SD5 により失われている。平面形は方形を呈する。深さは 0.72 m で、断面形は底面が東側に傾斜した箱形を呈する。SD5、SK18、P13 と重複し、SD5、P13 より古く SK18 より新しい。確認した堆積土は 2 層である。1 層は灰黃褐色シルト、2 層はにぶい黄褐色砂を主体とし、1・2 層とも基本層由来の黒褐色シルトブロックと褐灰色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦 18 点、陶器 2 点、土師質土器 7 点、金属製品 1 点、石製品類 6 点が出土しており、そのうち軒平瓦 4 点、陶器 4 点、土師質土器 2 点、石製品 1 点を図示した。

第 47 図-2 (G006) は 1 层から出土した軒平瓦である。瓦当文様は三葉文で、凸面にケズリ調整、凹面にコビキ痕がみられる。時期は江戸時代前半である。

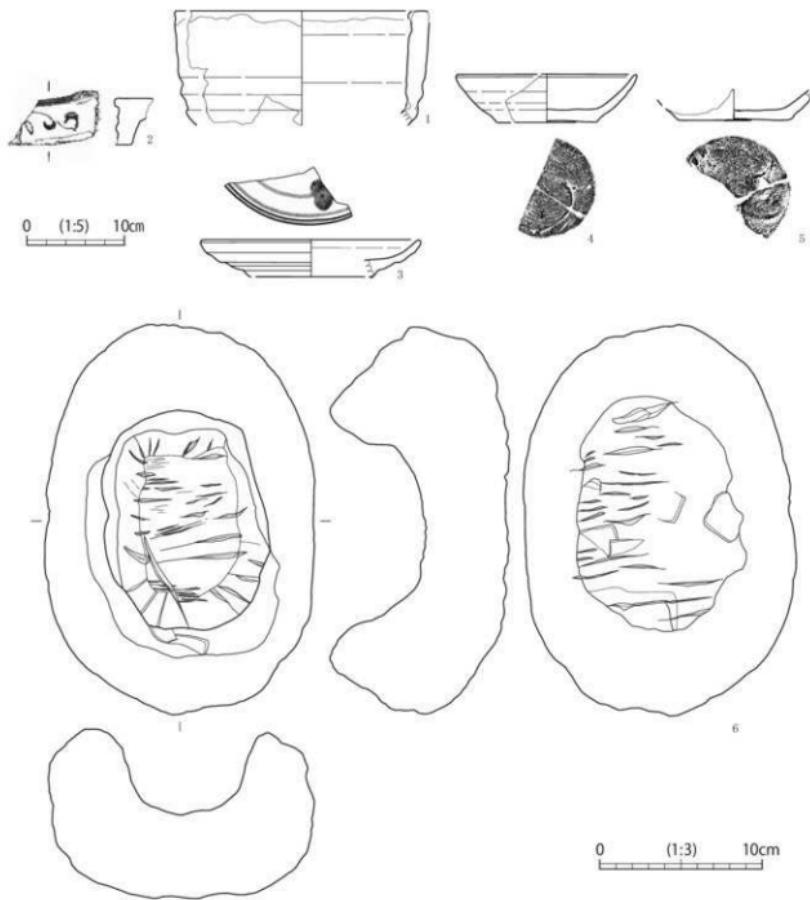
第 47 図-3 (I019) は 1 层から出土した志野織部の皿である。時期は 17 世紀前半である。

第 47 図-4・5 (I035・036) は 1 层から出土した土師質土器の皿である。いずれも内面・外面にロクロナデ調整、底部には回転糸切りがみられる。時期は江戸時代とみられる。



第 46 図 R1 45 区 (IV-1 層) SD5、SK6・13 断面図

調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
SD5	1 層	オーリーブ褐色 (2, SI4/4)	シルト	明黄褐色シルトブロック含む。黒褐色シルトブロック・炭化物・纖維量含む。
SK6	1 層	黒褐色 (10YR4/2)	シルト	淡黄色シルトブロック多量含む。炭化物含む。纖維量含む。
SK13	1 層	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	黒褐色シルトブロック・褐灰色シルトブロック含む。
	2 層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂	黒褐色シルトブロック含む。褐灰色シルトブロック多量含む。



回収番号	登録番号	種類	部種	遺構・層位	重量(g)				時期	備考			写真図版
					直径	底径	高さ	厚さ		直径	底径	高さ	
1	3023	瓦質土器	瓦とし	45区 SK5 1層	-	(14.2)	(6.7)	1.1	江戸時代	-	-	-	16-4
2	6002	瓦	軒平瓦	45区 SK13 1層	唐草文	-	(4.7)	-	(3.1)	160	ケズリ	コピキ紙	16-5
回収番号	登録番号	種類	部種	遺構・層位	重量(g)				直径	底径	高さ	厚さ	備考
3	1019	陶器	瓶	45区 SK13 1層	(13.5)	(7.5)	(2.3)	1.1	志野織部	17e 前半	長石袖	-	16-6
4	1035	土師質土器	瓶	45区 SK13 1層	(11.1)	6.2	3.0	0.8	-	江戸時代	-	-	16-7
5	1036	土師質土器	瓶	45区 SK13 1層	-	(6.9)	-	0.8	-	江戸時代	-	-	16-8
回収番号	登録番号	種類	部種	遺構・層位	直径	底径	高さ	厚さ	直径	底径	高さ	厚さ	備考
6	3003	石製品	不明	45区 SK13 1層	24.0	16.3	19.3	14	2670	-	-	-	16-9

第47図 R1 45区(IV-1層)SD5・SK13出土遺物

第47図-6 (K003)は1層から出土した用途不明の石製品である。中央部に方形の穴が彫りこまれており、全体的に石鑿の加工痕がみられる。

P11 ピット (第48図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径0.36mで、上部を擾乱に削平される。平面形は円形を呈する。深さは0.12mで、断面形はやや開いた箱形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、基本層由来の黄色シルトブロックを含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P12 ピット (第48図)

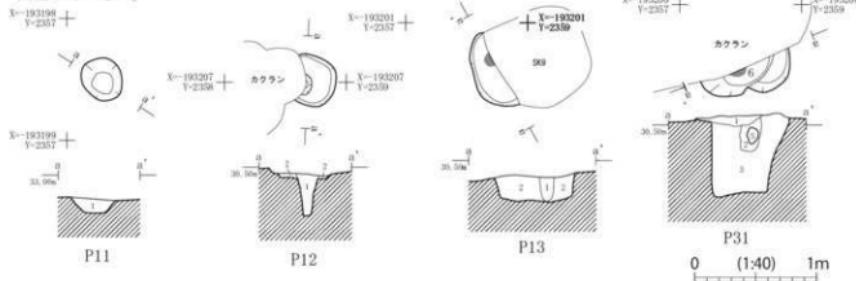
調査区南部で検出したピットである。規模は径0.24m以上で、西側はP10に削平される。平面形は方形を呈すると考えられる。深さは0.34mで、断面形は掘方埋土が皿形で柱痕跡がU字形を呈する。P10と重複し、これより古い。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.14mで、平面形は円形を呈する。遺物は出土していない。

P13 ピット (第48図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径0.63m以上で、東側はSK9により失われている。平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.2mで、断面形は箱形を呈する。SD5、SK13・9と重複し、SK9より古くSD5、SK13より新しい。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.12mで、平面形は円形である。深さは0.19mで、断面形はU字形を呈する。堆積土中から石製品1点が出土している。

P31 ピット (第48図)

調査区西部で検出した抜き取り穴を伴うピットである。北側は擾乱により失われている。抜き取り穴の規模は径0.6mで、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.09mで、断面形は皿形を呈する。柱穴の規模は径0.52mで、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.64mで、断面形は箱形を呈する。SD5と重複し、これより新しい。確認した堆積土は3層である。1層は抜き取り穴の堆積土である。2層は柱痕跡である。柱痕跡の径は0.16mで、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.27mで、断面形はU字形である。3層は掘方埋土である。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
P11	1層	黒褐色(2, 5Y3/2)	シルト	黄色シルトブロック含む。炭化物微量含む。
P12	1層	褐灰色(10Y5/1)	シルト	柱痕跡。浅黄褐色シルトブロック微量含む。
	2層	褐灰色(10Y4/1)	シルト	浅黄褐色シルトブロック微量含む。
P13	1層	黒褐色(10Y3/2)	シルト	柱痕跡。浅黄褐色シルトブロック微量含む。
	2層	灰黄褐色(10Y4/2)	シルト	浅黄褐色シルトブロック微量含む。炭化物微量含む。
P31	1層	黒褐色(10Y3/2)	シルト	抜き取り穴。黄褐色シルトブロック・炭化物含む。
	2層	灰黄褐色(10Y4/2)	シルト	柱痕跡。褐色シルトブロック・炭化物含む。褐色シルトブロック微量含む。淡黄色シルトブロック微量含む。
	3層	オリーブ褐色(2, 8Y3/3)	シルト	闇灰色シルトブロック多量含む。炭化物微量含む。

第48図 R1 45区(IV-1層)P11～13・31 平断面図

VI層検出遺構**SD4溝跡（第49図）**

調査区南西部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ1.08m、幅0.54mである。深さは0.44mで、断面形はU字形を呈する。方向はN-28°-Wである。SD2と重複し、これより古く、上部はSD2により失われている。確認した堆積土は2層である。1層は基本層由来の黄橙色シルトブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。2層は土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。堆積土中から瓦1点、陶器1点、磁器1点、金属製品1点が出土している。

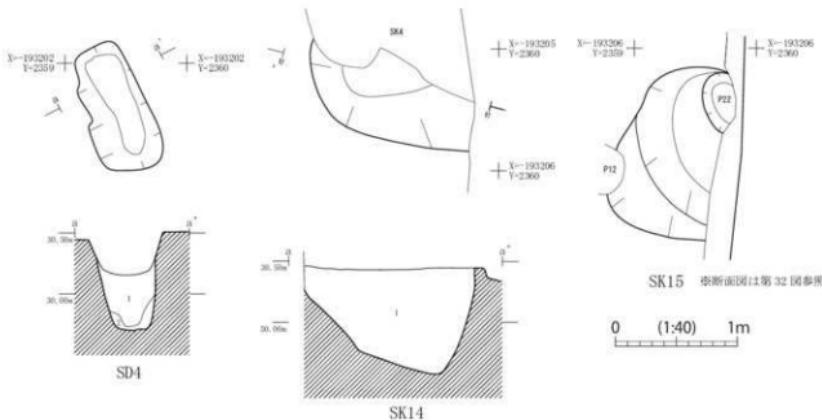
SK14土坑（第49図）

調査区南部で検出した土坑である。規模は東西1.26m以上、南北0.42mで、東側は調査区外へ延び北側はSK4より失われている。平面形は不明である。深さは0.86mで、断面形は東側が開いた箱形を呈する。SK4、SK7と重複し、これより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の灰白色シルトブロックと褐灰色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SK15土坑（第49図）

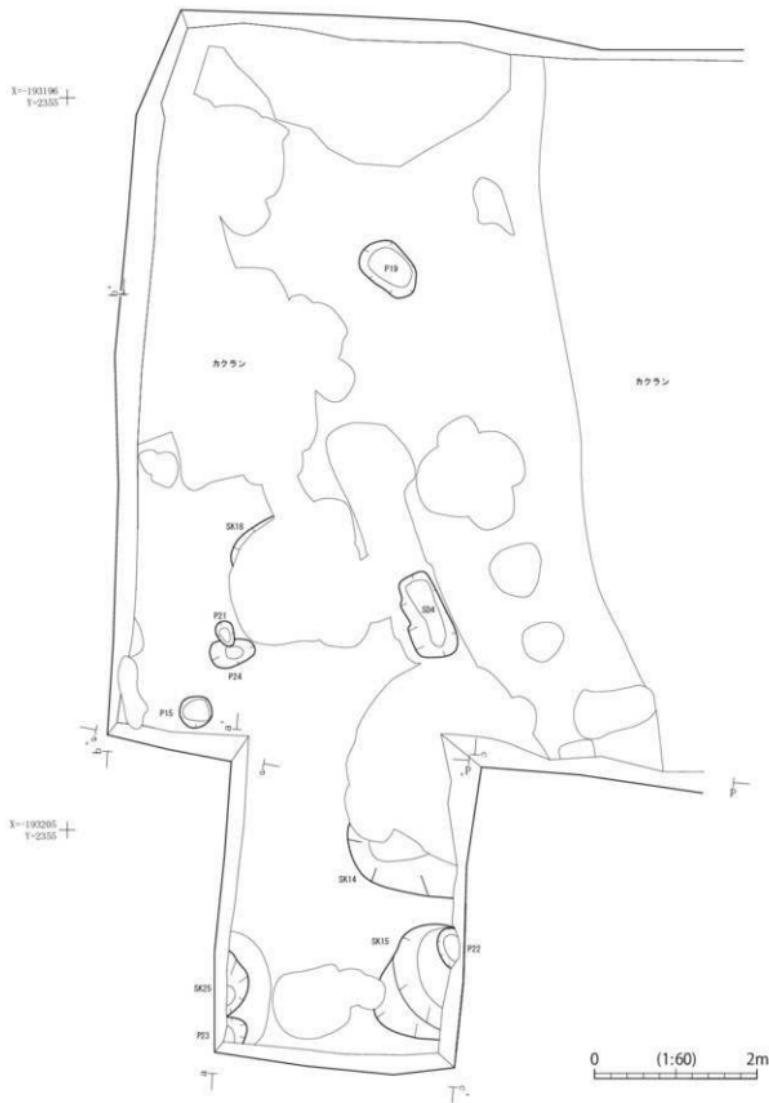
調査区南部で検出した土坑である。規模は東西0.84m以上、南北1.42m以上で、東側は調査区外へ延び西側の一部はP12により失われている。平面形は楕円形を呈すると考えられる。深さは0.5mで、断面形はV字形を呈すると考えられる。P12・22と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロック、黄橙色砂を多量に含み、炭化物を少量含むことから、人為堆積と考えられる。堆積土中から瓦6点が出土しており、そのうち丸瓦1点を図示した。

第51図-1(F006)は1層から出土した丸瓦で、凸面にケズリ調整、凹面にコビキ痕、布目痕がみられる。時期は江戸時代前半である。

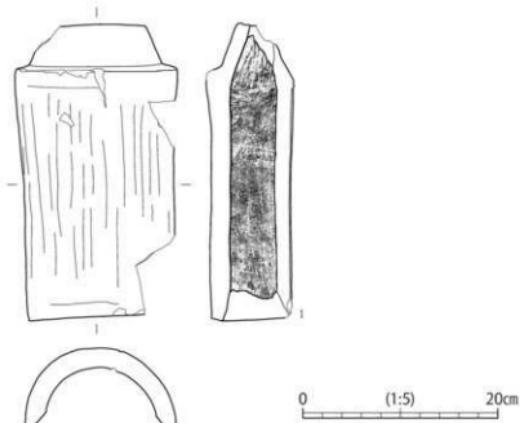


調査区・遺構名	層位	土色	土性	剖面物・備考
SD4	1層	黒褐色(10YR3/1)	シルト	黄橙色シルトブロック・炭化物含む。
	2層	に近い黒褐色(10YR5/4)	砂	均質。
SK14	1層	に近い黒褐色(10YR4/3)	シルト	灰白色シルトブロック・褐灰色シルトブロック含む。

第49図 R1 45区(VI層)SD4、SK14・15 平断面図

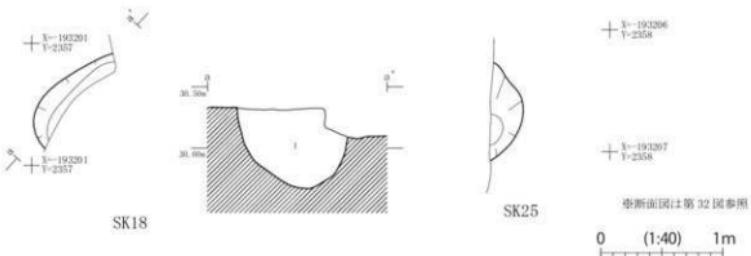


第50図 R1 45区(VI層)平面図



回収番号	登録番号	種類	記号	遺構・層位	計量(cm)				重 量(g)	凸面調整	備 考	写真図版		
					長さ	幅	高さ	厚さ						
1	P006	瓦	丸瓦	45区 SK15 1層	30.3	26.0	3.7	16.7	8.3	2.0	1810	ケズリ コビキ板 筋目板	-	16-10

第51図 R1 45区(VI層)SK15出土遺物



調査区・遺構名	層位	土色	土性	測定人物・備考
SK18	1層	にぶい・黄褐色(10YR4/3)	シルト	浅黄褐色シルトブロック多量含む。

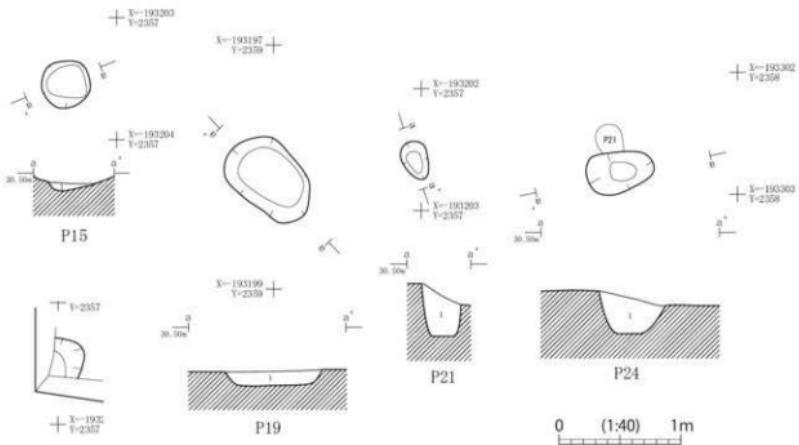
第52図 R1 45区(VI層)SK18・25 平断面図

SK18土坑 (第52図)

調査区西部で検出した土坑である。大部分がSK13により失われているため、北端部のみの検出である。規模や平面形は不明である。深さは0.66mで、断面形は半円形を呈すると考えられる。SD5、SK13、P13と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の浅黄褐色シルトブロックを多量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SK25土坑 (第52図)

調査区南端で検出した土坑である。規模は東西0.24m以上、南北0.8mで、西側は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは0.28mで、断面形は半円形を呈すると考えられる。SK23、P23と重複し、これらより古い。堆積土は単層であり、基本層由来の暗褐色シルトブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。



断面図は第32図参照

調査区・追跡名	層位	土色	土性	個人物・備考
P15	1層	黒褐色(10YR3/2)	シルト	均質。
P19	1層	灰黃褐色(10YR4/2)	シルト	淡黄色シルトブロック多量含む。礫含む。
P21	1層	灰黃褐色(10YR4/2)	シルト	淡黄色シルトブロック含む。黒褐色シルトブロック・炭化物微量含む。
P24	1層	褐色(10YR5/1)	砂	均質。

第53図 R1 45区(VI層)P15・19・21・23・24平断面図

P15 ピット(第53図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径0.39mで、平面形は円形を呈する。深さは0.64mで、断面形は皿形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P19 ピット(第53図)

調査区北部で検出したピットである。規模は長軸0.84m、短軸0.54mで、平面形は橢円形を呈する。深さは0.12mで、断面形は皿形を呈する。他の遺構と重複関係はない。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックを多量に含み、礫を含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P21 ピット(第53図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径0.32mで、平面形は円形を呈する。深さは0.38mで、断面形はU字形を呈する。P24と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックを含み、黒褐色シルトブロックと炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P22 ピット(第49図)

調査区南部で検出したピットである。規模は径0.24m以上で、東側は調査区外へ延びる。平面形は円形を呈する」と考えられる。深さは0.44mで、断面形はU字形を呈する。SK15と重複し、これより新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の淡黄色シルトブロックを含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P23 ピット（第53図）

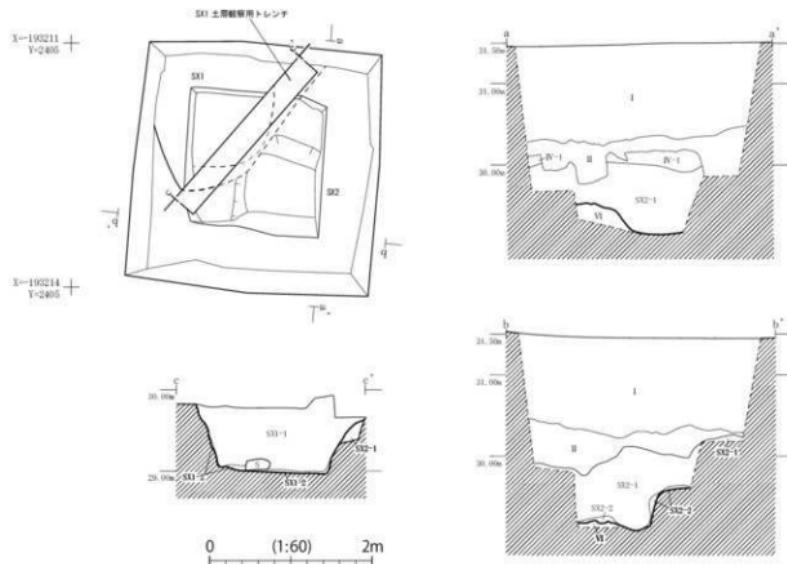
調査区南部で検出したピットである。規模は径 0.27 m 以上で、北側は SK23 に削平され、南西側は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは 0.34 m で、断面形は U 字形を呈する。SK23・25 と重複し、SK23 より古く SK25 より新しい。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックを含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

P24 ピット（第53図）

調査区西部で検出したピットである。規模は長軸 0.84 m、短軸 0.54 m で、平面形は橢円形を呈する。深さは 0.28 m で、断面形は U 字形を呈する。P21 と重複し、これより古い。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

46 区（第54図）

東西 3 m、南北 2.97 m (8.91 m²) の調査区である。表土下 1.8 m (標高 29.3 m) で性格不明遺構 2 基を検出した。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
46区	I 層	暗灰褐色 (10YR4/1)	シルト	砂利多量含む。炭化物粒・黄褐色シルトブロック微量含む。
	II 層	灰・灰褐色 (10YR4/3)	シルト	炭化物・繊維・ガラス少量含む。
	IV-1 層	黄褐色 (2.5Y5/4)	砂	灰白色砂・炭化物粒微量含む。
	VI 層	褐色 (7.5YR4/3)	シルト	黄褐色シルト・炭褐色シルトブロック多量含む。
SK1	1 層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	黄褐色シルト・黒褐色シルトブロック多量含む。炭化物を微量含む。人為堆積。
	2 層	灰オリーブ (5Y5/3)	粘質シルト	均質。
SK2	1 層	黑褐色 (10YR3/1)	シルト	黄褐色シルトブロック含む。
	2 層	灰オリーブ (5Y5/2)	粘質シルト	均質。

第54図 R1 46区平断面図

SX1 性格不明遺構（第 54 図）

調査区北部で検出した性格不明遺構である。規模は東西 2.05 m 以上、南北 0.87 m 以上で、北西部分は調査区外へ延びる。平面形は不明である。深さは 0.76 m で、断面形は箱形を呈する。SX2 と重複し、これより新しい。確認した堆積土は 2 層である。1 層は基本層由来の黄褐色シルトブロック、黒褐色シルトブロックを多量に含み、炭化物を微量含むことから、人為堆積と考えられる。2 層は灰オリーブ色粘土であることや SX1 の断面形に沿って堆積していることから、水漏れを防ぐための貼土の可能性がある。遺物は出土していない。

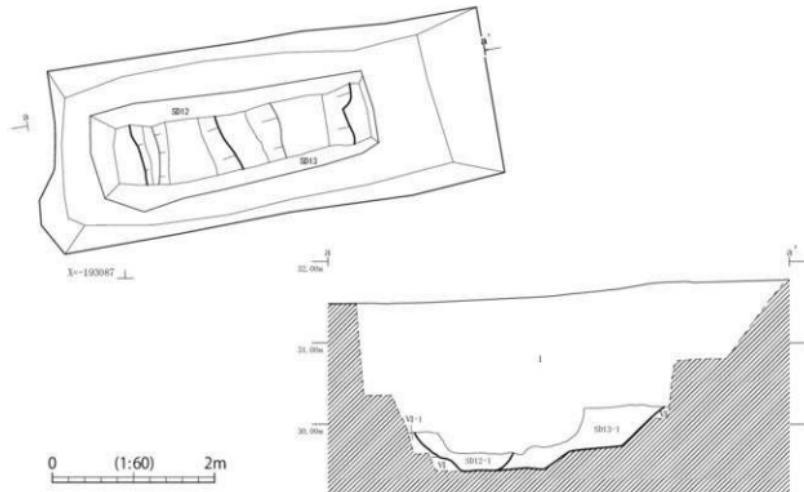
SX2 性格不明遺構（第 54 図）

調査区のほぼ全面で検出した性格不明遺構である。規模は一辺 3 m 以上で、北西部分は SX1 によって失われており、平面形は不明である。深さは 1.02 m で、断面形は不明である。SX1 と重複し、これより古い。確認した堆積土は 2 層である。1・2 層とも SX1 の堆積土と類似し、1 层は人為堆積と考えられる。2 層は水漏れを防ぐための貼土の可能性がある。遺物は出土していない。

51 区（第 55 図）

東西 5.3 m、南北 2.25 m (11.93 m^2) の調査区である。表土下 1.6 m (標高 29.96 m) の VI 層上面で溝跡 2 条を横出した。

X=193083
Y=2388



第 55 図 R1 51 区平断面図

調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
R1 区	I 層	褐灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	細多量含む。プラスチック・ビニール・瓦片・ガラス・レンガ含む。黄褐色砂ブロック少量含む。
	VI 層	に点・黄褐色 (10Y5/4)	砂質シルト	均質。
SB12	1 层	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色シルトブロック・炭化物含む。纖少量含む。
SB13	1 层	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	均質。

SD12 溝跡（第55図）

調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ 0.76 m 以上、幅 1.08 m で、両端は調査区外へ延びる。深さは 0.22 m で、西側にテラス状の段を有している。方向は N-25°-W である。SD13 と重複し、これより新しい。検出は VI 層上面だが、調査区の断面観察により本来は IV-1 層で検出される遺構であった。堆積土は単層であり、基本層由来の黄褐色シルトブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。

SD13 溝跡（第55図）

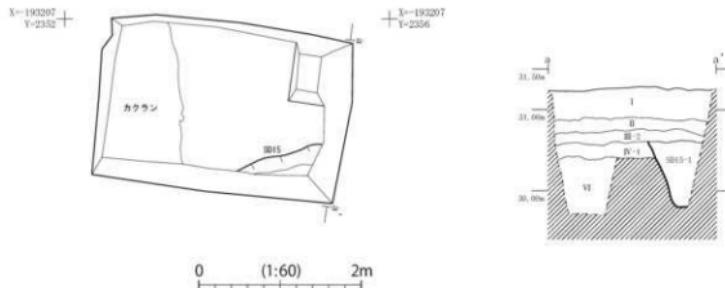
調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。規模は長さ 0.69 m 以上、幅 1.68 m 以上で、両端は調査区外へ延び東側は SD12 により失われている。深さは 0.54 m で、東側にテラス状の段を有している。方向は N-25°-W である。SD12 と重複し、これより古い。堆積土は単層である。土質が均質なことから、自然堆積と考えられる。遺物は出土していない。

52 区（第56図）

東西 2.97 m、南北 1.98 m (5.88 m^2) の調査区である。表土下 0.88 m (標高 30.4 m) の VI 層上面で溝跡 1 条を検出した。その後下層の状況確認のため北西隅を表土下 1.55 m (標高 29.7 m) まで深掘りしたが、層位に変化はみられなかった。

SD15 溝跡（第56図）

調査区南東隅で検出した東西方方向の溝跡である。規模は長さ 1.14 m 以上、幅 0.3 m 以上で、東西端と南側は調査区外へ延びる。深さは 0.84 m で、断面形は U 字形を呈する。方向は N-72°-E である。検出は VI 層上面だが、調査区の断面観察により本来は IV-1 層で検出される遺構であった。堆積土は単層であり、基本層由来の暗褐色砂ブロックを多量に含むことから、人為堆積と考えられる。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	混入物・備考
SD 区	I 層	褐灰色 (10YR4/1)	砂質シルト	縦多量含む。プラスチック・ビニール・瓦片・ガラス・レンガ含む。黄褐色砂ブロック少量含む。
	II 層	暗褐色 (10YR3/3)	シルト	縦多量含む。ガラス・瓦片少量含む。
	III-2 層	褐灰色 (10YR4/1)	砂	炭化物少量含む。
	IV-1 層	黒褐色 (10YR3/1)	砂	暗褐色砂ブロック多量含む。
	VI 層	にじい褐灰色 (10YR5/4)	砂質シルト	均質。
SD15	1 層	黒褐色 (10YR3/1)	砂	暗褐色砂ブロック多量含む。底面付近に礫が堆積する。

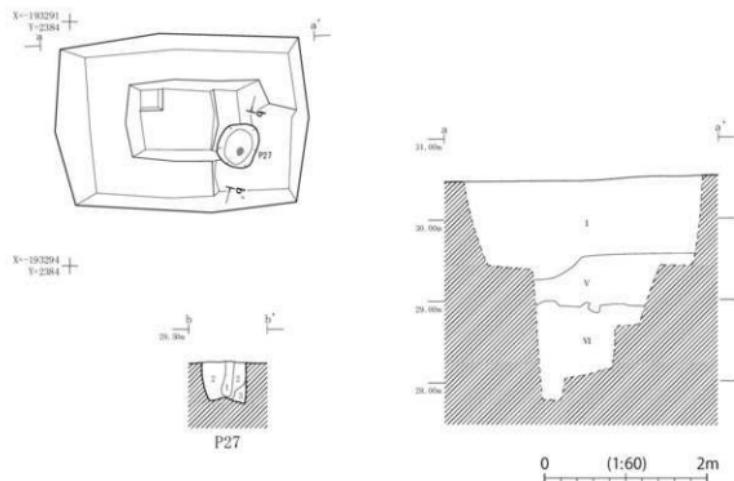
第56図 R1 52区平断面図

68 区（第 57 図）

東西 2.92 m、南北 2 m (5.84 m²) の調査区である。表土下 1.08 m (標高 29.92 m) の V 層上面でピット 1 基を検出した。その後下層の状況確認のため表土下を 2.69 m (標高 27.86 m) まで深掘りし、VI 層を確認したが、遺構は確認されなかった。

P27 ピット（第 57 図）

調査区東部で検出したピットである。規模は径 0.55 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.5 m で、断面形は箱形を呈する。柱痕跡と 2 層に分層される掘方埋土を確認した。柱痕跡は径 0.1 m で、平面形は円形を呈する。深さは 0.43 m で、断面形は U 字形を呈する。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
68 区	I 層	褐色 (10YR4/4)	粗砂	繊維量含む。
	V 層	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	酸化鉄沈殿	酸化鉄少量含む。
	VI 層	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	細砂	にぶい黄褐色土ブロック・酸化鉄少量含む。
P27	1 層	黒褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色砂質シルト小ブロック含む。
	2 層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	下部に黒褐色シルトブロック少量化。
	3 層	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	繊維量含む。

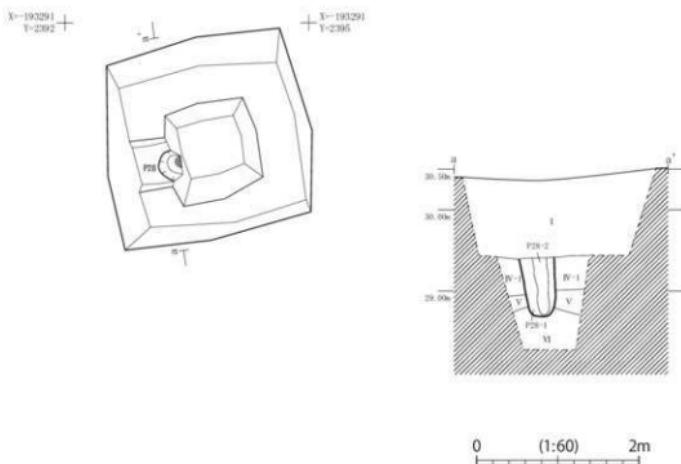
第 57 図 RI 68 区平断面図

69区(第58図)

東西2.32m、南北2.29m(5.31m²)の調査区である。表土下2.06m(標高28.3m)のVI層上面で遺構検出作業を行ったが、平面では遺構は検出できなかった。断面観察によりIV-1層を掘り込む遺構を確認したため、調査区を拡張した結果、ピット1基を検出した。

P28ピット(第58図)

調査区西部で検出したピットである。規模は径0.32m以上で、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.62mで、断面形はU字形を呈する。柱痕跡と掘方埋土を確認した。柱痕跡は径0.15mで、平面形は円形を呈すると考えられる。深さは0.43mで、断面形はU字形を呈する。遺物は出土していない。



調査区・遺構名	層位	土色	土性	特徴・備考
69区	I層	褐色(10YR4/4)	粗砂	鐵多量含む。
	IV-1層	褐色(10YR6/1)	砂	均質。
	V層	オリーブ褐色(2.5Y4/3)	砂	均質。
	VI層	にじみ黄褐色(10YR5/4)	砂質シルト	オリーブ褐色砂少量含む。
P28	1層	褐色(10YR5/1)	砂質シルト	均質。
	2層	にじみ黄褐色(10YR4/3)	砂質シルト	均質。

第58図 R1 69区平断面図

第6章 まとめ

・平成27年度調査では近代の遺構と考えられるSX1・2・4を検出した。平成27年度調査範囲である櫻岡大神宮の南側は、明治時代以降「挹翠館」や公会堂といった近代の建物が建てられていたことから、SX1・2・4はこれらの近代建築に関連する遺構の可能性がある。

・平成27年度調査のⅢ・Ⅳ層、平成28年度調査のⅢ・Ⅳ層は近世の整地層と考えられるが、武家屋敷に関連する遺構は検出できなかった。

・令和元年度の調査区は87区あり、調査区の配置は地下鉄東西線の高架橋の北側と南側の2つに分かれる。遺構を検出した調査区は15区あり、このうち10区が高架橋より北側の調査区であるため、遺構の遺存状況は高架橋の南側よりも北側のほうが良好と考えられる。

・令和元年度調査では近世の整地層と考えられるⅢ～V層を確認した。

・令和元年度調査の45区のSK1からは埴瓦(第35図-1・3)が出土している。慶応元(1865)年仙台城下図屏風(第59図)では「御小人」の居住地が堀に囲まれている様子が描かれており、SK1から出土した埴瓦はこのような堀に葺かれていた可能性がある。



第59図 仙台城下図屏風(慶応元(1865)年)

仙台市博物館蔵
囲〇が調査区周辺を示す

引用・参考文献

大和浩郎・竹内利美は小編 1987『日本歴史地名大系4 宮城県の地名』平凡社

菊池勝之助 1971『修正増補 仙台地名考』宝文堂

仙台市教育委員会 2004『元袋遣將一帯市計画道路「川内・柳生線」開通跡一発掘調査報告書II』仙台市文化財調査報告書第272集

仙台市教育委員会 2007『桜ヶ岡公園遺跡第一・2次調査報告書』仙台市文化財調査報告書第318集

仙台市教育委員会 2008『桜ヶ岡公園遺跡第一・3次調査報告書』仙台市文化財調査報告書第335集

仙台市教育委員会 2011『桜ヶ岡公園遺跡第一・4次調査報告書』仙台市文化財調査報告書第378集

仙台市教育委員会 2011『桜ヶ岡公園遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IV-』仙台市文化財調査報告書第384集

仙台市教育委員会 2012『桜ヶ岡公園遺跡—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IX-』仙台市文化財調査報告書第403集

仙台市建設局 2018『西公園再整備事業の概要』

仙台市編さん委員会 2001『仙台市史 通史編3 近世I』

仙台市編さん委員会 2008『仙台市史 通史編6 近代I』

仙台市編さん委員会 2009『仙台市史 通史編6 近代II』

仙台市編さん委員会 2011『仙台市史 通史編8 現代I』

高倉淳ほか編 1994『絵図・地図で見る仙台 第一輯』今野印刷

吉岡一男ほか編 2005『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷

東北大大学理蔵文化財調査室 2017『東北大大学理蔵文化財調査室調査報告6 仙台城跡二の丸第18地点』

東北大大学理蔵文化財調査室 2020『東北大大学理蔵文化財調査室調査報告8 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点第2部』

財團法人瀬戸市文化振興事業団理蔵文化財センター 2006『江戸時代のやきもの一生涯と流通ー』記念講演会シンポジウム資料集

写 真 図 版



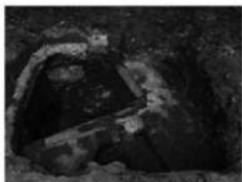
1 1区 完掘全景（東から）



2 2区 完掘全景（西から）



3 2区 西壁土層断面（東から）



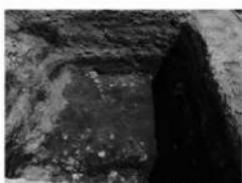
4 4区 造構検出状況（南から）



5 4区 西壁土層断面（東から）



6 5区 東壁土層断面（西から）



7 5区 造構検出状況（南から）



8 5区 SX20 検出状況（西から）



9 6区 完掘全景（東から）



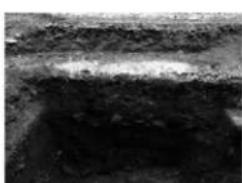
10 6区 西壁土層断面（東から）



11 9区 西壁土層断面（東から）



12 13区 造構掘削（西から）



13 13区 北壁土層断面（南から 1）



14 13区 北壁土層断面（南から 2）



15 13区 北壁土層断面（南から 3）

写真図版 1 平成 27 年度調査



1 完掘状況（北西から）



2 西壁土層断面（東から）



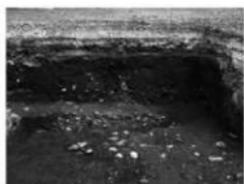
3 北壁土層断面（南から 1）



4 北壁土層断面（南から 2）



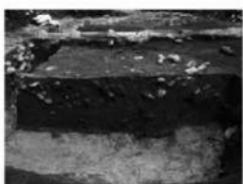
5 北壁土層断面（南から 3）



6 北壁土層断面（南から 4）



7 北壁土層断面（南から 5）



8 SX1 東壁土層断面（西から）



9 SX1 完掘状況（北東から）



10 作業風景 1



11 作業風景 2



12 作業風景 3

写真図版 2 平成 28 年度調査



1 1区 完掘状況（南東から）



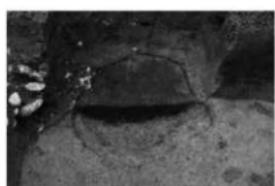
2 1区 北西壁土層断面（南東から）



3 1区 SK21 完掘状況（南西から）



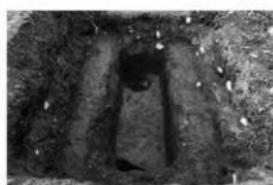
4 6区 完掘状況（東から）



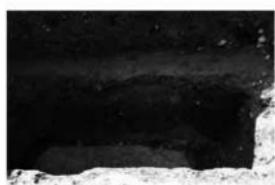
5 6区 SK19南北土層断面（南東から）



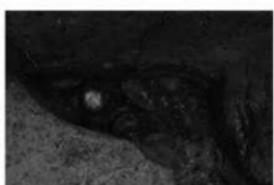
6 6区 SK19 完掘状況（南東から）



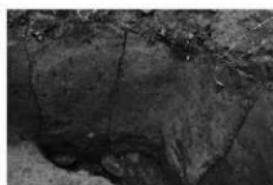
7 9区 完掘状況（南東から）



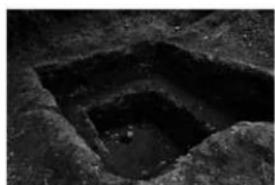
8 9区 南西壁断面（北東から）



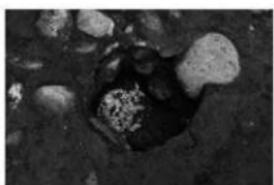
9 9区 P26・29 完掘状況（北西から）



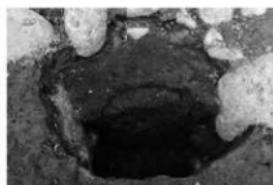
10 9区 P26・29 南東壁断面（北西から）



11 10区 完掘全景（西から）



12 10区 P5 完掘状況（南西から）



13 10区 P5 東西土層断面（南西から）

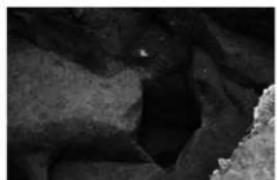


14 15区 完掘状況（南東から）

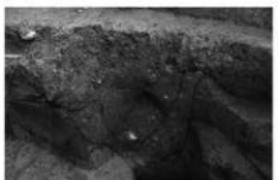


15 15区 東壁土層断面（西から）

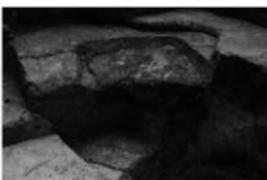
写真図版3 令和元年度調査(1)



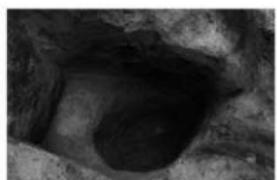
1 15 区 S09 完掘状況（南東から）



2 15 区 S09 南北土層断面（東から）



3 15 区 P17 東西土層断面（南から）



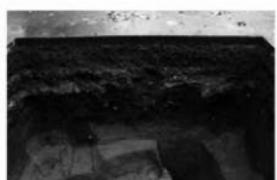
4 15 区 P30 完掘状況（南東から）



5 15 区 P30 東西土層断面（南東から）



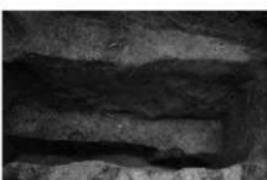
6 18 区 完掘状況（西から）



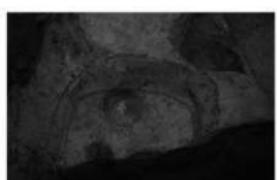
7 18 区 北壁土層断面（南から）



8 18 区 SA2 完掘状況（南西から）



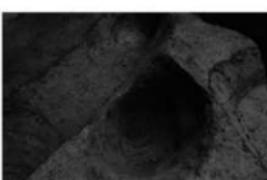
9 18 区 SA2 南北土層断面（西から）



10 18 区 SK16 完掘状況（南東から）



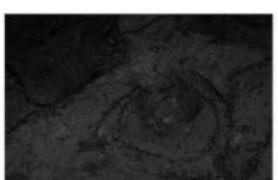
11 18 区 SK24-P25 東西土層断面（南から）



12 18 区 P8 完掘状況（南から）



13 18 区 P8 南北土層断面（西から）



14 18 区 P9 完掘状況（南から）



15 18 区 P9 南北土層断面（西から）

写真図版 4 令和元年度調査（2）



1 25区 完掘状況（北東から）



2 25区 北壁土層断面（南東から）



3 25区 南壁土層断面（北東から）



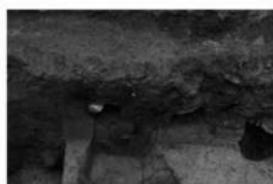
4 25区 SA1 完掘状況（北西から）



5 25区 SD11 南北土層断面（東から）



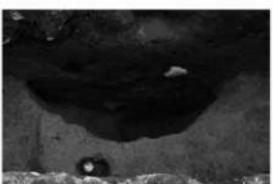
6 25区 SD6 完掘状況（南東から）



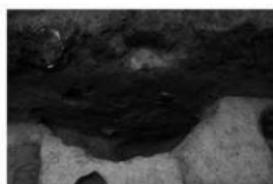
7 25区 SD6 北壁土層断面（南東から）



8 25区 SD11 完掘状況（南東から）



9 25区 SK20 完掘状況（北西から）



10 25区 SK20 南壁土層断面（北西から）



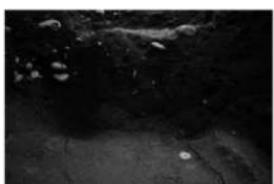
11 26区 南壁土層断面（北から）



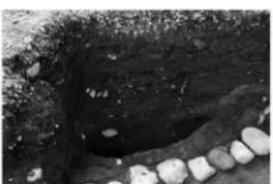
12 26区 SD7 植出状況（北東から）



13 26区 SD7 完掘状況（北東から）

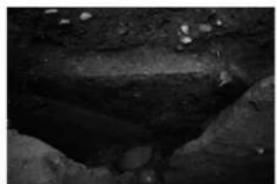


14 26区 SD7 東壁土層断面（南西から）



15 26区 SK22 植出状況（北から）

写真図版5 令和元年度調査(3)



1 26区 SK22 南壁土層断面（北から）



2 30区 完掘状況（北東から）



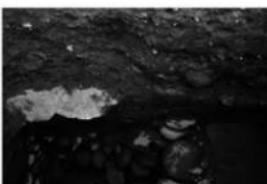
3 30区 南壁土層断面（北から）



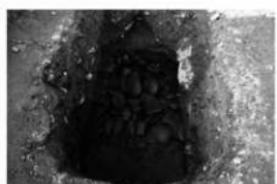
4 30区 SD8 完掘状況（北西から）



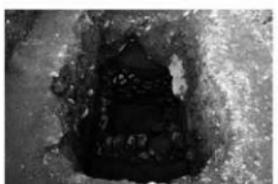
5 31区 西壁土層断面（北東から）



6 31区 東壁土層断面（南西から）



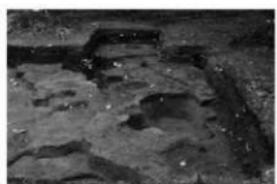
7 31区 SE1 梁出状況（南東から）



8 31区 SE1 完掘状況（南東から）



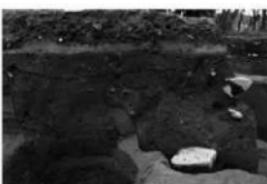
9 45区 III-2層梁出状況（北から）



10 45区 III-2層完掘状況（北から）



11 45区 南壁土層断面（北から1）



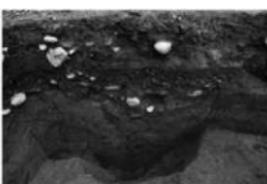
12 45区 南壁土層断面（北から2）



13 45区 東壁土層断面（西から1）



14 45区 東壁土層断面（西から2）



15 45区 西壁土層断面（東から1）

写真図版 6 令和元年度調査(4)



1 45 区 西壁土層断面（東から 2）



2 45 区 西壁土層断面（東から 3）



3 45 区 西壁土層断面（東から 4）



4 45 区 西壁土層断面（東から 5）



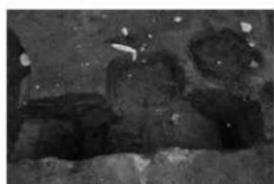
5 45 区 西壁土層断面（東から 6）



6 45 区 SD1 完掘状況（西から）



7 45 区 SD1 東西土層断面（北から）



8 45 区 SD2 完掘状況（西から）



9 45 区 SD2 東西土層断面（北から）



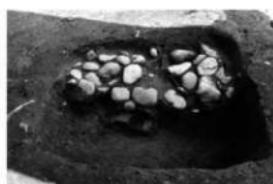
10 45 区 SD3 完掘状況（北から）



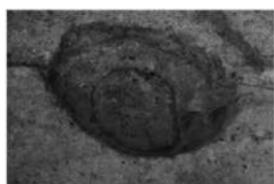
11 45 区 SD3 南北土層断面（東から）



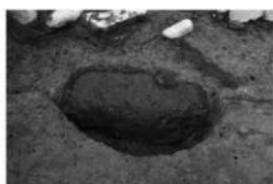
12 45 区 SK1 完掘状況（南から）



13 45 区 SK1 東西土層断面（南から）



14 45 区 SK2 完掘状況（東から）



15 45 区 SK2 南北土層断面（南から）

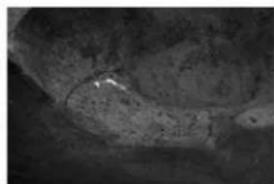
写真図版 7 令和元年度調査 (5)



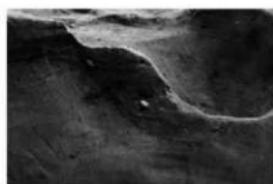
1 45 区 SK4 完掘状況（北東から）



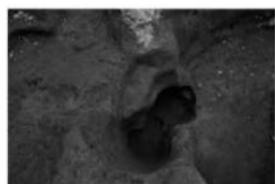
2 45 区 SK4 南北土層断面（北から）



3 45 区 SK5 完掘状況（西から）



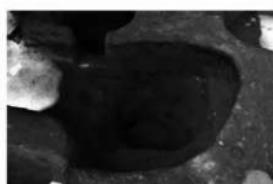
4 45 区 SK5 南北土層断面（西から）



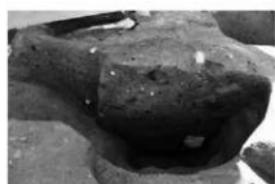
5 45 区 SK7 完掘状況（東から）



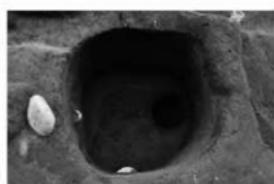
6 45 区 SK7 南北土層断面（北東から）



7 45 区 SK8 完掘状況（東から）



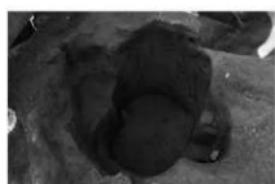
8 45 区 SK8 南北土層断面（東から）



9 45 区 SK9 完掘状況（西から）



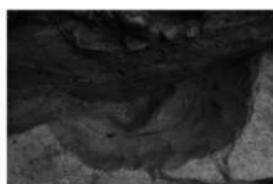
10 45 区 SK9 南北土層断面（南から）



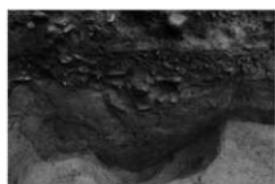
11 45 区 SK12 完掘状況（南東から）



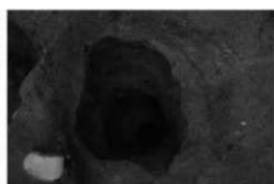
12 45 区 SK12 東西土層断面（南から）



13 45 区 SK23 完掘状況（東から）

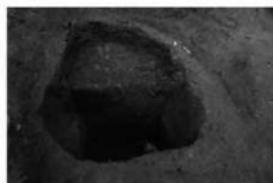


14 45 区 SK23-P23 南北土層断面（東から）



15 45 区 P1 完掘状況（東から）

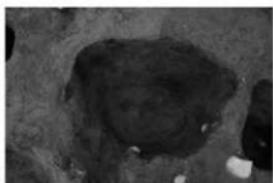
写真図版 8 令和元年度調査 (6)



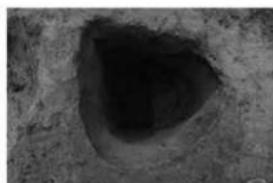
1 45区 P1 南北土層断面（東から）



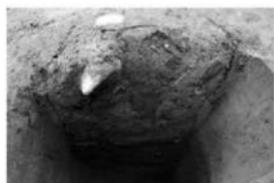
2 45区 P2 検出状況（東から）



3 45区 P2 完掘状況（東から）



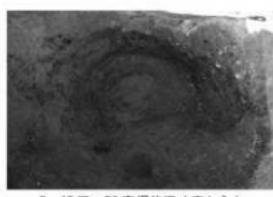
4 45区 P3 完掘状況（北から）



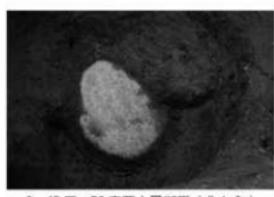
5 45区 P3 東西土層断面（北から）



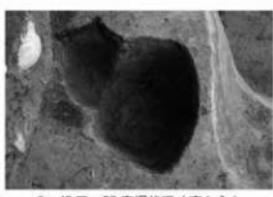
6 45区 P4 完掘状況（東から）



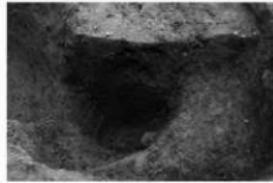
7 45区 P6 完掘状況（東から）



8 45区 P6 東西土層断面（北から）



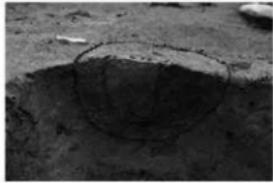
9 45区 P7 完掘状況（南から）



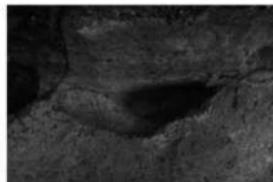
10 45区 P7 東西土層断面（南から）



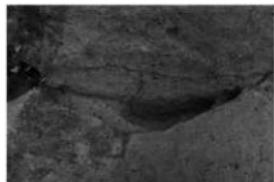
11 45区 P10 完掘状況（西から）



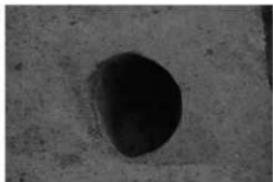
12 45区 P10 南北土層断面（西から）



13 45区 P18 完掘状況（東から）



14 45区 P18 南北土層断面（東から）



15 45区 P20 完掘状況（南から）

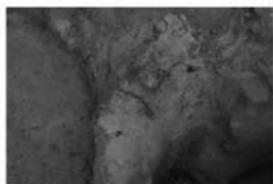
写真図版9 令和元年度調査(7)



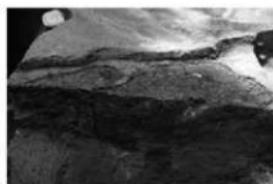
1 45 区 P34 完掘状況（西から）



2 45 区 P34 南北土層断面（東から）



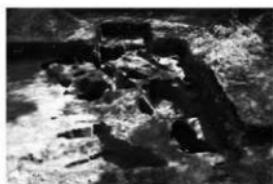
3 45 区 P35・36 完掘状況（東から）



4 45 区 P35・36 南北土層断面（東から）



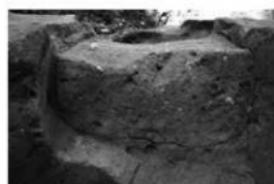
5 45 区 IV-1 層検出状況（北から）



6 45 区 IV-1 層完掘状況（北から）



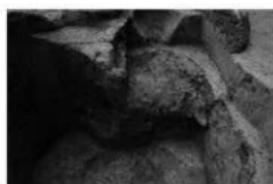
7 45 区 S05 完掘状況（東から）



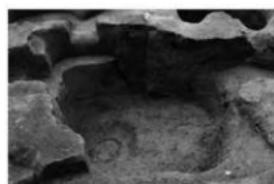
8 45 区 S05 東西土層断面（南から）



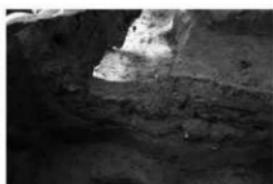
9 45 区 SK6 完掘状況（西から）



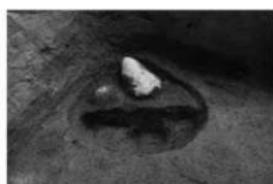
10 45 区 SK6 東西土層断面（北から）



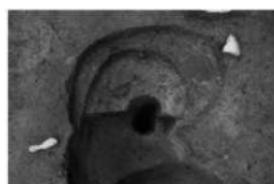
11 45 区 SK13 完掘状況（北から）



12 45 区 SK13 土層断面（北から）



13 45 区 P11 東西土層断面（西から）



14 45 区 P12 完掘状況（西から）



15 45 区 P12 東西土層断面（西から）

写真図版 10 令和元年度調査(8)



1 45 区 P13 完掘状況（西から）



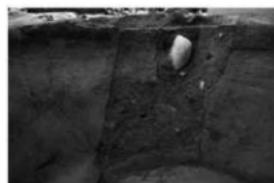
2 45 区 P13 南北土層断面（西から）



3 45 区 P31 完掘状況（北から）



4 45 区 P31 東西土層断面（北から1）



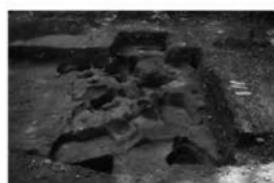
5 45 区 P31 東西土層断面（北から2）



6 45 区 IV-2 層棲出状況（北から）



7 45 区 IV-2 層完掘全景（北から）



8 45 区 VI層棲出状況（北から）



9 45 区 VI層完掘状況（北から）



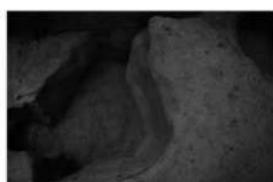
10 45 区 SD4 完掘状況（南から）



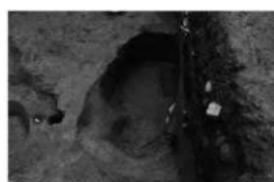
11 45 区 SD4 東西土層断面（南から）



12 45 区 SK14 南北土層断面（東から）



13 45 区 SK14 南北土層断面（西から）



14 45 区 SK15 完掘状況（南から）



15 45 区 SK15 南北土層断面（東から）

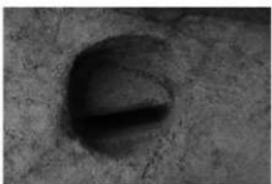
写真図版 11 令和元年度調査(9)



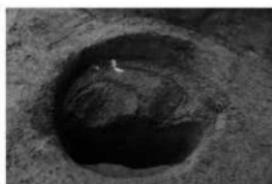
1 45 区 SK18 完掘状況（北西から）



2 45 区 SK18 東西土層断面（南から）



3 45 区 P15 完掘状況（西から）



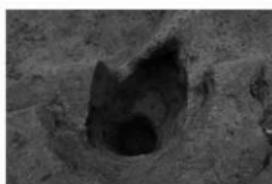
4 45 区 P15 東西土層断面（北から）



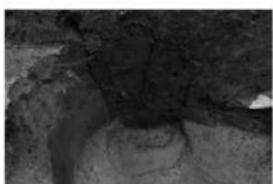
5 45 区 P19 完掘状況（東から）



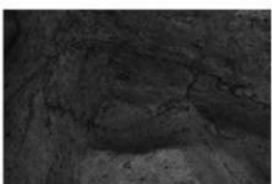
6 45 区 P19 南北土層断面（東から）



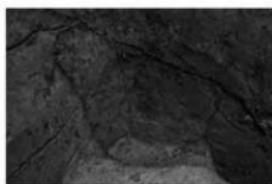
7 45 区 P21 完掘状況（西から）



8 45 区 P22 完掘状況（西から）



9 45 区 P23 完掘状況（東から）



10 45 区 P23 南北土層断面（東から）



11 45 区 P24 完掘状況（南から）



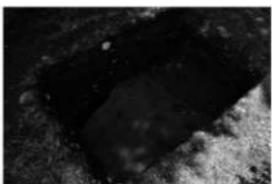
12 51 区 完掘状況（北西から）



13 51 区 北壁土層断面（南から）



14 51 区 SD12・13 完掘状況（南東から）



15 52 区 完掘状況（北東から）

写真図版 12 令和元年度調査 (10)



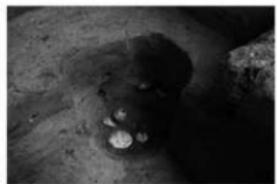
1 52区 東壁土層断面（西から）



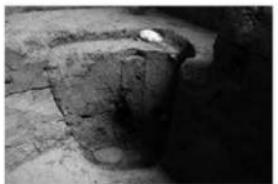
2 52区 SD1 完掘状況（北東から）



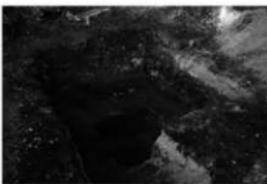
3 68区 完掘状況（南から）



4 68区 P27 完掘状況（北西から）



5 68区 P27 南北土層断面（北西から）



6 69区 完掘状況（南西から）



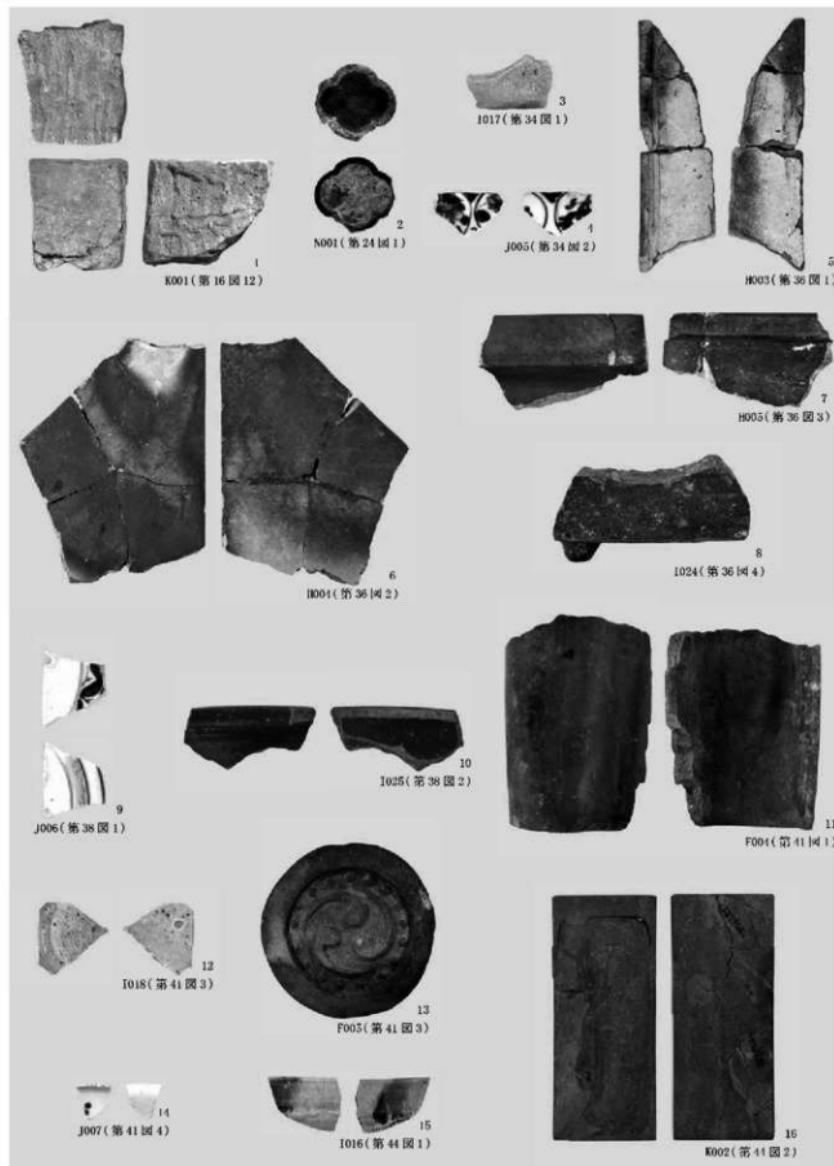
7 69区 P28 完掘状況（東から）



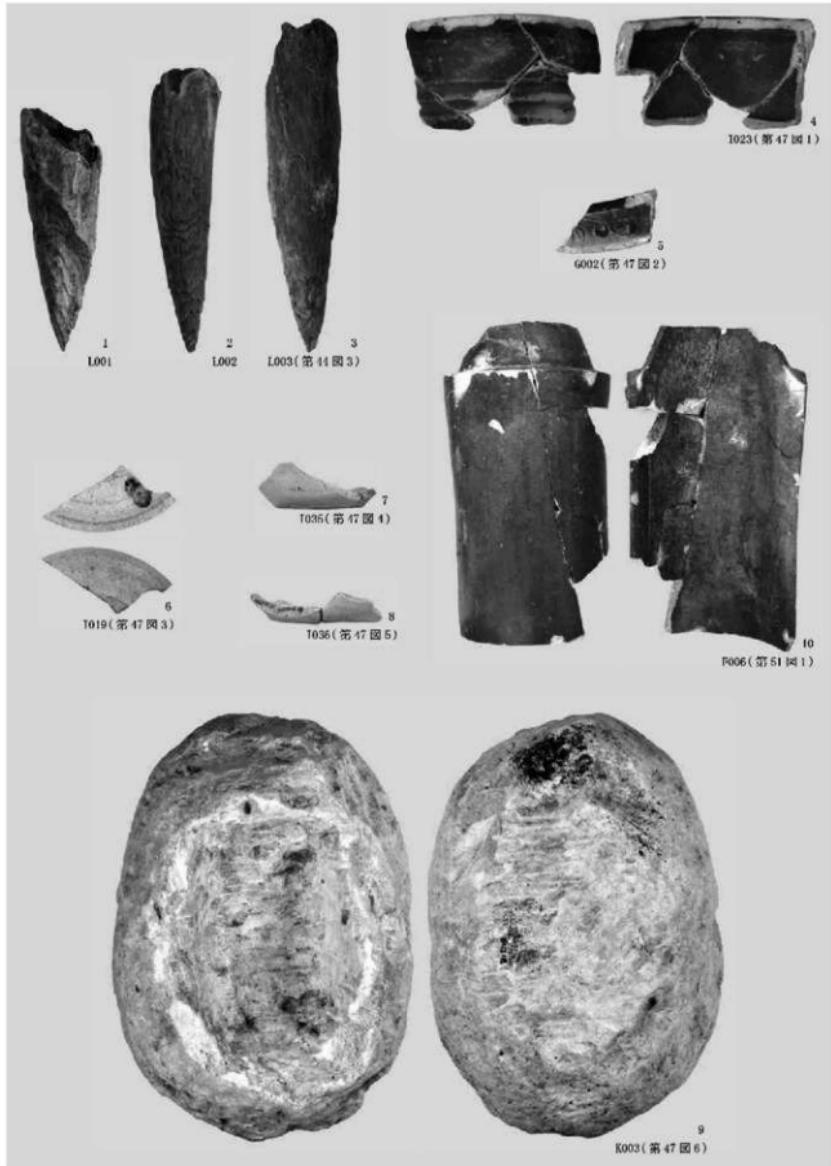
8 69区 P28 南北土層断面（東から）



写真図版 14 出土遺物 (1)



写真図版 15　出土遺物 (2)



写真図版 16 出土遺物 (3)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	さくらがおかこうえんいせき						
書名	桜ヶ岡公園遺跡						
副書名	第5次発掘調査報告書						
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第487集						
編著者名	高橋純平・小野寺純也・佐々木華子						
編集機関	仙台市教育委員会						
所在地	〒980-0811 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号 TEL022-214-8899						
発行年月日	2021年2月19日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (m ²)	発 挖 原 因
さくらがおかこうえんいせき 桜ヶ岡公園遺跡 (第5次)	宮城県 仙台市 青葉区 桜ヶ岡公園	04100 05162	38° 15' 44"	140° 51' 43"	20150608 ~ 20150708	132.92	記録保存調査
					20160704 ~ 20160727	47.18	
					20190626 ~ 20191129	695.00	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項		
桜ヶ岡公園遺跡	屋 敷 跡	近世～近代	柱列跡 土 坑 溝 跡 柱 穴 性格不明遺構	瓦 磁器・陶器 瓦質土器 土師質土器 金 屬 製 品 石 製 品 木 製 品	平成27・28年度調査では近代建築に関連する可能性がある遺構や近世の整地層を確認し、令和元年度調査では近世の整地層を確認した。		
要 約	桜ヶ岡公園遺跡は、宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園地内に所在する遺跡である。地下鉄東西線建設事業に伴って実施された試掘・確認調査によって近世の遺構が確認され、平成19（2007）年に登録された。今回実施した第5次発掘調査は西公園再整備事業に伴うものである。平成27・28年度、令和元年度の3か年にわたり調査を実施しており、平成27年度調査は桜岡大神宮南側の整備に伴うもの。平成28年度調査は公衆トイレ設置に伴うもの、令和元年度調査は市民プール跡地の整備に伴うものである。調査の結果、平成27年度調査では土坑2基、性格不明遺構11基、ビット2基、平成28年度調査では性格不明遺構1基、令和元年度調査では柱列跡2列、溝跡15条、井戸跡1基、土坑23基、性格不明遺構2基、ビット33基を確認した。遺物は瓦、陶磁器、瓦質土器、土師質土器、金属製品、石製品、木製品が出土している。						

仙台市文化財調査報告書 第487集

桜ヶ岡公園遺跡

—第5次発掘調査報告書—

2021年2月19日

発行 仙台市教育委員会

宮城県仙台市青葉区上杉1丁目5番12号

仙台市役所上杉分庁舎10階

文化財課 022(214)8899

印刷 株式会社東北プリント

宮城県仙台市青葉区立町24-24

022(263)1166
